

第三節 氣象

●南洋廳氣象觀測規程

昭和六年九月一日  
南洋廳訓令第三十五號

- 第一條 南洋廳長官ノ指定シタル官署ニ於テハ氣象觀測ヲ施行スヘシ
- 第二條 前條ノ觀測ヲ施行スル官署ニ觀測主任及觀測補助員各若干名ヲ置ク
- 觀測主任ハ上司ノ命ヲ承ケ觀測事務ニ從事シ觀測補助員ハ觀測主任ヲ補助スルモノトス
- 觀測主任、觀測補助員ハ當該官署ノ職員中ニ就キ官署長之ヲ命免ス
- 前項觀測主任及觀測補助員ノ異動ハ官署長ヨリ其ノ都度之ヲ南洋廳觀測所長ニ通知スヘシ
- 第三條 南洋廳觀測所長ハ隨時氣象觀測ニ關シ第一條ノ官署ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 氣象觀測ヲ施行スル官署長ハ南洋廳觀測所長ニ氣象報告ヲ提出スヘシ
- 第五條 觀測ノ方法設備並氣象報告ニ關シテハ南洋廳觀測所長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

- モートロツク公學校
- 秋島巡查駐在所
- 産業試驗場ボナベ分場
- キチー公學校
- メタラニウム公學校
- ウー公學校
- ボナベ醫院クサイ分院
- ジャポール公學校
- ウオツヂエ公學校
- クワゼリン公學校
- 〔ボナベ尋常小學校バルキール分教場〕

●南洋群島標準時ニ關スル件

昭和八年十二月二十八日  
南洋廳告示第四十二號

- 一 東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テバラオ及ヤツブ支廳管轄區域ノ標準時ト定メ之ヲ南洋群島西部標準時ト稱ス
- 二 東經百五十度ノ子午線ノ時ヲ以テサイパン及トラツク支廳管轄區域ノ標準時ト定メ之ヲ南洋群島中部標準時ト稱ス
- 三 東經百六十五度ノ子午線ノ時ヲ以テボナベ及ヤルト支廳管轄區域ノ標準時ト定メ之ヲ南洋群島東部標準時ト稱ス

●南洋廳氣象觀測規程第一條ノ

規定ニ依リ氣象觀測ヲ爲スヘ

キ官署ノ件 昭和六年十二月二十八日  
南洋廳告示第十九號

改正 昭和八年第三三號、九年第一七號、一〇年第一七號、一一年第二〇號

南洋廳氣象觀測規程第一條ニ依リ氣象觀測ヲ施行スヘキ官署ヲ左ノ通指

- 定ス
- 産業試驗場サイパン分場
- テニアン尋常高等小學校
- ロタ公學校
- ニフ公學校
- マキ公學校
- ヤツブ支廳ヤツブ巡查駐在所
- マルキヨク公學校
- ガラルド公學校
- ベリリユー公學校
- アソガウル公學校
- バラオ支廳アルモノグイ巡查駐在所
- 月曜島公學校
- 水曜島公學校
- 春島公學校
- 多島公學校



# 第十二章 社會



第十二章 社會

●關東州及南滿洲鐵道附屬地並  
二南洋群島ニ於ケル入營者職  
業保障ニ關スル件

昭和六年十月三十一日  
勅令第二百六十三號

關東州及南滿洲鐵道附屬地並ニ南洋群島ニ於ケル入營者ノ職業保證ニ關シテハ入營者職業保障法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東廳令、南洋群島ニ在リテハ南洋廳令トス

附則

本令ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●入營者職業保障法

昭和六年四月二日  
法律第五十七號

第一條 何人ト雖モ被備者ヲ求メ又ハ求職者ノ採否ヲ決スル場合ニ於テ入營(應召ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ命ゼラレタル者又ハ入營ヲ命ゼラルルコトアルベキ者ニ對シ其ノ故ヲ以テ不利益ナル取扱ヲ爲スベカラズ

第二條 雇傭者ハ入營ヲ命ゼラレタル被備者ヲ解雇シタルトキ又ハ被備者ノ入營中雇傭期間ノ滿了シタルトキハ其ノ者ガ退營(入營ノ際行フ身體検査ノ結果歸郷ヲ命ゼラレタル場合ヲ含ム)シタル日ヨリ三月以

内ニ更ニ之ヲ雇傭スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ニ掲グル事由ノ一ニ該當シタルニ因リ解雇シ又ハ現ニ左ノ各號ニ掲グル事由ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 被備者ガ入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ
- 二 被備者ガ第二項ニ規定スル通知ヲ爲サズ又ハ雇傭者ヨリ同項ニ規定スル通知ニ於テ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ故ナク二十日以内ニ勞務ニ就カザルトキ
- 三 被備者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ勞務ニ堪ヘザルトキ
- 四 被備者ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルトキ
- 五 被備者ニ著シキ不良行為アリタルトキ
- 六 雇傭ノ目的タル事業ノ廢止、終了又ハ著シキ整理縮少其ノ他之ニ準ズル事由アルトキ

雇傭者及被備者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ規定スル雇傭ニ關シ必要ナル事項ヲ相互ニ通知スルコトヲ要ス

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ退營者ヲ雇傭スル場合ニ於テ之ニ與フベキ勞務及給與ハ其ノ者ノ入營直前ノ勞務及給與ト同等ノモノナルコトヲ要ス但シ被備者ガ勞務又ハ傷痍ニ因リ入營直前ノ勞務ニ堪ヘザルトキ其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ之ト異ル勞務及給與ヲ與フルコトヲ妨ゲズ

第六百二十八條ノ規定ニ依リ解雇スルコトヲ得ズ



第四條 前二條ノ規定ハ入營ヲ命セラレタル被備者ガ解雇セラレザル場合ニ於ケル退營後ノ復職及取扱ニ付テ之ヲ準用ス

第六條 當該官吏又ハ公吏ハ前四條ノ規定ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當事者ニ對シ勸解ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和六年十月勅令第二百六十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

●入營者職業保障法施行規則

昭和六年十二月二十八日 南洋廳令第十六號

南洋群島ニ於ケル入營者職業保障法施行規則左ノ通定ム

第一條 被備者(入營者職業保障法ノ適用アル被備者ヲ謂フ以下之ニ同ジ)ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

二 入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ

第二條 被備者ハ退營豫定期日前三月ヨリ退營後二十日以内(入營又ハ應召ノ際行フ身體検査ノ結果歸郷ヲ命セラレタル者並ニ臨時ニ退營ヲ命セラレタル者ニ在リテハ退營後二十日以内)ニ左ノ事項ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

第三條 被備者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ履備者ヨリ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ二十日以内ニ勞務ニ就クコト能ハザルトキハ速ニ其ノ事由ノ要旨ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

四 本人ト同一戸籍又ハ同一世帯内ニ在ル者重態ニシテ他ニ看護ヲ爲ス者ナキトキ

五 本人ノ住家ノ火災、流失又ハ倒壊其ノ他重大ナル災害ヲ蒙リ他ニ移始末ヲ爲ス者ナキトキ

第六條 履備者ハ第二條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

一 再ビ勞務ニ就カシメ得ベキ期日

第五條 履備者ハ入營者職業保障法第二條第一項第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ被備者ヲ解雇シタルトキ又ハ被備者ヲ再履備シ若ハ復職セシメ得ザルトキハ遲滞ナク其ノ事由ノ要旨ヲ書面ヲ以テ被備者ニ通知スベシ

第六條 履備者ハ所轄支廳長ニ對シ遲滞ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ届出ツベシ

第七條 履備者又ハ被備者ニシテ入營者職業保障法第六條ノ規定ニ依リ勸解ヲ求メムトスル者ハ履備者ノ住所地所轄支廳長ニ書面又ハ口頭ヲ以テ申出ツベシ

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ施行ス

●南洋群島ニ於ケル傷病兵、其ノ家族若ハ遺族又ハ下士官兵ノ家族若ハ遺族ノ扶助ニ關シ

●軍事扶助法ニ依ルノ件

昭和十二年六月二十三日 勅令第二百七十七號

南洋群島ニ於ケル傷病兵、其ノ家族若ハ遺族又ハ下士官兵ノ家族若ハ遺族ノ扶助ニ關シテハ軍事扶助法ニ依ル

本令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●軍事扶助法

大正六年七月二十日 法律第一號

第一條 傷病兵、其ノ家族若ハ遺族又ハ下士官兵ノ家族若ハ遺族ハ本法ニ依リ之ヲ扶助ス



應召中ニ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレタル者

第三條 本法ニ於テ下士官兵又ハ傷病兵ノ家族ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士官兵又ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル
- 二 前號ニ掲グル者ヲ除クノ外陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士官兵又ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受ケベキ者ニシテ現役兵ノ入營シタル時、下士官兵ノ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者
- 三 前二項ニ掲グル者ヲ除クノ外陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士官兵又ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受ケベキ者ニシテ現役兵ノ入營シタル時、下士官兵ノ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時之ニ同一ノ世帯ニ在リ且引續キ其ノ世帯ニ在ルモノ

前項各號ノ陸海軍現役兵ニハ未入營現役兵及歸休兵ヲ包含セス

第四條 本法ニ於テ下士官兵又ハ傷病兵ノ遺族ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 戰死シタル陸海軍下士官兵又ハ第二條各號ノ傷病者ハ疾病ノ爲死致シタル陸海軍下士官兵若ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ下士官兵又ハ傷病兵カ死亡ノ時屬シタル家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル
- 二 前號ニ掲グル者ヲ除クノ外戰死シタル陸海軍下士官兵又ハ第二條各號ノ傷病者ハ疾病ノ爲死致シタル陸海軍下士官兵若ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ下士官兵又ハ傷病兵カ死亡ノ時屬シタル陸海軍下士官兵若ハ傷病兵ニ依

リ扶養ヲ受ケヘキ者ニシテ下士官兵ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

- 三 前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外戰死シタル陸海軍下士官兵又ハ第二條各號ノ傷病者ハ疾病ノ爲死致シタル陸海軍下士官兵若ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受ケベキ者ニシテ下士官兵ノ入營若ハ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時之ト同一ノ世帯ニ在リ且引續キ其ノ世帯ニ在ルモノ

第五條 扶助ハ現役兵ノ入營、下士官兵ノ應召傷病若ハ死亡又ハ傷病兵ノ死亡ノ爲生活スルコト困難ナル者ニ對シテノミ之ヲ爲ス

- 第六條 扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第七條 扶助ノ種類ハ生活扶助、醫療、助産及生業扶助トス
- 第八條 扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 扶助ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得
- 第十條 傷病兵六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ者並其ノ家族及遺族ニ對シ扶助ヲ爲サス
- 第十一條 下士官兵又ハ傷病兵六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケタルコトナキニ至ル迄ノ間其ノ傷病兵及其ノ下士官兵又ハ傷病兵ノ家族ニ對シ扶助ヲ爲サス

第十二條 下士官兵又ハ傷病兵ノ家族又ハ遺族六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サス六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行

ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケタルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

第十一條 下士官兵ニシテ逃亡シ又ハ陸軍教化隊ニ收容セラレタル者ニ付テハ其ノ逃亡又ハ收容ノ間其ノ家族ニ對シ扶助ヲ爲サス

第十二條 下士官兵又ハ傷病兵ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ付テハ其ノ傷病兵並其ノ下士官兵又ハ傷病兵ノ家族及遺族ニ對シ情狀ニ因リ扶助ヲ爲サス又ハ扶助ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

第十三條 傷病兵ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ニ對シテハ扶助ヲ爲サス

第十四條 下士官兵又ハ傷病兵ノ家族ニ對スル扶助ハ必要アル場合ニ於テハ現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除後仍二十日以内之ヲ繼續スルコトヲ得

第十五條 下士官兵ノ家族ニ對スル扶助ハ下士官兵ノ傷病兵トナリタル後仍三月内之ヲ繼續スルコトヲ得

第十六條 本法ニ依リ扶助ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助ニ非サルモノト看做ス

### ●軍事扶助法施行令

昭和六年十二月八日  
勅令第二百八十四號

- 第一條 扶助ハ扶助ヲ受ケントスル者ノ住所地方長官之ヲ行フ
- 第二條 扶助ハ扶助ヲ受ケタル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ
- 第三條 扶助ヲ受ケントスル者ハ地方長官ニ出願スベシ但シ地方長官必要アリト認ムルトキハ其ノ出願ナキ場合ト雖モ扶助ヲ行フコトヲ得
- 第四條 扶助ノ程度及方法ハ地方長官之ヲ決定ス
- 第五條 扶助ヲ受ケタル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ

第十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル扶助金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第十八條 本法ニ依リ扶助金品ハ既ニ給與ヲ受ケタルト否トニ拘ラス之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十九條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



地方長官居宅扶助ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ適當ナラズト認ムルトキハ扶助ヲ受クル者ヲ適當ナル施設ニ收容シ又ハ收容ヲ委託シテ扶助スルコトヲ得

第二條 生活扶助ハ金錢又ハ物品ノ給與ニ依リ之ヲ行フ  
第二條ノ二 生業扶助ハ生業ニ必要ナル資金、器具、資料ノ給與若ハ貸與ヲ爲シ又ハ生業ニ必要ナル技能ヲ授クルコトニ依リ之ヲ行フ

第二條ノ三 居宅扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ハ一人一日三十五錢以内トス  
一世帯ニ於テ扶助ヲ受クル者二人以上アルトキハ前項ノ費用ハ之ヲ減額スルコトヲ得

第三條 居宅扶助ノ場合ニ於テ醫療及生業扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ地方長官内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第四條 居宅扶助ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス  
第四條ノ二 第一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル收容扶助ノ場合ニ於テ扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ地方長官内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第五條 埋葬ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス  
扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキハ扶助ヲ行ヒタル地方長官ニ於テ埋葬ヲ行フベシ

第六條 災害ニ因リ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ一世帯總額三十圓ヲ限リ生活扶助ノ爲金錢若ハ物品ヲ臨時給與シ又ハ之ヲ併セ給與スルコトヲ得

第七條 生活扶助ノ爲給與スル金錢又ハ物品ハ三月分以内ヲ限リ之ヲ前渡スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和六年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
従前ノ規定ニ依リ爲シタル扶助又ハ扶助若ハ審査ノ出願ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附則

本令ハ昭和十二年法律第二十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

扶助ノ廢止、停止又ハ變更ノ場合ニ於テ被扶助者已ムヲ得ザル事由ニ因リ前渡シタル金錢又ハ物品ヲ費消シ又ハ喪失シ且返還ノ資力ナキトキハ之ヲ返還セシメザルコトヲ得

扶助ノ廢止、停止又ハ變更ノ場合ニ於テ前渡シタル金錢又ハ物品中返還セシムベキモノニ付テハ之ニ相當スル額ヲ後ニ給與スベキモノヨリ減ズルコトヲ得

第八條 削除  
第九條 扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ハ地方長官之ヲ行フ

第十條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ  
第二條ノ三第一項、第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ニ依ル金額ヲ増加スルコトヲ得

第十一條 扶助ヲ拒マレタル者又ハ扶助ヲ廢シ若ハ停止セラレタル者ハ六十日以内ニ内務大臣ニ對シ更ニ審査ヲ出願スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル出願ハ文書ヲ以テシ處分ヲ爲シタル地方長官ヲ經由シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋羣島ニ在リテハ本令中内務大臣ハ職務ハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、滿洲國駐劄特命全權大使又ハ南洋廳長官、地方長官ノ職務ハ朝鮮總督府道知事、臺灣總督府州知事若ハ廳長、樺太廳支廳長、關東州廳長官又ハ南洋廳支廳長之ヲ行フ



本節之內容係根據一九三六年之調查資料而編纂之。其內容之詳盡程度，與前章之內容，大致相同。茲將本節之內容，分述於後。

一、總論

二、本國之產業

三、外國之產業

四、產業之發展

五、產業之政策

六、產業之展望

七、附錄

八、索引

九、圖表

十、參考文獻

十一、其他

# 第十三章 產業



第十三章 農業

第一節 農業

●農産獎勵規則

昭和八年六月一日  
南洋廳令第十號

第一條 鳳梨、果樹、珈琲、カカオ、蔬菜其ノ他ノ農作物ヲ栽培シ又ハ其ノ改良ヲ圖ル者ニシテ支廳長ニ於テ適當ナリト認ムル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付ス

第二條 獎勵金ヲ下付スヘキ場合及金額左ノ如シ

- 一 鳳梨、果樹又ハ珈琲、カカオ其ノ他ノ特用作物ノ栽培ヲ目的トシ一箇年一段歩以上ヲ開墾スル場合ハ一段歩ニ付六圓以内
- 二 鳳梨、果樹又ハ珈琲、カカオ其ノ他ノ特用作物ヲ一段歩以上新植スル場合ハ一段歩ニ付三圓以内
- 三 鳳梨、果樹又ハ珈琲、カカオ其ノ他ノ特用作物ノ苗圃ヲ一畝歩以上設置スル場合ハ其ノ經費ノ六割以内
- 四 鳳梨、果樹又ハ珈琲、カカオ其ノ他ノ特用作物ノ栽培ヲ目的トシ土地改良施設ヲ爲ス場合ハ其ノ經費ノ六割以内
- 五 品種ノ改良ヲ圖ル爲鳳梨、果樹又ハ珈琲、カカオ其ノ他ノ特用作物ノ優良種苗ヲ輸入又ハ移入スル場合ハ其ノ經費ノ全額以内
- 六 五種以上ノ蔬菜ヲ栽培シ支廳長ノ指定スル數量ヲ生産スル場合ハ其ノ生産量一貫ニ付十錢以内

支廳長ハ前項ノ外必要アリト認ムルトキハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

第三條 獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ様式第一號ニ依リ毎年三月末日限り所轄支廳長ニ願出ツヘシ

第四條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ハ支廳長ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ事業計畫ヲ變更シ又ハ事業ヲ中止若ハ廢止スルコトヲ得ス

第五條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者事業終了シタルトキハ様式第二號ニ依リ遲滞ナク其ノ成績ヲ所轄支廳長ニ届出ツヘシ但シ第二條第三號乃至第五號ニ該當スル獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ收支決算書ヲ添附スヘシ

第六條 支廳長ハ獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ農産獎勵上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第七條 第四條又ハ前條ニ依リ發スル命令ニ違反シ又ハ事業成績不良ト認ムルトキハ支廳長ハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ減額シ又ハ既ニ下付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第三條ノ出願期日ハ昭和八年七月三十一日迄トス

様式第一號ノ一(耕地開墾)

農産獎勵金下付願

一 開墾地名 何島何村何 官有貸下地(私有地)(島民有借地)

一 開墾後栽培スヘキ作物ノ種類及品種名

一 開墾段別 何町何段何畝歩

一 施行期間 年 月 日著手



右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一新植地 名 何島何々
- 一新植作物栽培面積 何町何段何畝歩
- 一新植作物種類名稱 何々
- 一施行豫定期間 年月 日新植

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一新植地 名 何島何々
- 一新植作物栽培面積 何町何段何畝歩
- 一新植作物種類名稱 何々
- 一施行豫定期間 年月 日新植

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一 設計書
- 一 施行方法 (機械器具ノ裝置ヲ要スルトキハ其ノ種類名稱及代價等記載ヲ要ス)
- 二 豫算
- 三 竣功期限
- 四 竣功後ニ於ケル管理ノ方法
- 五 其ノ他必要ナル事項

右ノ通ニ候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一 種苗輸入(移入)ノ目的 何々
- 一 種苗輸入(移入)ノ種類 何々數量何々產地何々
- 一 輸入(移入)ノ時期 年月 日
- 一 輸入(移入)ノ方法 何々
- 一 輸入(移入)ニ要スル經費見積額(種苗運搬費其他)

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一 種類並品種別面積 何種何町何段何畝歩
- 一 種苗ノ生産地名 何島何々
- 一 播種時期、耕作管理ノ方法 年月 日何々
- 一 採苗並撰擇消毒ノ方法 何々
- 一 種類並品種別生産見込量 何種何々
- 一 採苗時期及處分方法 年月 日何々
- 一 收支豫算 額 何々

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一 土地改良施行地名 何島何々官有貸下地(私有地)(島民有借地)
- 一 土地改良施行地ノ面積 何町何段何畝歩
- 一 土地改良施行期間 年月 日著手
- 一 土地改良施行日終了

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度別紙設計書及略圖相添ヘ此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願

- 一 栽培地名 何島何々
- 一 栽培地面積 何町何段何畝歩
- 一 蔬菜ノ種類及生産豫定數量
- 一 種類 生産豫定數量 金額 摘要

右農産獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年 月 日 住所 氏 名

何支廳長殿

農産獎勵金下付願



- 一 新植(開墾)面積 何町何段何畝歩
- 一 栽培作物種類名稱 何々(種類並品種別面積ヲ記入ノコト)
- 一 施行 期間 年月 日新植(開墾)著手 年月 日終了

右農産獎勵規則ニ依リ及届出候也

住所

氏

名

何支廳長殿

様式第二號ノ二

苗圃設置終了届

- 一 指令年月日及番號
- 一 苗圃ノ位置 何島何々
- 一 種類並品種別面積 何町何段何畝歩
- 一 種類並品種別生産數量 何種何々
- 一 施行 期間 年月 日著手 年月 日採苗
- 一 生産 苗ノ處置 何々

右農産獎勵規則ニ依リ及届出候也

住所

氏

名

年月日

何支廳長殿  
備考 收支決算書添附ヲ要ス

様式第二號ノ三

土地改良終了届

- 一 指令年月日及番號
- 一 地 名 何島何々官有貸下地(私有地)(島民有借地)
- 一 面積 積 何町何段何畝歩
- 一 竣工 面積 年月 日竣工
- 一 施行 期間 年月 日著手

右農産獎勵規則ニ依リ及届出候也

住所

氏

名

何支廳長殿

備考 收支決算書添附ヲ要ス

様式第二號ノ四

種苗輸入届

- 一 指令年月日及番號
- 一 輸入 年月日 年月日
- 一 種類何々 數量何々 産地何々

●椰子栽培獎勵規則

改正 昭和六年五月南洋廳令第二號  
南洋廳令第十九號

- 一 輸入成績
- 一 輸入種苗植付地名 何島何々

住所

氏

名

年月日

備考 輸入ニ要スル經費(種苗運搬費其ノ他詳細)調書添附ヲ要ス

様式第二號ノ五

蔬菜生産届

- 一 指令年月日及番號
- 一 蔬菜栽培地名及面積 何島何々 何町何段何畝歩
- 一 蔬菜ノ種類面積及生産數量
- 一 種類 栽培延面積 生産數量 金額 摘要

備考 摘要欄ニハ作付回数別ニ播種期及收穫期ヲ記入スヘシ  
右農産獎勵規則ニ依リ及届出候也

住所

氏

名

年月日

何支廳長殿



令ヲ發スルコトヲ得

第七條 第五條又ハ第六條ニ依リ發スル命令ニ違反シ若ハ成績不良ト認ムルトキハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ一部若ハ全部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第三條ノ獎勵金下付出願期限ハ十月三十一日迄トス

第一號様式

椰子栽培獎勵金下付願

- 一 所 在 地 何島何村字何(官有貸下地、私有地、島民有借地)
- 一 種 類 何々
- 一 新植(整理)面積 何町步
- 一 新植樹數及其ノ方法(整理方法) (間伐何本、補植何本、雜草木刈除一町步ニ付何本ニ整理シ總樹數何本)
- 一 施業期間 (年月日雜草荊蕪刈拂間伐補植著手年月日終了)
- 一 經費又ハ所要ノ人夫數

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年月日 住所 氏 名印

備考

借地ニ在リテハ其ノ權利ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第二號様式

椰子新植(整理)終了届

- 一 指今年月日及番號
- 一 所 在 地 何島何村字何(官有貸下地、私有地、島民有借地)
- 一 種 類 何々
- 一 新植(整理)面積 何町步
- 一 新植樹數及其ノ方法(整理方法) (間伐何本、補植何本、雜草荊蕪刈拂一町步ニ付何本ニ整理シ總樹數何本)
- 一 施業期間 (年月日雜草荊蕪刈拂間伐補植著手年月日終了)

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ及届出候也

年月日 住所 氏 名印

第三號様式

コブラ乾燥場建築獎勵金下付願

- 一 所 在 地 何島何村字何(官有貸下地、私有地、島民有借地)

- 一 建築 坪 何坪
- 一 經費豫算、構造、仕様、圖面 別紙記載ノ通
- 一 工事著手及竣工 年月 日著手 年月 日竣工

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年月日 住所 氏 名印

第四號様式

コブラ乾燥場建築終了届

- 一 指今年月日及番號
- 一 所 在 地 何島何村字何(官有貸下地、私有地、島民有借地)
- 一 建築 坪 何坪
- 一 經費決算、工事、竣工圖面 別紙記載ノ通
- 一 工事著手及竣工 年月 日著手 年月 日竣工

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ及届出候也

年月日 住所 氏 名印

種類	面積	獎勵金額	事由	出願者氏名
新植(整理)	何町步	何圓	何	某
計				

一 椰子栽培獎勵規則(以下單ニ規則ト稱ス)第三條ニ依リ獎勵金下付ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ内容ヲ調査シ適當ト認ムル者ニ對シ規則及配付豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵ノ目的ヲ達スル爲メ必要ト認ムル限度ニ於テ適宜金額ヲ決定シ獎勵金下付ノ指令ヲ發スルコト

二 規則第四條ノ届書ヲ受理シタルトキハ實地調査ヲ爲シ其ノ正確ナルヲ認メタル上獎勵金ヲ交付スルコト若シ獎勵金下付願ニ記載ノ豫定事業ヲ實行セサル場合ニハ其ノ限度ニ於テ獎勵金ヲ減額スルコト

三 毎年四月末日限リ別記様式ニ依リ獎勵金下付ノ願末ヲ報告スルコト

四 第六條ニヨリ命令ヲ發シタルトキハ報告スルコト

五 獎勵金ヲ下付シタル者ニ對シテハ規則第五條ノ義務ヲ實行スルヤ否ヤニツキ監視ヲ怠ラス若シ實行充分ナラサル者アル時ハ先ツ警告ヲ與ヘ尙其ノ命令ニ從ハサルトキハ規則第七條ニヨリ相當ノ處置ヲ爲スコト



### ●南洋群島輸出入植物取締規則

昭和八年十月二十四日  
南洋廳令第十五號

改正 昭和十二年第五號

- 第一條 植物ヲ輸入、移入、輸出又ハ移出セムトスル者ハ其ノ植物及其ノ容器、包装ニ使用シタル物ニ付植物検査官吏ノ検査ヲ受クヘシ
- 前項ノ規定ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル物ハ之ヲ收受スルコトヲ得ス
- 第二條 前條第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキ植物左ノ如シ
  - 一 輸入又ハ移入スル植物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
  - 一 植物、其ノ部分、種子及求根類ニシテ栽植培養ノ用ニ供スルモノ
  - 一 甘蔗
- 一 第二十五號但書ノ許可ヲ受ケタルモノ
- 二 輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ検査證明ヲ必要トスルモノ
- 三 移出スル西瓜、メロン、甜瓜、鳳梨並茄子科、荳科、穀斗科ニ屬スル植物ノ生果實

- 第六條 第二條第一號ノ植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ植物ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滞ナク第一號様式ノ書面ヲ以テ海港所轄支廳ニ検査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ旅客ノ携帶ニ係ルモノニ付テハ口頭ヲ以テ植物検査官吏、植物検査官吏現場ニ在ラサルトキハ關稅検査官吏ニ申請ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 第二條第二號乃至第三號ノ植物ヲ輸出又ハ移出スル者ハ其ノ植物ヲ積載スル船舶ノ出港期日五日前第二號様式ノ書面ヲ以テ海港所轄支廳ニ検査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ其ノ後ノ申請ト雖受理スルコトアルヘシ
- 第八條 植物検査官吏第三條ニ依リ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ検査ヲ受クヘキ物ノ管理者ニ豫メ其ノ旨ヲ通告スヘシ但シ急施ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 第四條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第三號様式ノ申請書ヲ所轄支廳ヲ經由シテ南洋廳長官ニ差出スヘシ
- 第十條 病菌又ハ害蟲ハ通常郵便ニ依リ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス
- 前項ノ規定ニ違反シタル郵便物ヲ受ケタル者ハ其ノ郵便物ヲ添へ遲滞ナク其ノ旨ヲ海港所轄支廳ニ届出ツヘシ
- 第十一條 病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ病菌又ハ害蟲ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滞ナク第四號様式ノ書面ヲ以テ海港所轄支廳ニ検査ノ申請ヲ爲スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ植物検査官吏期間ヲ指定シテ第四條ニ依ル許可書又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命シタルトキハ申請人ハ其ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ

シ

- 第十二條 植物検査官吏ハ第六條又ハ前條第一項ノ申請前ト雖検査ヲ爲スコトヲ得
- 第八條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第十三條 第六條、第七條若ハ第十一條第一項ノ申請ヲ爲シタル者又ハ第八條若ハ前條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者ハ植物検査官吏ノ指揮ニ從ヒ検査ヲ受クヘキ物又ハ受ケタル物ノ運搬、荷造、荷解其ノ他ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第十四條 第二條第一號ノ植物ヲ包容スル通常郵便物ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク第五號様式ノ検査申請書ト共ニ其ノ郵便物ヲ海港所轄支廳ニ差出スヘシ但シ第十九條ノ證票又ハ證印アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 本令ニ依リ検査ヲ受クヘキ植物ハ植物検査品ナル文字ヲ明瞭ニ表示シタルモノニ非サレハ小包郵便ニ依リ之ヲ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ移入スルコトヲ得ス
- 第十條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル小包郵便物ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス
- 第十六條 特ニ指定シタル郵便局ハ本令ニ依リ検査ヲ受クヘキ物ヲ包容スル小包郵便ノ受付又ハ送送ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ海港所轄支廳ニ通知スヘシ
- 前項郵便物ノ検査ハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ
- 第十七條 第十一條第二項ノ規定ハ小包郵便ニ依リ病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入スル場合ニ於テ其ノ名宛人ニ付之ヲ準用ス

第十八條

- 第十八條 輸出又ハ移出地ノ官憲ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附着セサルコトヲ證明シタル検査證ヲ有スル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ旨ヲ海港所轄支廳ニ届出ツヘシ第六條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 前項ノ検査證ヲ有スル植物ニ付テハ輸入又ハ移入ノ検査ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 第十九條 植物検査官吏検査ノ結果取締上支障ナシト認ムルトキハ輸入、移入又ハ移出スルモノニ在リテハ第六號様式甲號ノ證票又ハ證印ヲ附シ、輸出スルモノニ在リテハ第七號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ但シ第二條第一項第三號ノ植物ノ移出ニ在リテハ第六號様式乙號ノ證票及證印ヲ附スヘシ
- 植物検査官吏前條第二項ノ規定ニ依リ検査ヲ省略シタルトキハ第八號様式ノ證票又ハ證印ヲ附スヘシ
- 第二十條 關稅検査官吏、警察官吏第二十六條ノ處分ヲ爲シタルトキ其ノ旨ヲ植物検査官吏ニ通知スヘシ
- 第二十一條 植物検査官吏ハ其ノ職務執行ノ際第九號様式ノ證票ヲ携帶スヘシ
- 第二十二條 植物検査官吏ハ検査ノ結果病菌又ハ害蟲附着スト認メタル植物其ノ他ノ物ヲ消毒又ハ燒棄シ、其ノ輸入、移入、輸出又ハ移出ヲ禁止シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ當事者ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第二十三條 植物検査官吏植物其ノ他ノ物ヲ燒棄、埋没若ハ著シク毀損シ又ハ其ノ輸入、移入、輸出若ハ移出ヲ禁止スルトキハ第六條、第七







積載船舶ノ船籍、船種、船名	出港月日	記號	積載月日	積載港名	陸揚港名	陸揚豫定月日	輸入國政府ノ輸入(移入)地官憲ノ移入(移入)許可年月日及番號	荷送人住所氏名	荷受人住所氏名	欄數

植	物	種	類	數量	價額	產地	生産者住所氏名

備考

- 一 種類ハ護謨樹、西瓜、甘蔗等植物ノ名稱ヲ記載シ且苗、接穂、種子等ノ如キモノニ付テハ其ノ區別ヲ明ニスルコト
- 一 價格ハ(移)出ノ時ニ於ケル原價ヲ記載スルコト
- 一 申請ノ際輸入國政府ノ輸入(移入)地官憲ノ移入(移入)許可ヲ得サルモノ又ハ之ヲ要セサルモノハ許可年月日及番號ノ記載ヲ要セス

第三號様式

病菌(害蟲、植物)輸入許可申請書

左記ノ通病菌(害蟲、植物)輸入致度候ニ付御許可相成度此段申請候也

住所 職業

年月日 南洋廳長官 殿

氏 名

普通名稱及學名	數量	採集地又ハ產地	輸送ノ經路(郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル場合ニ於テハ發送地)	輸(移)入ノ目的	發送人ノ住所 職業及氏名	荷受人ノ住所 職業及氏名	輸(移)入ノ豫定年月日	輸送方法ノ區別	輸送中ノ包裝狀態	輸(移)入後ニ於ケル管理ノ方法及場所	利用後ニ於ケル處理方法	郵便以外ノ方法ニ依リ輸(移)入スル場合ニ於テハ其ノ輸(移)入港名	其ノ他參考トナルヘキ事項

備考

輸送方法ノ區別ノ項ニハ小包郵便物、小形包裝物、携帶品、貨物等ノ別ニ記載スルコト

第四號様式

病菌(害蟲、植物)輸入検査申請書

左記ノ通病菌(害蟲、植物)輸入致度候ニ付検査相成度此段申請候也

住所 職業

年月日 南洋廳(何支廳)御中

氏 名

輸(移)入許可年月日及番號	普通名稱及學名	數量	採集地又ハ產地	輸送ノ經路(郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル場合ニ於テハ發送地)







No. ....

ORIGINAL CERTIFICATE OF EXAMINATION OF PLANTS.

To whom it may concern :

This is to certify that the plants (and packing materials) included in this shipment described below were thoroughly inspected by ..... Branch Bureau, a duly authorized official of the plant quarantine service, on ..... 19 ....., and were found to the best of his knowledge to be healthy and free from dangerous insects and plant diseases. Moreover this is to certify that the above plants (and packing materials) have been found to conform with the requirements of the laws relating to the plant quarantine service of South Seas Bureau.



Plant Inspector, ..... Branch Bureau, South Seas Bureau.

Issued Date : ..... 19 .....

- (1) Number of Permit : No. ....
(2) Number and Description of Packages in Consignment : .....
(3) Distinguishing Marks : .....
(4) Description of Plants : .....
(5) District or Locality where grown : .....
(6) Name and Address of Exporter : .....
(7) Name and Address of Consignee : .....
(8) Name of Vessel : .....
(9) Date of Shipment : .....
(10) Port of Shipment : .....
(11) Port of Landing : .....
(12) Approximate Date of Landing : .....

備考 (and packing materials)及(1)乃至(12)ニ掲クル事項並(船積人署名)ハ輸入國ノ輸入條件ニ應シ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

植物検査省略證票

年月日

植物検査省略證

植物検査官吏印

南洋廳何支廳

植物検査省略證印

(強韌ナル紙)

.....半 櫃 三.....



(護謄印)

植物検査官吏之證

第 號

植物検査官吏之證

何支廳之印

官 職

氏

名

裏

表

(強韌ナル紙)

.....櫃 六.....

.....櫃 五.....



●南洋群島輸移出入植物取締規則  
則第二十五條ニ依リ植物又ハ  
其ノ容器包裝ニ使用シタル物  
ノ輸入、移入又ハ收受禁止ノ件

昭和十二年六月一日  
南洋廳告示第十一號

南洋群島輸移出入植物取締規則第二十五條ニ依リ植物又ハ其ノ容器包裝ニ使用シタル物ノ輸入、移入又ハ收受禁止ノ件別表ノ通定メ昭和十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和八年南洋廳告示第三十七號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

地 域	植 物	傳 播 防 止 要 求 スル 病 菌 又 ハ 害 蟲
一 「パレストアイン」、シリヤ、「サイプラス」、土耳其、「マルタ」、西班牙、葡萄牙、阿弗利加洲、「ベルムダ」、西印度諸島、伯刺西爾、亞爾然丁、布哇諸島、「オーストラリヤ」聯邦、新西蘭	植物ノ生果實	「メヂテレミアン」實蠅
二 比律賓群島、「ボルネオ」、「セレベス」、瓜哇、「スマトラ」其ノ他馬來諸島、臺灣、中華民國、香港、佛領印度支那、暹羅、馬來半島、英領印度、錫蘭、布哇諸島、「ニューギネア」	胡瓜、西瓜、甜瓜、南瓜其ノ他葫蘆科植物、蕃茄、菜豆及虹豆ノ生果實但シ臺灣產西瓜ニシテ臺灣總督府ノ植物檢査濟證ヲ有スルモノハ郵便ニ依リ移入スル場合ノ外之ヲ除ク 苹果、梨、橙、桃、李、杏及櫻桃ノ生果實並胡桃ノ生果實及核子	瓜實蠅 「コドリ」蛾
三 露領亞細亞、中華民國、香港、英領印度、波斯、「メソポタミヤ」、「サイプラス」、歐羅巴洲、阿弗利加洲、加奈陀、亞米利加合衆國、伯刺西爾、亞爾然丁、「ウルグアイ」、「オーストラリヤ」聯邦、		

新西蘭

- 四 比律賓群島、「ボルネオ」、「セレベス」、瓜哇、「スマトラ」其ノ他馬來諸島、臺灣、中華民國、香港、馬來聯邦、海峽植民地、英領印度、錫蘭、島、「ギヤナ」、大洋洲
- 五 比律賓群島、「ボルネオ」、「セレベス」、瓜哇、「スマトラ」其ノ他馬來諸島、臺灣、中華民國、香港、佛領印度支那、暹羅、馬來半島、英領印度、錫蘭、亞弗利加洲、亞米利加合衆國、西印度諸島、「ギヤナ」、大洋洲
- 六 瓜哇、英領印度、「サイプラス」、歐羅巴洲、阿弗利加洲、北亞米利加洲、布哇諸島、「グアム」、「オーストラリヤ」聯邦、新西蘭
- 七 露領亞細亞、小亞細亞、波斯、歐羅巴洲、加奈陀、亞米利加合衆國、新西蘭
- 八 關東州、中華民國

柑、橘、檸檬、枇杷、柿、李、桃、蒲桃、蓮霧、番石榴、蕃椒屬植物(Capsicum)ヤンバルナスビ、龍眼、荔枝及五斂子ノ生果實但シ臺灣總督府ノ植物檢査證ヲ有スルモノヲ除ク 甘藷ノ生塊根	蜜柑ノ小實蠅 アリモドキ象鼻蟲、甘藷螟 蛾
馬鈴薯、茄子、蕃茄、蕃椒其ノ部分並其ノ生果實及生塊莖	馬鈴薯腐爛病菌、馬鈴薯粉狀瘡痂病菌、馬鈴薯蛾、「コロラド」、馬鈴薯甲蟲「ヘシアシ」蠅
苹果其ノ他葎科屬植物(Malus)及山楂子屬植物(Crataegus)ノ生果實但シ關東州產及滿洲國ノ苹果ノ生果實ニシテ關東州廳ノ消毒濟證ヲ有スルモノヲ除ク	滿洲苹果姬心喰虫



### ●輸出スル植物ニシテ輸入國政 府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國 ノ検査證明ヲ必要トスルモノ

昭和八年十月二十四日  
南洋廳告示第三十九號

輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ検査證明ヲ必要トスルモノ左ノ如シ

- 一 多年性木質幹ヲ有スル樹ノ生植物及其ノ部分ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ例ハハ果樹、果樹砧木、果樹母株、森木樹木、觀賞用灌木、接穂、壓條及挿木等但シ種子ヲ除ク
  - 二 馬鈴薯
  - 三 球莖、鱗莖、根莖、球莖及「ホツブ」株ニシテ栽植ノ用ニ供スルモノ
  - 四 葱頭及韭葱ノ種子ニシテ播種ノ用ニ供スルモノ
  - 五 須具利ノ果實
- 加奈陀  
植物ニシテ觀賞又ハ繁殖ノ用ニ供スルモノ但シ種子及種子用馬鈴薯ヲ除ク
- 一 馬鈴薯
  - 二 護謨樹
  - 三 甘蔗

#### 濠洲聯邦

#### 馬鈴薯

#### 南洋洲

土壤ニ成育シタル植物  
英領海峽殖民地、馬來聯邦及「ジヨホール」  
甘蔗ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ  
「ニュージラント」

#### 一 生 果 實

二 植物及其ノ部分  
北米合衆國

#### 一 左記屬ノ球根類

- 百合屬(例ハ百合)、*コンバラリヤ*屬(例ハハ鈴蘭)、「ヒヤシンス」屬(例ハ「ヒヤシンス」)、「チユリツブ」屬(例ハ「チユリツブ」)、「クロカス」屬(例ハ「サフラン」又「サフラン」)、「チオノドキサ」屬(例ハ「グロリー」)、「オプ、ザ、スノー」屬、「ガラッサ」屬(例ハ「スノー、ドロツブ」)、「シラ」屬(例ハ「ハツルボノ類」)、「フリチリヤイムベリアリス」(貝母ノ一種)、「フリチリヤ、メレアグリ」(貝母ノ一種)「ムスカリ」屬(例ハ「ムスカリ」)、「イキシヤ」屬及「エランシス」屬(例ハ「節分草」)
- 二 薔薇苗ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ但シ「マネットイ」(庚申バラノ一種)、「ノイバラ」、「ブリアローズ」及「玫瑰」ヲ含ム
- 三 漿果(「ナツツ」)ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ但シ「棕櫚科植物」ノ種子ヲ含ム

#### 四 左ノ植物ノ種子

果樹、森林樹木、觀賞用樹木、道路樹、落葉性並常綠性觀賞用灌木及耐冬多年性植物  
五 其ノ輸入ニ付農務長官ノ特別許可證ヲ有スルモノ  
比律賓群島

#### 一 生植物、果實、繁殖ノ用ニ供シ得ル種子

二 挿木、鱗莖、球莖、接木、接穂、砧木、葉、根又果實ノ核  
蘭領印度

植物及其ノ部分(果實及種子ヲ含ム)但シ左ノモノヲ除ク

#### イ 蔬菜種子

菜菔、苦蕒(「エンダイブ」)、高苜(「サラド」)、蕃茄、和蘭芹(「パセリ」)、和蘭野蜀葵(「セルリ」)、甜菜、胡蘿蔔、馬齒莧(「パスレイン」)、甘藍、蕪菁、蕪菁、蕪菁、黃花波羅門參及「アスパラガス」

#### ロ 花瓣種子

雁來紅、金魚草、翠菊、矢車菊、「コリウス」、石竹、鳳仙花、天人菊、向日葵、「スキートピー」、勿忘草、罌粟、ツクバネ、朝顔(「ベチュニア」)、「サルビア」、萱菜及百日草  
ハ 菜豆、豌豆、大豆、胡桃、「アモンドウ」、栗及蓮實  
ニ 罐詰果實及蔬菜

### ●南洋群島輸移出入植物取締規 則第五條ニ依リ検査ヲ行フ海 港

昭和八年十月二十四日  
南洋廳告示第三十六號

改正 昭和二年第一號

サイパン

パラオ

ボナベ

### ●南洋群島輸移出入植物取締規 則第十六條ニ依リ郵便局指定 ノ件

昭和八年十月二十四日  
南洋廳告示第三十八號

改正 昭和二年第二號

南洋群島輸移出入植物取締規則第十六條ニ依リ左ノ郵便局ヲ指定局トス

サイパン郵便局

パラオ郵便局

ボナベ郵便局



### ●南洋群島輸移出入植物取締規則 ニ依ル植物検査官吏ノ腕章雛形

昭和九年八月一日  
南洋廳告示第十三號

- 製式
- 一 地質 緑地麻
  - 一 字 白地羅紗ヲ縫付
  - 一 幅 三寸
  - 一 丈 一尺三寸



### ●南洋群島コブラ検査規則

昭和七年九月一日  
南洋廳令第一號

- 第一條 南洋群島ニ於テ生産シタルコブラヲ移出又ハ輸出セムトスル者ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當シ支廳長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 一 試験、調査、標本ノ用ニ供スルモノ
  - 二 博覽會、共進會等ニ出品スルモノ
- 第二條 検査ハ支廳ノ検査場ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アル場合ハ其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

- 第三條 検査場ノ名稱、位置及検査時限ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第四條 検査ハコブラ検査員之ヲ行フ
- 第五條 検査ハ其ノ職務執行ノ際第一號様式ノ検査員證ヲ携帯スヘシ
- 第六條 検査ハ南洋廳長官ノ定ムル標準コブラニ依リ其ノ品質ノ良否ヲ鑑別シ合格不合格ヲ定ム
- 第七條 検査ニ合格シタルコブラニ非サレハ移出又ハ輸出スルコトヲ得
- 第八條 検査ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ニ依ル検査申請書ヲ所轄支廳ニ差出スヘシ
- 第九條 検査ハ申請ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但シ第二條但書ノ場合ニ於テハ検査員必要ト認ムルトキハ其ノ順序ヲ變更シ又ハ検査ノ場所及日時ヲ指定スルコトアルヘシ
- 第十條 検査申請人又ハ其ノ代理人ハ検査執行中現場ニ立會シ検査員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第十一條 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ検査ヲ中止スルコトアルヘシ
- 第十二條 検査員ハ合格品ノ包装面ニ第三號様式ノ検査證印ヲ押捺ス
- 第十三條 前項検査證印類似ノ記號ヲ包装面ニ表示スルコトヲ得ス

第十二條 検査員必要アリト認ムルトキハ検査済ノコブラヲ更ニ検査スルコトヲ得

第十三條 検査ノ爲必要ナル積替、運搬又ハ解袋等ニ要スル費用ハ検査ヲ受クル者ノ負擔トス

第十四條 検査ノ爲損害ヲ生スルコトアルモ官ハ賠償ノ責ニ任セス

第十五條 検査員本令違反ニ係ルコブラヲ移出者ハ輸出セムトスルノ事實アリト認メタルトキハ移出者又ハ輸出者ニ對シ其ノ運搬停止、積戻其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條 支廳長必要アリト認メタルトキハ検査員ヲシテ營業所、倉庫、船舶等ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十七條 検査ノ方法又ハ決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十八條 移出者又ハ輸出者コブラヲ船積セムトスル場合ハ第四號様式ニ依リ所轄支廳ニ届出ツヘシ

第十九條 前項届出數量ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ數量ヲ遲滞ナク届出ツヘシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 第一條、第五條第二項、第七條及第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十二條ノ検査又ハ第十五條ノ臨檢ヲ拒ミタル者

第二十三條 第十四條ノ命令ニ違反シタル者

第二十四條 不正ノ手段又ハ不實ノ申出ニ依リ検査員ヲ欺罔シ又ハ欺罔セムトシタル者

第二十五條 第一條、第五條第二項及第七條違反ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

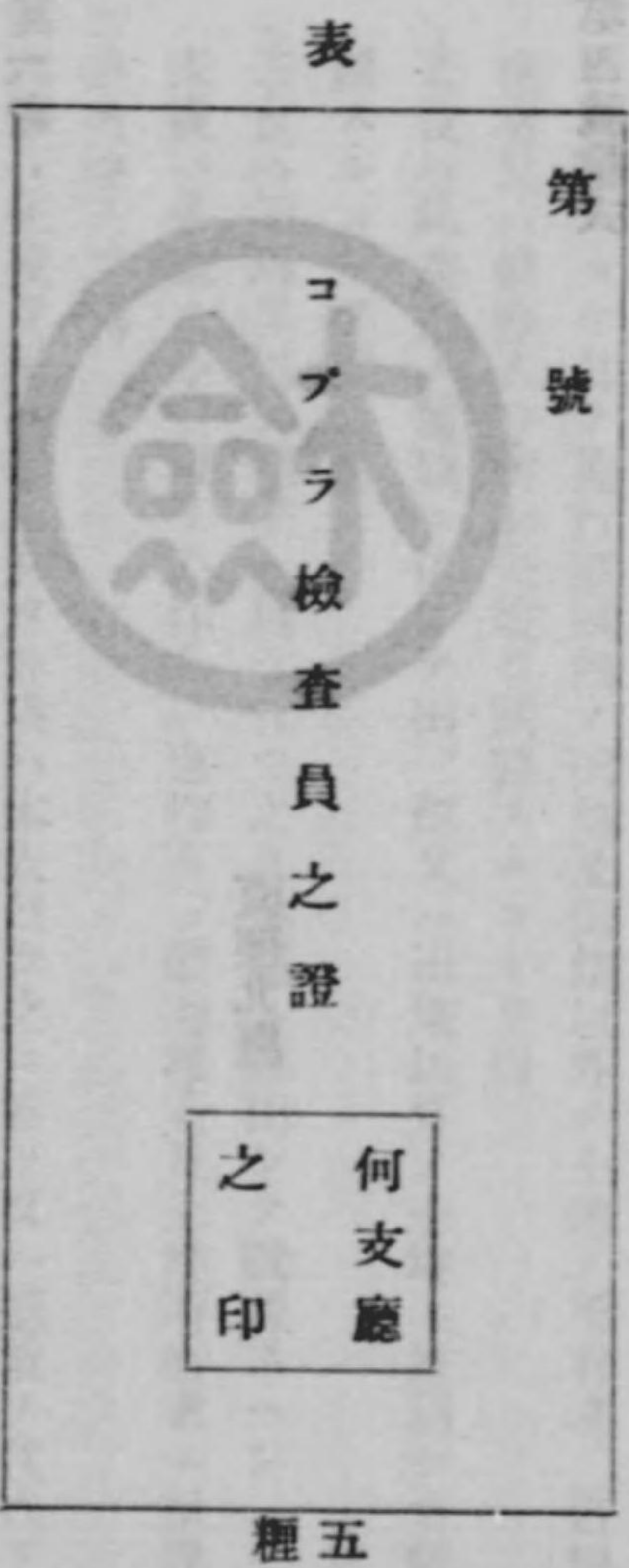
第十三章 産業 第一節 農業

一五三七

- 第十九條 移出者又ハ輸出者未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十條 移出者又ハ輸出者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人、其ノ他ノ従業者其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得

#### 第一號様式

九 厘



(紙質模造紙)



裏

官職氏名

第二號様式

検査申請書

コブラ 内譯 袋 袋 袋

何々産

同

右移(輸)出検査相成度候也

年月日

住所

何支應 御中

氏名

第三號様式



直徑九厘

第四號様式

移(輸)出届

コブラ 價額 袋

産地

仕向地

船積年月日

船名

右御届候也

年月日

住所

何支應 御中

氏名

●コブラ 検査場ノ名稱、位置及

検査時限

昭和七年九月十五日  
南洋廳告示第十四號

南洋群島コブラ検査規則第三條ニ依リ検査場ノ名稱、位置及検査時限左ノ通定ム

名	稱	位	置	検査時限
サイパン	支應コブラ検査場	サイパン島		
ヤップ	支應コブラ検査場	ヤップ島		
パラオ	支應コブラ検査場	パラオ諸島	コロル島	
トラツク	支應コブラ検査場	トラツク諸島	夏島	毎日日出ヨリ日没ニ至ル
ボナベ	支應コブラ検査場	ボナベ島		
クサイ	支應コブラ検査場	クサイ島		
ヤルト	支應コブラ検査場	ヤルト島		

●病害蟲驅除豫防規則

大正十三年五月一日  
南洋廳令第二號

第一條 本規則ニ於テ病害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲菌類ヲ謂フ

第二條 驅除豫防スヘキ病害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ南洋廳長官之

ヲ定ム

前項ノ種類以外ノ病害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要シ南洋廳長官ノ指揮ヲ承クル際ナシト認ムルトキハ支應長ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得

第三條 病害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ支應長ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ所有者、借地權者又ハ耕作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ田畑ノ所有者、借地權者又ハ耕作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ支應長ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ所有者、借地權者又ハ耕作人ヨリ之ニ要セシ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第四條 病害蟲蔓延シタルトキ若ハ蔓延ノ虞アルトキ又ハ病害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ若ハ發生ノ虞アルトキハ南洋廳長官ハ支應長ヲシテ其ノ區域内ノ驅除豫防ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第五條 支應長ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ必要アリト認ムルトキハ病害蟲ノ種類ニヨリ其ノ施行區域内ノ田畑及田畑以外ノ土地ノ所有者、借地權者又ハ耕作人ニ對シ夫役ヲ賦課スルコトヲ得

夫役ハ病害蟲ノ種類ニ依リテ田、畑又ハ田畑以外ノ土地ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人、借地權者及土地所有者ニ賦課スルコトヲ得

第六條 夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出シ又ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得



第七條 南洋廳長官ハ病害蟲驅除豫防ニ必要ナリト認ムルトキハ支廳長ヲシテ左ノ處分ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一 溝渠開鑿

二 農作物(種苗、果實、藥料、刈株等ヲ含ム)其ノ他ノ樹木雜草ノ拔棄、燒却、埋沒

三 地域ヲ指定シ農作物又ハ樹木雜草ノ搬出搬入、栽培ノ禁止

前項ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第八條 田畑所有者、借地権者又ハ耕作人ニ於テ病害蟲其ノ田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルコトヲ知リタルトキハ直ニ驅除豫防ニ著手シ病害蟲ノ種類、驅除豫防ノ方法、被害見積面積ヲ口頭又ハ書面ヲ以テ支廳又ハ最寄警察官吏ニ届出ツヘシ

第九條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十條 田畑所有者、借地権者又ハ耕作人ハ驅除豫防施行官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 支廳長其ノ他ノ當該官吏ハ驅除豫防督勵上必要アリト認ムルトキハ田畑所有者借地権者又ハ耕作人ニ其ノ田畑ノ境界ヲ表示スヘキ標木ヲ建設セシムルコトヲ得

第十二條 支廳長ハ驅除豫防實施ニ當リ必要アルトキハ警察官吏ヲシテ其ノ監視督勵ノ任ニ當ラシムヘシ

第十三條 夫役ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役ニ代フル金銭ヲ納メサルトキハ支廳長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

シ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金銭ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第十四條 第三條第二項ニ依ル驅除豫防ノ費用徵收並前條ノ督促及費用徵收ニ關シテハ大正十一年勅令第三百五十六號ノ規定ヲ準用ス

第十五條 病害蟲以外ノ動植物ト雖モ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ南洋廳長官ハ本令ヲ適用スルコトヲ得

第十六條 第三條第一項ノ驅除豫防ヲ行ハサル者又ハ第七條第一項第三號ニ依ル支廳長ノ命令ニ違反シ若ハ第十條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條 第八條ニ違反シタル者又ハ第十一條ニ依ル當該官吏ノ命令ニ從ハサル者ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 南洋群島介殼蟲驅除豫防規則ハ之ヲ廢止ス

●病害蟲驅除豫防規則取扱心得

大正十三年五月一日 南洋廳訓令第八號

折殖部 支廳

第一條 支廳長病害蟲驅除豫防規則第二條第二項ニ依リ驅除豫防ヲ行フトキハ病害蟲ノ種類、名稱、方言、發生又ハ發見月日、被害作物ノ種類、面積並其ノ程度、驅除豫防ノ方法等ヲ詳具シ之ヲ南洋廳長官ニ急報シ其ノ經過ニ付テハ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第二條 支廳長病害蟲驅除豫防規則第三條第二項ニ依リ代執行ヲ爲サムトスルトキハ事情ヲ詳具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ處分ヲ要スル場合ハ直ニ執行シ事後事情ヲ詳報スヘシ

第三條 支廳長病害蟲驅除豫防規則第四條ニ依リ驅除豫防ヲ行フノ必要アリト認メタルトキハ驅除豫防計畫、所要經費豫算ヲ定メ南洋廳長官ニ具申スヘシ

第四條 支廳長病害蟲驅除豫防規則第五條又ハ第七條第二項ニ依リ夫役ヲ賦課セムトスルトキハ徵收ノ方法、徵收スヘキ金額、徵收ノ時期、負擔民力ノ關係等ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 支廳長病害蟲驅除豫防規則第七條ノ處分ヲ必要ナリト認ムルトキハ其ノ事由及處分ヲ要スル區域並處分ノ方法ヲ詳記シ南洋廳長官ニ具申スヘシ

病害蟲驅除豫防報告

病害蟲ノ名稱	被害作物名	被害地名	發生又ハ發見月日	被害見積面積	驅除豫防著手又ハ終了月日	被害狀況

備考

(病害蟲發生被害ニヨリ作物減收見積高、驅除豫防費、夫役、驅除豫防面積又ハ驅除數、其ノ他驅除豫防上參考トナルヘキ事項ヲ可成詳細記載スルコト)

右及報告候也



年 月 日

南洋廳長官宛

支 廳 長 名

### ●病害蟲驅除豫防規則ニ依ル病害蟲ノ種類及驅除豫防方法

大正十三年五月一日  
南洋廳告示第一號

改正 大正一五年一月南洋廳告示第一三號、昭和七年七月第一〇號、八月第一一號  
病害蟲驅除豫防規則第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ病害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法左ノ通定ム

#### 第一 病害蟲ノ種類

- 一 オサゾウムシ
- 二 甘蔗赤腐病(アカクサリ)
- 三 甘蔗黑穗病(クロボ)
- 四 ルリヒラタハムシ
- 五 黄色螟蟲(カンシヨノシンクヒハマキ)

#### 第二 驅除豫防ノ方法

- 一 オサゾウムシ
  - イ 成蟲發生時期ニ蔗莖ヲ長サ二尺内外ニ切り二ツ割トシ楔ヲ含マセ元ノ如ク結束シタルモノ或ハ椰子葉柄基部ヲ取り二ツ割トシ蔗莖ノ如クシ各要所ニ配置シ誘殺スヘシ
  - ロ 枯葉ヲ刈キ取り潜伏スル成蟲ヲ捕殺スヘシ
  - ハ 被害莖ハ切り取り焼却スヘシ
  - ニ 被害甚タシキ蔗園ハ收穫後殘留セル葉莖及刈株ヲ燒却スヘシ
  - ホ 種苗ハ被害少ナキ品種ヲ選擇スヘシ
  - ヘ 椰子ニアリテハ被害ノ果實及葉柄ヲ集メ燒却スヘシ
- 二 甘蔗赤腐病
  - イ 病莖ハ切り取り燒却スヘシ
  - ロ 被害甚タシキ蔗園ハ收穫後殘留セル葉莖及刈株ヲ燒却スヘシ
  - ハ 種苗ハ被害少ナキモノヲ選擇スヘシ
- 三 甘蔗黑穗病
  - イ 被害株ハ掘取り燒却スヘシ
  - ロ 被害甚シキ蔗園ハ採苗及株出ヲ行ハス且ツ收穫後殘留セル葉莖及刈株ハ之ヲ燒却スヘシ
  - ルリヒラタハムシ
  - イ 被害葉ハ切り取り燒却スヘシ

#### 五 黄色螟蟲

- ロ 幼蟲、成蟲及蛹ハ捕殺シ卵ハ潰殺スヘシ
- イ 甘蔗ノ生育初期ニ於テ心枯トナレルモノハ分芽ノ基部ヨリ切り取り燒却スヘシ
- ロ 適當ナル剝葉ヲ行ヒ幼蟲ノ潜伏ヲ豫防スヘシ
- ハ 蔗園收穫後ハ直ニ殘留葉莖ヲ燒却スヘシ
- ニ 集積場ニ於ケル結束材料其ノ他ハ廢棄後直ニ燒却スヘシ
- ホ 被害激甚ナル蔗園ハ株出ヲ禁止ス
- ヘ 被害激甚ナル甘蔗苗圃ハ採苗ヲ禁止シ被害莖ハ切り取り燒却スヘシ
- ト 蔗苗ハ被害ナキモノヲ選擇シ植付前一晝夜間清水ニ浸漬スヘシ
- チ 螟蟲卵寄生蜂ヲ放飼シ自然的ニ螟蟲卵ノ驅除ニ努ムヘシ
- リ 卵塊及成蟲ハ採集シ潰殺スヘシ

### 第二節 商工業

#### ●昭和九年勅令第百十九號(南洋群島ニ於ケル貿易調節及通商擁護ニ關シ昭和九年法律第四十五號ニ依ルノ件)

南洋群島ニ於ケル貿易調節及通商擁護ニ關シテハ昭和九年法律第四十五號ニ依ル  
附則  
本令ハ昭和九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### ●南洋群島ニ於ケル貿易調節及通商擁護ニ關スル昭和九年勅令第百十九號施行規則

昭和十一年六月二十五日  
南洋廳令第八號  
南洋群島ニ於ケル貿易調節及通商擁護ニ關スル  
昭和九年勅令第百十九號施行規則  
第一條 昭和十一年勅令第百二十四號第一條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ



左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸入許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 品名
  - 二 數量(種類別ニ記載スベシ)
  - 三 産出地又ハ製造地
  - 四 積出港
  - 五 豫定輸入港
  - 六 豫定輸入時期
- 前項ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケントスル者他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナルトキハ輸入許可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外委託者ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所ヲ記載シ且委託アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ
- 第二條 昭和十一年勅令第二百二十四號第一條ノ許可ヲ受ケタル者前條第一項第四號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第三條 昭和十一年勅令第二百二十四號第一條ノ許可ヲ受ケタル者他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナル場合ニ於テ其ノ委託契約消滅シ又ハ委託數量減少シタルトキハ委託者ト連署ノ上三日以内ニ之ヲ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第四條 昭和十一年勅令第二百二十四號第三條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ
- 一 品名

- 二 數量
  - 三 仕向港及仕向地
  - 四 賣渡先ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所
  - 五 豫定輸出港
  - 六 豫定輸出時期
- 第五條 昭和十一年勅令第二百二十四號第三條ノ許可ヲ受ケタル者前條第五號及第六號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第六條 昭和十一年勅令第二百二十四號第一條又ハ第三條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ物品ノ輸入又ハ輸出ヲ爲ス場合ニ於テ南洋廳長官ノ交付スル輸入許可書又ハ輸出許可書ヲ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ南洋廳支廳ニ提出スベシ
- 第七條 昭和十一年勅令第二百二十四號第一條又ハ第三條ノ許可ヲ受ケタル者輸入又ハ輸出ヲ爲シタルトキハ七日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ南洋廳長官ニ届出ツベシ但シ「オーストラリア」聯邦ノ産出又ハ製造ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル物品ノ品名及數量並許可ノ年月日
  - 二 輸入又ハ輸出ヲ爲シタル物品ノ品名、數量及價額
  - 三 輸入港又ハ輸出港
  - 四 輸入又ハ輸出ノ年月日
- 第八條 昭和十一年勅令第二百二十四號別表甲號ニ掲グル物品ニシテ本令ノ別表ニ掲グルモノヲ輸入シタルモノハ輸入ノ日ヨリ七日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ南洋廳長官ニ届出ツベシ但シ「オーストラリア」聯邦ノ産出又ハ製造ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 品名
  - 二 數量(種類別ニ記載スベシ)
  - 三 産出地又ハ製造地
  - 四 買入先ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所
  - 五 積載船舶ノ名稱及國籍
  - 六 積出港
  - 七 輸入港
  - 八 輸入ノ年月日
- 第九條 昭和十一年勅令第二百二十四號第六條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル
- 附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(別表)
- 輸入稅表番號
- 二八二 羊毛、山羊毛及ラクダ毛ノ内羊毛
  - 二九五 屑又ハ故ノ纖維、屑纖維及屑絲ノ内屑又ハ故ノ羊毛

別記様式

表面

第 號 年 月 日 交付

昭和十一年勅令第二百二十四號第六條第二項ノ證票

裏面

本證票用紙ノ寸法ハ商工省告示日本標準規格第九十二號B列八番(84mm×31mm)ニ依ルモノトス

昭和九年法律第四十五號摘要  
第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ行フコトヲ得  
第三條第二項 前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

昭和十一年勅令第二百二十四號摘要

官職 氏名

南洋 廳印



第六條 昭和九年法律第四十五號第二條ノ規定ニ依リ主務大臣 必要アリト認ムルトキハ關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物 品ニシテ本令ノ別表甲號又ハ丙號ニ掲グルモノノ輸入者、輸 出者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ當該物品ノ輸 入又ハ輸出ノ數量及價額、在庫數量其ノ他必要ナル事項ノ報 告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、營業所、倉庫其ノ 他ノ場所ニ臨檢シ帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得 當該官吏前項ノ規定ニ依リ臨檢檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ 身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

●昭和九年法律第四十五號(貿 易調節及通商擁護ニ關スル法 律)

昭和九年四月七日 法律第四十五號

第一條 政府ハ外國ノ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節 シ又ハ通商ヲ擁護スル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所 ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ關稅定率法別表 輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ輸入稅ヲ課 シ若ハ輸入稅ヲ減免シ又ハ輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ 得 第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ 制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ行フコト ヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸 入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓 以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價額ノ三倍ガ七千圓ヲ超ユル トキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス 前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ 爲シ、帳簿其ノ他ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他 ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰 金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書 其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者 ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行 爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人 ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シ タル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理 人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦 同ジ

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 本法ハ施行後六年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス 前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ 罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

●昭和九年法律第四十五號第一 條ノ規定ニ依ル輸入稅増課ニ 關スル件

昭和九年九月十九日 勅令第二百八號

第一條 昭和九年ニ於テ外國貿易上本邦ガ輸入超過ノ關係ニ在リタル國 ニシテ本邦ノ產出又ハ製造ニ係ル物品ニ對シ本令施行ノ際輸入稅ノ賦 課ニ付專斷ナル課稅標準價格ヲ用ヒ且一般ノ輸入稅ノ外特別ニ租稅ヲ 課スルモノノ產出又ハ製造ニ係ル物品ニハ昭和九年法律第四十五號第 一條ノ規定ニ依リ本令施行ノ日ヨリ一年間關稅定率法別表輸入稅表ニ 定ムル輸入稅ノ外從價五割ノ輸入稅ヲ課ス保稅工場ニ於テ該物品ヲ原 料トシテ製造シタル物品ニ付亦同ジ 前項ノ物品ハ關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ本令ノ別表 ニ掲グルモノニ限ル 第二條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ本令ノ別表ニ掲グ ルモノヲ輸入セントスル者ハ輸入申告書ニ製産原地證明書ヲ添付スベ シ但シ郵便物ナルトキ又ハ物品ノ原價百圓ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ 在ラズ 前項ノ製産原地證明書ニハ物品ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產 出又ハ製造ノ地域ヲ記載シ物品ノ產出地、製造地、仕入地又ハ積出地 ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ稅關、其ノ他ノ官廳、 公署又ハ商工會議所ノ證明アルヲ要ス但シ條約ニ別段ノ規定アルトキ

ハ其ノ規定ニ從フ

第三條 本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リ テハ臺灣總督トス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ本邦ニ向ケ輸送ノ途ニ在ル物品若ハ保稅地域ニ設置中 ノ物品又ハ之ヲ原料トシテ保稅工場ニ於テ製造スル物品ニハ本令ヲ適用 セズ (別表)

輸入稅 表番號	品 名
一六	小麥
二二	麥粉及澱粉類
	一 小麥粉
	六 其ノ他ノ内 小麥澱粉
三六一	製紙用バルブ
三六七	包裝用紙及燐寸用紙(チツシユーパーヲ除ク)
六〇五	機械部分品(別號ニ掲ゲザルモノ)
六一二	十一 製紙用フェルト(エンドレスノモノ)
	木材
	一 單ニ切り、挽キ又ハ割リタルモノ
	己 バイン、フアイ、シダー其ノ他ノ針葉樹
	己ノ二 ヒノキ屬(ホワイトシダー及イエ
	ロシシダー等)



- 己ノ三 ネットコ属(レツドンダ等)及ツガ属(ムロツク等)
- 己ノ四 モミ属(トドマツ等)、タウヒ属(エゾマツ、スプルース等)、マツ属(紅松等)及カラマツ属(落葉松等)
- 己ノ五 其ノ他(ドグラスフア一等)
- イ 厚六十ミリメートルヲ超エザルモノ
- ロ 厚二百ミリメートルヲ超エザルモノ
- ハ 厚二百ミリメートルヲ超エタルモノ
- ニ 丸太及割材
- ニノ二 長十メートルヲ超エ、末口ノ直徑三十センチメートルヲ超エザルモノ
- ニノ三 其ノ他
- 二 其ノ他
- 戊 其ノ他ノ内 バイン、フア、シダー 其ノ他ノ針葉樹(廣葉杉ヲ除ク)
- 六四七 別號ニ掲ゲザル物品
- 一 未製品ノ内鉄素

### ● 商工業補助規則

大正十一年九月一日 南洋廳令第二十號

- 第一條 左ノ業務ヲ營ム者ニシテ支廳長ニ於テ適當ト認ムル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ設備費又ハ營業費ニ對シ補助金ヲ下付ス
- 一 洗濯業
  - 二 靴業
  - 三 理髮業
  - 四 仕立業
  - 五 旅館業
  - 六 前號ノ外支廳長ニ於テ必要ト認ムル業務
- 第二條 補助金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ毎年三月末日限リ所轄支廳長ニ願出ツヘシ
- 一 出願者ノ住所、氏名、年齢及業務ノ經歷
  - 二 業務ノ種類
  - 三 業務ノ場所
  - 四 前條第一號乃至第四號ノ業務ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ從業者ノ氏名、年齢及業務ノ經歷
  - 五 前各號ノ外設備費ノ補助ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ設備及之ニ要スル經費調書營業費ノ補助ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ營業計劃及收支豫算調書

六 旅館業ヲ營ム者ニ在リテハ前各號ノ外家屋ノ構造、間取、坪數ヲ知ルニ足ルヘキ圖面

- 第三條 補助金下付ノ指令ヲ受ケタル者其ノ設備ヲ整ヘ又ハ業務ヲ開始シタルトキ八十日以内ニ所轄支廳長ニ願出ツヘシ
- 第四條 補助金ヲ受ケタル者ハ翌年四月中ニ前年度ニ於ケル業務ノ成績及收支決算ヲ所轄支廳長ニ届出ツヘシ
- 第五條 補助金ノ下付ヲ受ケタル者ハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ當該年度間十日以上引續休業シ又ハ廢業スルコトヲ得ス
- 第六條 支廳長ハ補助金ノ下付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得
- 第七條 第五條又ハ第六條ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ補助金ノ下付ヲ取消シ若ハ補助金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ一部若ハ全部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第二條ノ補助金下付出願期限ハ十月三十一日迄トス

### ● 南洋群島暴利取締規則

昭和十二年八月三日 南洋廳令第十號

第一條 暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスルモノト認ムルトキハ南洋廳長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲ス

ベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトアルベシ

- 一 金屬及其ノ原料
- 二 黑鉛、礫砂、石棉及雲母
- 三 機械器具及其ノ部分品
- 四 自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
- 五 電線及電柱
- 六 電極
- 七 研磨材料
- 八 耐火煉瓦
- 九 硝子
- 十 石油及其ノ容器
- 十一 石炭、コークス及木炭
- 十二 棉花、羊毛、麻及ステールファイバ
- 十三 絲(生絲ヲ除ク)及織物
- 十四 被服
- 十五 紙類
- 十六 染料、顔料及塗料
- 十七 工業藥品
- 十八 醫藥其ノ他ノ衛生材料
- 十九 油脂
- 二十 肥料及飼料
- 二十一 生護膜及護膜製品



二十二 バルブ

二十三 皮革及其ノ製品

二十四 麥及小麥粉

二十五 砂糖

二十六 建築材料

第二條 南洋廳長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ノ戒告ニ違反シテ買占、賣惜若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ付シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

糖業規則

大正十一年九月一日 南洋廳令第十八號

改正 昭和九年第一三號

第一條 砂糖製造業ヲ營ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ南洋廳長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケタル後第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスル場合亦同シ

一 本籍、住所、氏名、經歷並資産證明書但シ出願者法人ナルトキハ其ノ住所、名稱、定款、取締役ノ住所、氏名、財産目錄及貸借對照表

二 工場ノ位置

三 工場ノ設計

四 製糖機ノ種類能力

五 原動機ノ種類

六 製品ノ種類

七 製糖期間

八 原料採取ノ方法

九 事業計劃及收支豫算

第二條 南洋廳長官ハ砂糖製造ノ許可ヲ與ヘタル場合必要アリト認ムルトキハ其ノ原料採取區域ヲ指定ス

第三條 原料採取區域内ニ於テ栽培シタル甘蔗ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ區域外ニ搬出シ又ハ砂糖以外ノ製造原料ニ供スルコトヲ得ス

第四條 原料採取區域内ニ於テ甘蔗ヲ栽培シタル者ハ之ヲ其ノ區域内ニ

於ケル製糖業者ニ賣渡シ其ノ製糖業者ハ南洋廳長官ノ指定スル期間内ニ之ヲ引取ルコトヲ要ス

第五條 製糖業者前條ノ指定期間内ニ甘蔗ノ引取ヲ了セス依テ蔗作者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ南洋廳長官ハ製糖業者ニ對シ之カ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 製糖業者其ノ原料採取區域内ニ於ケル蔗莖ヲ買收セムトスルトキハ豫メ買收價格ヲ定メ其ノ價格算定ノ基ヲ所ヲ明ニシタル調書ヲ添附シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ五日内ニ南洋廳長官ニ届出ツヘシ

一 住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

二 定款又ハ取締役ニ異動ヲ生シタルトキ

三 製糖ヲ開始シ又ハ終了シタルトキ

四 廢業シ又ハ製糖期間内一箇月以上休業セムトスルトキ

第八條 許可ヲ受ケタル後一年以内ニ事業ニ著手セサルトキハ製糖業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 製糖業者本令又ハ第五條ノ命令ニ違反シ若ハ事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ南洋廳長官ハ製糖業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 第一條第三條及第六條ニ違反シ又ハ第五條ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 第七條ノ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

糖業獎勵規則

大正十一年十月一日 南洋廳令第二十九號

改正 大正二年第二三號、一四年第七號、一五年第五號、昭和四年第六號、五年第三號、第九號

第一條 甘蔗ヲ栽培シ又ハ砂糖ヲ製造スル者ニシテ南洋廳長官ニ於テ適當ト認ムル者ニハ本令ニ依リ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付ス

第二條 獎勵金ヲ下付スヘキ場合及金額ノ範圍左ノ如シ

一 品種ノ改良ヲ圖ル爲甘蔗苗ヲ輸入又ハ移入スル場合輸入又ハ移入

第十二條 本令ニ依リ製糖業者ニ適用スヘキ罰則ハ製糖業者法人ナルトキハ之ヲ其ノ代表者ニ適用ス

第十三條 本令ニ依リ南洋廳長官ニ差出スヘキ書類ハ所轄支廳ヲ經由スヘシ

第十四條 本令施行區域ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

糖業規則第十四條ニ依ル同令施行區域

昭和九年十月十五日 南洋廳告示第二十號

糖業獎勵規則

大正十一年十月一日 南洋廳令第二十九號

改正 大正二年第二三號、一四年第七號、一五年第五號、昭和四年第六號、五年第三號、第九號

第一條 甘蔗ヲ栽培シ又ハ砂糖ヲ製造スル者ニシテ南洋廳長官ニ於テ適當ト認ムル者ニハ本令ニ依リ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付ス

第二條 獎勵金ヲ下付スヘキ場合及金額ノ範圍左ノ如シ

一 品種ノ改良ヲ圖ル爲甘蔗苗ヲ輸入又ハ移入スル場合輸入又ハ移入

一五五一



ニ要スル經費ノ全額以内

二 南洋廳長官ノ指示スル甘蔗ノ品種及株數ヲ一町歩以上新植スル場合一町歩ニ付三十圓以内

三 甘蔗ノ栽培ヲ目的トシ一箇年一町歩以上ヲ開墾スル場合一町歩ニ付三十圓以内

四 南洋廳長官ノ指示スル種類及數量ノ砂糖ヲ製造シ之ヲ南洋群島外ニ移出スル場合百斤ニ付一圓以内

五 南洋廳長官ノ適當ト認ムル甘蔗苗圃ヲ設置スル場合一町歩ニ付百圓以内

六 蔗園休閑地ニ南洋廳長官ノ指示スル種類ノ綠肥作物ヲ五段歩以上栽培スル場合一段歩ニ付七十五圓以内

第三條 獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ニ依リ毎年三月末日限リ所轄支廳ヲ經由シ南洋廳長官ニ願出ツヘシ

第四條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニシテ甘蔗苗圃ノ植付、甘蔗苗ノ移輸入、甘蔗栽培地ノ開墾並甘蔗ノ植付又ハ砂糖ノ移出ヲ了シタルトキハ第二號様式ニ依リ、蔗苗ノ生産又ハ其ノ配付及植付ヲ了シタルトキハ第三號様式ニ依リ十日以内ニ、綠肥作物ノ栽培ヲ了シタルトキハ第二號様式ニ依リ採收十日以前ニ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ願出ツヘシ

第五條 獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレバ其ノ開墾地、新植地及苗圃ニ於ケル蔗作ノ廢止廢耕ヲ爲シ又ハ輸入若ハ移入シタル甘蔗苗ノ廢棄廢耕ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 南洋廳長官ハ本令ニ依リ獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

第七條 第五條又ハ第六條ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ南洋廳長官ハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ減額シ又ハ既ニ下付シタル獎勵金ノ一部若ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際ニ限リ第三條ノ獎勵金下付出願期限ハ十月末日迄トス  
第一號様式ノ一  
糖業獎勵金下付願  
一、開墾(新植)地名、何島何村字何、官有貸下地(私有地)(島民有借地)  
一、開墾(新植)段別何町歩  
一、施業期間 年月日開墾(新植)著手  
年月日終了  
右糖業獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也  
年月日

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 改良目的

一 種類何々 數量 何本 產地 何々

南洋廳長官殿

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 輸入(移入)ノ時期 年月日

一 輸入(移入)ノ方法

一 輸入(移入)ニ要スル經費見積高(苗費運搬費其ノ他)

右糖業獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年月日

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

住所

氏

名印

南洋群島何島何々

何々何程

自大正何年何月何日何程

至大正何年何月何日何程

何港

大正 年 月 日

住所

氏

名印

南洋群島何島何々

何々何程

自大正何年何月何日何程

至大正何年何月何日何程

何港

大正 年 月 日

糖業獎勵金下付願

一 蔗園休閑地綠肥作物栽培地名 何島何々

一 綠肥作物栽培面積 何町歩

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願

一 蔗園休閑地綠肥作物栽培地名 何島何々

一 綠肥作物栽培面積 何町歩

南洋廳長官殿

糖業獎勵金下付願



- 一 綠肥作物種類名稱並播種量 何種何石何斗
- 一 施行豫定期間 年月 日播種 年月 日採取

右糖業獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也  
年月 日

南洋廳長官横田郷助殿

備考 一 第二條第六號ニ該當スル獎勵金ノ下付ヲ出願スル者ハ本様式ニ據ルヘシ

第二號様式ノ一

開墾(植付)終了届

指令年月日及番號

- 一 開墾(植付)地名何島何村字何、官有貸下地(私有地)(島民有借地)
- 一 開墾(植付)段別何町步
- 一 施業期間 年月日開墾(植付)著手 年月日終了

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月 日

南洋廳長官殿

住所

氏

名印

第二號様式ノ二

蔗苗輸入(移入)届

- 一 輸入(移入)年月日
- 一 種類何々 數量 何本 產地 何々
- 一 輸入(移入)成績
- 一 輸入(移入)ニ要シタル經費(苗費運搬費其ノ他)

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月 日

住所

氏

名印

第二號様式ノ三

砂糖移出届

移出年月日	積込船名	種類	數量	備考
年月 日	何 丸	黄双(第一種糖)	斤	

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
大正 年 月 日

住所

氏

名印

南洋廳長官殿

第二號様式ノ四

甘蔗苗圃植付終了届

指令年月日及番號

- 一 苗圃ノ位置 南洋群島、何島、何々
- 一 甘蔗品種別植付面積及植付本數 何種、何町步、何々
- 一 施業期間 年月 日著手 年月 日終了

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月 日

住所

氏

名印

備考

一 第二條第五號ニ該當スル獎勵金ノ下付指令ヲ受ケタル者ノ植付終了届ハ本様式ニ據ルヘシ

第二號様式ノ四

蔗園休閑地綠肥作物栽培終了届

- 一 指令年月日及番號 何島何々
- 一 綠肥作物栽培地名 何町步
- 一 綠肥作物栽培面積 總量何貫一町步當何貫
- 一 綠肥作物生草見込量 年月 日採取見込
- 一 施行期間 年月 日採取見込

南洋廳長官殿

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月 日

住所

氏

名印

備考

一 第二條第六號ニ該當スル獎勵金ノ下付指令ヲ受ケタル者ノ栽培終了届ハ本様式ニ據ルヘシ

第三號様式ノ一

甘蔗苗圃生産届

計	苗圃位置	植付面積	收穫面積	甘蔗品種	生育株數	蔗苗生産本數	一町當採苗數

備考

一 蔗苗採取狀況及蔗苗生産ニ及ホシタル事項ハ總テ届書ノ末尾ニ記入スヘシ

右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月 日

住所

氏

名印

南洋廳長官殿



第三號様式ノ二

甘蔗苗圃生産蔗苗配付並植付届

配付月日	甘蔗品種	配付苗同	上配付受ケタル耕作者
		苗木數植付面積植付月日	住所氏名
計			

備考

一 蔗苗ノ荷造、運搬及配付方法其ノ他參考トナルヘキ事項ハ總テ圖書ノ末尾ニ記入スヘシ  
右糖業獎勵規則ニ依リ及届出候也  
年月日

南洋廳長官殿

住所

氏

名印

南洋拓殖株式會社令

昭和十一年七月二十七日  
勅令第二百二十八號

第一章 總則

第一條 南洋拓殖株式會社ハ拓殖事業ノ經營及拓殖資金ノ供給ヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ南洋群島ニ置ク  
第二條 南洋拓殖株式會社ノ資本ハ二千萬圓トス但シ拓務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得  
第三條 政府ハ南洋廳長官ノ管理ニ屬スル金錢以外ノ財産ヲ以テ南洋拓殖株式會社ニ對スル出資ノ目的ト爲スコトヲ得

殖株式會社ニ對スル出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府前項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サントスルトキハ出資ノ目的タル財産ノ價格ニ付南洋群島官有財産評價委員會ニ諮問スベシ

南洋群島官有財産評價委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム  
第四條 南洋拓殖株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第二章 役員

第五條 南洋拓殖株式會社ニ社長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第六條 社長ハ南洋拓殖株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
社長事故アルトキハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ理事中一人其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ社長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ南洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第七條 社長ハ拓務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス  
理事ハ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ拓務大臣之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

第八條 社長及南洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ拓務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業

第九條 南洋拓殖株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス  
一 拓殖ノ爲必要ナル農業、水産業、鑛業及海運業  
二 拓殖ノ爲必要ナル移民事業  
三 拓殖ノ爲必要ナル土地(借地權其ノ他ノ土地ニ關スル權利ヲ含ム)ノ取得、經營及處分  
四 委託ニ依ル土地ノ經營及管理  
五 農業者、漁業者若ハ移民ニ對シ拓殖上必要ナル物品ノ供給又ハ其ノ生産品ノ買收、加工若ハ販賣  
六 拓殖ノ爲必要ナル資金ノ供給  
七 前各號ノ事業ニ附帶スル業務  
八 前各號ノ外拓殖ノ爲必要ナル事業  
前項第八號ノ事業ヲ營ミ又ハ南洋群島以外ノ地域ニ於テ前項第一號乃至第七號ノ事業ヲ營マントスルトキハ其ノ事業及地域ニ付拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十條 南洋拓殖株式會社ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得

第十一條 南洋拓殖株式會社ハ拓務大臣ノ認可ヲ受ケ銀行ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第四章 南洋拓殖債券

第十二條 南洋拓殖株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ南洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得  
南洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ南洋群島裁判事務取扱令ニ於テ

依ルコトヲ定メタル商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十三條 南洋拓殖株式會社南洋拓殖債券ヲ發行セントスルトキハ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 南洋拓殖債券ノ所有者ハ南洋拓殖株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ清償ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 利益金ノ處分

第十五條 南洋拓殖株式會社利益金ノ處分ヲ爲サントスルトキハ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十六條 南洋拓殖株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第十七條 南洋拓殖株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第六章 政府ノ監督

第十八條 拓務大臣ハ南洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十九條 拓務大臣ハ南洋拓殖株式會社監理官ヲ置キ南洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監視セシム  
南洋拓殖株式會社監理官ハ何時ニテモ南洋拓殖株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得  
南洋拓殖株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ南洋拓殖株式會社ニ命ジテ營業ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ



得

南洋拓殖株式會社監理官ハ南洋拓殖株式會社ノ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十條 南洋拓殖株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十一條 南洋拓殖株式會社其ノ所有スル重要財産ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供セントスルトキハ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ重要財産ハ拓務大臣之ヲ指定シ官報ヲ以テ告示ス

第二十二條 南洋拓殖株式會社合併又ハ解散ヲ爲サントスルトキハ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十三條 南洋拓殖株式會社定款其ノ他拓務大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條 拓務大臣ハ南洋拓殖株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十五條 拓務大臣ハ南洋拓殖株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 拓務大臣ハ本令中其ノ職務ニ屬スル事項ノ一部ヲ南洋廳長官ニ委任スルコトヲ得

附則

第二十七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條 政府ハ設立委員ヲ命ジ南洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十九條 設立委員ハ定款ヲ作成シ拓務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十一條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ南洋群島裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ拓務大臣ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシメ其ノ拂込アリタルトキハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

第三十三條 創立總會ニ於テハ第七條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十四條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ南洋拓殖株式會社社長ニ引渡スベシ

### ●南洋拓殖株式會社令第二十六條ノ規定ニ依ル拓務大臣ノ職務ノ一部委任ニ關スル件

昭和十二年五月十八日  
拓務省令第二號

第一條 南洋拓殖株式會社令第九條第一項第八號ノ事業ニシテ南洋群島ニ於テ經營スルモノノ認可ハ南洋廳長官ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ事業

變更ノ認可ニ付亦同ジ

第二條 南洋拓殖株式會社ノ南洋群島ニ於ケル業務ニ關シテハ南洋廳長官ニ於テモ南洋拓殖株式會社令第十八條及第二十四條ノ職務ヲ行フコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳ニ於ケル南洋拓殖株式會社監理官處務規程

昭和十二年八月六日  
南洋廳訓令第三十五號

第一條 南洋廳ニ於ケル南洋拓殖株式會社監理官(以下監理官ト稱ス)ハ毎月一回以上南洋拓殖株式會社事務所ニ臨ミ諸般ノ業務ヲ監査シ速ニ其ノ要領ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ

第二條 監理官ハ南洋拓殖株式會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ關シ特ニ注意ヲ要スル事項アリト認ムルトキハ遲滞ナク之ヲ南洋廳長官ニ具申スベシ

第三條 監理官ハ南洋拓殖株式會社令第十九條第三項ノ規定ニ依リ營業ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムル場合ニ於テハ必ず主任理事又ハ相當責任アル職員ヲシテ其ノ報告書ニ署名セシムベシ

第四條 監理官ハ南洋拓殖株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ遲滞ナク之ヲ南洋廳長官ニ具申スベシ

第十三章 産業 第二節 商工業

### ●瑞西國紋章等使用者處罰ノ件

昭和十年二月一日  
南洋廳令第一號

瑞西國ノ紋章、旗章又ハ之ト類似ノ徽章ヲ擅ニ商標トシテ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋群島電氣事業規則

昭和十二年八月二十一日  
南洋廳令第十三號

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スルモノ

二 前號ノ事業ニ電氣ヲ供給スルモノ

三 前二號ノ外強電流電氣工作物ヲ施設スルモノ但シ電壓十ヴォルト



以下ノ電氣ヲ使用スルモノ及架空、地中又ハ水底電線路ヲ施設セズ  
シテ車輛、船舶等ニ電氣ヲ使用スルモノヲ除ク

第二條 本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設  
スル水路、貯水池、器具、機械、電線路其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事  
業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用フル電氣導體及之ヲ支持  
シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

電氣ノ傳送ニ關シ必要ナル保安通信ニ用フル電氣導體及之ヲ支持シ又  
ハ保護スル工作物ハ之ヲ第一項ノ電線路ト看做ス

第二章 事業ノ創設及變更

第三條 第一條第一號又ハ同條第二號ノ電氣事業(以下電氣供給事業ト  
稱ス)ヲ經營セントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ク  
ベシ

一 起業目論見書

二 工事設計書

三 工事費概算書

四 事業上ノ收支概算書

五 水力ヲ原動力ニ使用セントスルモノニ在リテハ發電水力ノ使用ニ  
關スル南洋廳長官ノ許可書及命令書ノ謄本、未ダ其ノ許可ヲ受ケザ  
ルモノニ在リテハ其ノ申請書ヲ提出シタルコトヲ記載シタル書面

六 供給關係ノ第四條第四號ヲ設定セントスルモノニ在リテハ受電者ト  
ノ契約書ノ謄本

申請者個人以外ノ者ナルトキハ前項ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ

一 會社發起人ニ在リテハ定款

二 會社ニ在リテハ定款、會社登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表  
及損益計算書

三 組合ニ在リテハ其ノ契約書ノ謄本並ニ財産目録、貸借對照表及損  
益計算書

四 公共團體ニ在リテハ電氣事業經營ニ關スル議決書ノ謄本及關係豫  
算書

第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 商號又ハ名稱及主たる事務所ノ位置

二 目的電燈又ハ電力  
供給區域

三 供給區域

平面圖 縮尺二萬五千分ノ一以上トシ供給區域ノ境界、主要  
ナル市街、村落、道路、山川及港灣等ヲ添附スベシ

四 供給關係(電氣供給事業者又ハ特殊ノ事由ニ因リ供給區域外ノ需  
用者ニ供給スル場合) 受電者及供給地點、受電地點ガ發電平面圖前  
ノ平面圖ヲ添附スベシ

五 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法

第五條 工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 總出力

(一) 常時出力一年ヲ通ジ連續  
使用シ得ルモノ

(二) 常時尖頭出力一年ヲ通ジ毎日一定時間  
ヲ限リ使用シ得ルモノ

(三) 特殊出力一年ノ内一定時期ヲ限リ使用シ得ルモノニシテ何時迄  
電ヲ停止シ若ハ制限スルモ支障ナキ特殊ノ用途ニ充ツ

ルモ

(四) 豫備出力 漏水又ハ故障等ニ因ル不足  
電力ノ補給ニ充ツルモノ

右ノ出力別毎ニ水力、火力、受電ノ別及其ノ合計出力ヲ記載スベシ

二 發電設備 每發電所

(一) 發電所ノ名稱及位置

(二) 原動力 水力、汽力、内燃力ノ別、水力ニ在リテハ常時及特殊使  
用水量、有效落差、理論水力、汽力又ハ内燃力ニ在リテ  
ハ其ノキロ  
ワット數

(三) 發電所ノ出力 常時、特殊、豫備出力  
ノ別及常時尖頭出力

(四) 電氣方式 直流、交流ノ別、電壓、  
周波數及線式ノ別

三 受電設備 每受電地點

(一) 受電地點及供給者

(二) 受電地點ノ出力 前號ノ(三)

(三) 電氣方式 前號ノ(四)

四 送電設備 每送電線路

(一) 送電線路ノ名稱、區間、經過地及延長

(二) 電氣方式 第二號ノ  
(四)ニ準ズ

(三) 電線路ノ種類 架空線、地中線、  
水底線ノ別

五 變電設備 每變電所

(一) 變電所ノ名稱及位置

(二) 變電所ノ出力 第二號ノ  
第三號ノ

(三) 電氣方式 第二號ノ  
(四)ニ準ズ

六 配電設備

(一) 配電線路ノ經過地

(二) 電氣方式 第二號ノ  
(四)ニ準ズ

(三) 電線路ノ種類 第四號ノ  
(三)ニ準ズ

(四) 需用者ノ端子電壓、電燈、電動機其  
他毎電力裝置

前項ノ工事設計書ニハ平面圖 縮尺二萬五千分ノ一以上トシ發電所、受  
電地點及變電所ノ位置、電線路ノ中心線  
並ニ其ノ經過スル主要ナル市街、村落及地勢ヲ記載スベシ但シ平面圖ニ付テハ其ノ事  
項ヲ第四條ノ平面圖中ニ記載スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條 工事費概算書ハ第一號様式、事業上ノ收支概算書ハ第二號様式  
ニ依リ之ヲ調製スベシ

第九條 第二項ノ規定ニ依リ工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ工  
事費概算書ハ工事費豫算書、工事設計書ハ工事設計明細書ヲ以テ之ニ



代フルコトヲ得

第七條 電氣供給事業經營ノ許可ヲ得タル後起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項ヲ變更セントスルトキハ變更ヲ必要トスル事由、新舊ヲ對照シタル書面並ニ關係書類及圖面ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ

第三章 工事

第八條 電氣供給事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ書類ヲ具シ指定ノ期間内ニ南洋廳長官ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

一 工事設計明細書

二 工事費豫算書 第三號様式ニ依リ調製スベシ

三 工事落成期限書 工事ヲ區分シテ施行スル場合ニ於テハ其ノ區分毎ニ記載スベシ

前項ノ申請ハ第三條ノ許可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得

キハ其ノ事由ヲ具シ分割シテ申請スルコトヲ得

第九條 工事設計明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 總出力 第五條第一項第一號ニ準ジ記載スベシ但シ落成シタル他ノ成トニ

二 發電設備 每發電所ノ名稱及位置

(一) 發電所ノ出力 第五號第一項第一號ノ三ニ準ズ

(二) 原動力設備

(甲) 水力設備

(イ) 河川又ハ湖沼名竝ニ取水口及放水口ノ位置

(ロ) 使用水量 單位毎秒立方メートルトシテ常時、特殊等ノ區別

(ハ) 有效落差 單位メートルトシテ計算書ヲ添附スベシ

(ニ) 理論水力 單位キロワットトシテ左ノ計算式ニ依リ計算スベシ

(ホ) 引水方法 取水口ヨリ放水口ニ至ル引水方法

(ヘ) 水路工作物

堰堤 取水口、貯水池、調整池ニ於ケルモノノ別、構造、材料、施工方法及地質、附屬竝ニ附帶設備

取水口 制水門、堰弁除其ノ他取水口ニ於ケル設備及構造

導水路 巨長、隧道、開渠、蓋渠等ノ長、勾配、構造及施工方法、其ノ他土砂吐、餘水吐等ノ附屬設備

沈砂池 構造、土砂ノ沈澱及排除ノ方法等

水槽 構造、附屬設備

水壓管路 水壓管ノ構造、條數、太サ、長、厚、支持施設、保安裝置、其ノ他附屬設備ノ大要

吸出管 型式及吸出高

放水路 巨長、勾配、構造及施工方法

堰堤、水路断面、調壓水槽、水壓管路其ノ他特殊ノ工作物ノ大サ及強度ノ計算書ヲ添附スベシ

(イ) 貯水池、調整池 全容量、有效容量、利用水深、湛水面積及使用方法其ノ他附屬設備、側壁、底面工事等

(ロ) 有效容量ノ計算書ヲ添附スベシ

(チ) 水車 種類、型式、キロワット數、回轉數、調速機ノ種類、工作物ノ構造及機械器具ノ裝置ニハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

(乙) 汽力設備

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 汽罐 種類、氣壓、汽温、蒸汽量、加熱面積及過熱面積、蒸氣貯藏器 種類、貯藏容量、汽機及補助機用ノ總蒸汽又ハ熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ對スル据付筒數及設計燃燒容量

(ニ) 微粉炭燃燒用機器 種類、乾燥器、粉碎機、輸送裝置及火口等ノ種ト數及

油又ハ瓦斯燃燒用機器 種類、容量、筒數、原動機ノ種類ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ニ) 汽罐給水設備 給水ポンプ 種類、容量及筒數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、キロワット數及筒數

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 汽罐 種類、氣壓、汽温、蒸汽量、加熱面積及過熱面積、蒸氣貯藏器 種類、貯藏容量、汽機及補助機用ノ總蒸汽又ハ熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ對スル据付筒數及設計燃燒容量

(ニ) 微粉炭燃燒用機器 種類、乾燥器、粉碎機、輸送裝置及火口等ノ種ト數及

油又ハ瓦斯燃燒用機器 種類、容量、筒數、原動機ノ種類ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ニ) 汽罐給水設備 給水ポンプ 種類、容量及筒數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、キロワット數及筒數

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 汽罐 種類、氣壓、汽温、蒸汽量、加熱面積及過熱面積、蒸氣貯藏器 種類、貯藏容量、汽機及補助機用ノ總蒸汽又ハ熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ對スル据付筒數及設計燃燒容量

(ニ) 微粉炭燃燒用機器 種類、乾燥器、粉碎機、輸送裝置及火口等ノ種ト數及

油又ハ瓦斯燃燒用機器 種類、容量、筒數、原動機ノ種類ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ニ) 汽罐給水設備 給水ポンプ 種類、容量及筒數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、キロワット數及筒數

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 汽罐 種類、氣壓、汽温、蒸汽量、加熱面積及過熱面積、蒸氣貯藏器 種類、貯藏容量、汽機及補助機用ノ總蒸汽又ハ熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ對スル据付筒數及設計燃燒容量

(ニ) 微粉炭燃燒用機器 種類、乾燥器、粉碎機、輸送裝置及火口等ノ種ト數及

油又ハ瓦斯燃燒用機器 種類、容量、筒數、原動機ノ種類ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ニ) 汽罐給水設備 給水ポンプ 種類、容量及筒數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、キロワット數及筒數

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 汽罐 種類、氣壓、汽温、蒸汽量、加熱面積及過熱面積、蒸氣貯藏器 種類、貯藏容量、汽機及補助機用ノ總蒸汽又ハ熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ對スル据付筒數及設計燃燒容量

(ニ) 微粉炭燃燒用機器 種類、乾燥器、粉碎機、輸送裝置及火口等ノ種ト數及

油又ハ瓦斯燃燒用機器 種類、容量、筒數、原動機ノ種類ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ニ) 汽罐給水設備 給水ポンプ 種類、容量及筒數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、キロワット數及筒數

(イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、氣温、眞空度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量、筒數(常用ト豫備トノ別)



(ヌ) 其ノ他附屬設備  
機械器具ノ裝置、建物及汽機ノ基礎並ニ冷却用水路等ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

(丙) 内燃力設備

(イ) 内燃機種類、キロワット數、回轉數、燃料消費量及筒數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 瓦斯發生裝置種類、發生容量及筒數

(ハ) 消音裝置種類、材料及大サ及筒數

(ニ) 貯油槽、瓦斯溜種類、容量及筒數

(ホ) 燃料ノ種類及標準發熱量ヲ附記スベシ

(ト) 内燃機冷却設備種類、容量及筒數、原動機ノ冷却水ポンプ種類、キロワット數及筒數

(ヘ) 冷却池又ハ冷却塔種類、容量及筒數、附屬機器ノ種類

(ニ) 冷却水ノ種類及可能取水量ヲ附記スベシ

(ハ) 煙突種類、口径、地表上ノ高及基數

(ト) 其ノ他附屬設備

(三) 機械器具ノ裝置、建物及内燃機ノ基礎、冷却池又ハ冷却塔並ニ消音裝置ハ圖面ヲ以テ之ヲ表示シ別ニ發電所ノ位置ヨリ凡ソ百五十米以内ノ狀況ヲ詳細ニ示ス圖面ヲ添附スベシ  
電氣設備

(イ) 發電機ニ在リテハキロワット數、交流周波數、回轉數、結線法、勵磁法、筒數(常用ト豫備トノ別)及原動機トノ連結方法

(ロ) 勵磁機種類、キロワット數、電壓、回轉數、勵磁法、筒數(常用ト豫備トノ別)

(ハ) 變壓器種類、回轉數及筒數(常用ト豫備トノ別)

(ニ) 電動發電機、回轉變流器、整流機種類、直交流ノ別、キロワット數、電壓、電流、相、周波數、回轉數及筒數(常用ト豫備トノ別)

(ホ) 蓄電池種類、放電率及容量、筒數

(ト) 中性點接地方法、接地裝置ノオーム數、種類、電流容量等

(ヘ) 制御裝置手動式、自動式、遠方制御式ノ別、自動式又ハ遠方制御式ニ限リ其ノ裝置ノ大要

(チ) 保安裝置種類及構造ノ大要(發電機、母線、變壓器、送電線等ノ保安裝置)

(ニ) 機械器具ノ裝置及電線ノ接続ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

三 受電設備 每受電地點ノ位置及供給者

(イ) 受電地點ノ出力 第五條第一項第

(ロ) 電氣方式 直流、交流、周波數、受電電壓

(ハ) 送電上ノ責任分界ナルベキ開閉器及受電電力ヲ遮斷シ得ベキ

(ハ) (ロ) (イ) 送電上ノ責任分界ナルベキ開閉器及受電電力ヲ遮斷シ得ベキ電氣設備

開閉器

(ニ) 保安裝置種類及構造ノ大要  
電線ノ接続及責任分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

四 送電設備 每送電線路ノ名稱、區間及互長(架空、地中、海底電線路ノ別)

(イ) 電氣方式 直流、交流、及最大電壓

(ロ) 架空電線路ノ構造

電線線條數、回線數、太サ、電線及被覆絶緣物ノ種類、電線地表上ノ最低ノ高、電線相互ノ間隔及燃架ノ方法

支持物(標準徑間、最大徑間、木柱(木材ノ種類、注入、不注入ノ別)、鐵塔、鐵柱又ハ鐵筋コンクリート柱ノ別及其ノ構造ノ大要、鐵塔、鐵柱、又ハ鐵筋コンクリート柱ヲ使

用スル場合ニ於テハ其ノ強度ニ關スル計算及重量

磚子(特別高壓ノモノニ限ル)種類、大サ、試驗

其ノ他構造ノ大要 航他ノ工作物トノ關係上施設スベキ工事、船舶通

合ニ於ケル工事等

(ハ) 地中電線路及海底電線路ノ構造

電線線條數、種類、互長、被覆絶緣物

電纜ノ種類、心線ノ種類、數及太サ

布設方法 引入式、直接埋設式

其ノ他構造ノ大要 地中函、接続函等ノ構造、他工作物トノ關係上施設スベキ工事等

(ニ) 開閉所 名稱及位置並ニ工事ノ大要

五 變電設備 每變電所ノ名稱及位置

(イ) 變電所ノ出力 (一)ニ準ズ

(ロ) 變壓器ノハニ準ズ

(ハ) 電動發電機、回轉變流機、整流器ノ(ニ)ニ準ズ

(ニ) 蓄電池ノ(ホ)ニ準ズ

(ホ) 中性點接地方法ノ(ハ)ニ準ズ

(ト) 制御裝置ノ(ト)ニ準ズ

(ヘ) 保安裝置種類及構造ノ大要

(ト) 機械器具ノ裝置及電線ノ接続ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

六 配電設備 每配電線路ノ名稱、區間及互長

配電設備 每配電線路ノ名稱、區間及互長



- (イ) 電氣方式相及線式 配電線路ノ最大電壓 特別高壓、高壓、低壓及二次電壓ヲ  
附記スベシ
  - (ロ) 需用者ノ端子電壓 電燈、電動機其ノ他電力装置ノ端子電壓  
架空電線路ノ構造
  - (ハ) 特別高壓ノモノニ在リテハ送電設備ノ(ロ)ニ準ジ高壓又ハ低壓ノモノニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スベシ。  
電線太サ、電線及被覆絶緣物ノ種類(高壓、低壓ノ別) 支持物種類及構造ノ大要  
其ノ他構造ノ大要
  - (ニ) 特別高壓電線路ノ互長ヲ附記スベシ  
地中電線路及水底電線路ノ構造  
電線條數、種類、被覆絶緣物ノ種類、心線ノ種類、數及太サ(特別高壓、高壓、低壓ノ別) 布設方法  
其ノ他構造ノ大要
  - (ホ) 特別高壓電線路ノ互長ヲ附記スベシ  
容量、一次電壓、二次電壓、相、尙特別高壓ノ變壓器  
モノニ限リ其ノ位置及發電設備ノ(三ノハ)ニ準ズ
  - (ヘ) 需用場所ニ於ケル電氣設備(特別高壓ノモノニ限ル) 送電設備ノ  
(ト) 保安通信用電話設備(ニ準ズ)
- 配電線路ノ構造及機械器具ノ装置並ニ電線ノ接続ハ別ニ圖面ヲ以テ

- 之ヲ表示スベシ
- 第十條 第一條第三號ノ事業(以下家用電氣工作物施設ト稱ス)ノ施設ヲ爲サントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ  
一 計畫書 全出力及最大電壓ヲ記載スベシ  
二 工事設計明細書 第九條ニ因リ  
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ  
一 發電設備ヲ爲サントスルモノニ在リテハ電氣供給事業者ヨリノ受電ニ依ラザル事由ノ説明書  
二 水力ヲ原動力ニ使用セントスルモノニ在リテハ第三條第一項第五號ニ依ル書面  
三 他ヨリ受電セントスルモノニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書ノ謄本
- 四 工事落成期限書
- 第十一條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後工事設計明細書中ノ事項ヲ變更セントスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ但シ電氣供給事業者供給區域内ニ於テ電線路ヲ延長、増設又ハ短縮シ若ハ其ノ位置ヲ變更セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項但書ニ依リ施設シタル事項ハ六月毎ニ取纏メ關係書類及圖面ヲ具シ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第十二條 電氣工作物ノ滅失又ハ損壞ニ因ル復舊工事ハ直ニ之ニ著手スルコトヲ得

- 發電設備又ハ變電設備ノ復舊工事ニ關シテハ第十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ緊急ノ必要アル場合ニ限リ直ニ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ  
前二項ノ復舊工事ニ著手シタルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第十三條 電氣事業者第八條、第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第十四條 電氣工作物ノ施設、電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ニ關シテハ昭和七年逓信省令第五十三號電氣工作物規程ニ依ル但シ同規程中逓信大臣又ハ逓信局長トアルハ南洋廳長官トス
- 第十五條 火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造シ又ハ貯藏スル場所其ノ他危險アリト認ムル場所ニ電氣工作物ヲ施設セントスルトキハ其ノ工事方法ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ
- 第十六條 電氣事業者電氣工作物ノ滅失若ハ損壞又ハ漏水其ノ他事故ノ場合ニ於テ電力ノ不足ヲ補給スル爲三月内ヲ限リ他ヨリ受電セントスルトキハ工事方法ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ  
前項ノ場合ニ於テ南洋廳長官必要ト認ムルトキハ其ノ期間ヲ延長スルコトアルベシ
- 第十七條 家用電氣工作物施設者其ノ剩餘ノ電氣アル場合ニ於テ特殊ノ事由ニ因リ之ヲ他ニ供給セントスルトキハ其ノ事由及工事方法ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ

- 第四章 檢査
- 第十八條 第八條、第十條、第十一條、第十二條第二項、第十五條、第十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ第十二條第三項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル工事落成シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第十九條 前條ノ届出アリタルトキハ南洋廳長官ハ檢査官吏ヲ派遣シ其ノ電氣工作物ヲ檢査セシム  
前項ノ檢査ニ合格シタルトキハ使用認可證ヲ交付ス但シ特ニ檢査ノ必要ナシト認メタルトキハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトアルベシ  
檢査官吏ニ於テ危険ナシト認メタルトキハ直ニ假使用認可證ヲ交付スルコトヲ得
- 第二十條 前條ノ檢査ヲ受ケタル場合ニ於テハ第四號様式ニ依ル電氣工作物竣工明細書並ニ第三號様式ニ準ズル工事費精算書(家用電氣工作物施設ノ場合ニ於テハ之ヲ要セズ)ヲ調製シ當該電氣工作物檢査ノ爲派遣セラレタル檢査官吏ニ提出シ同時ニ其ノ副本ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ
- 第二十一條 電氣事業者ハ第十九條ノ規定ニ依ル使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受ケタル後ニ非ザレバ電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ試驗ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ其ノ旨所轄支廳長ニ届出デ認可前使用スルコトヲ得
- 第五章 主任技術者
- 第二十二條 電氣事業者ハ工事著手前ニ學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ



主任技術者ニ缺員ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク其ノ後任者ヲ選任スベシ  
第二十三條 電氣事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歴書ヲ添へ遲滞ナク其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ  
第二十四條 南洋廳長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ命ズルコトアルベシ

第二十五條 主任技術者疾病、旅行其ノ他ノ事由ニ因リ一月以上ニ互リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ履歴書ヲ添へ其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツベシ  
第二十六條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ代務者之ニ署名捺印スベシ但シ第二十二條第一項ノ規定ニ依ル主任技術者選任前ニ在リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スベシ

第六章 業務  
第二十七條 電氣供給事業者ハ南洋廳長官ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ  
電氣供給事業者正當ノ事由アル場合ハ前項期間ノ延長ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條 電氣供給事業者ハ正當ノ事由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ズ  
第二十九條 電氣供給事業者ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ百分ノ四以上ノ變動ヲ生ゼシメ又ハ技術上已ムヲ得ザルモノヲ除クノ外光度ニ不定ヲ生ゼシメザルコトヲ要ス

第三十條 電氣供給事業者交流電氣ヲ供給スル場合ニ於テハ技術上已ム

ヲ得ザル場合ヲ除クノ外其ノ周波數ヲ一定ニ保持スルコトヲ要ス  
第三十一條 電氣供給事業者ガ白熱電球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ其ノ光度ガ百分ノ八十以下ニ減少シ且ツ需用者ノ請求アルトキハ新ナル電球ト取換ヲ爲スベシ  
第三十二條 電氣供給事業者工事其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ送電ヲ中止スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外豫メ其ノ旨ヲ關係需用者ニ周知スベシ

第三十三條 電氣事業者ハ電線路ヲ検査シ安全ト認ムルニ非ザレバ之ニ送電スルコトヲ得ズ  
第三十四條 發電所、受電所及變電所ニハ相當ノ技術者ヲ置キ送電中ニテ監視セシムベシ  
第三十五條 電氣供給事業者ハ保線係員ヲシテ常時電線路ヲ監視セシムベシ

第三十六條 電氣供給事業者ハ電氣工作物ノ修理若ハ巡視ヲ爲サシムル爲メハ電球交換ノ爲適當ノ場所ニ散宿所ヲ設置シ常時技術員ヲ駐在セシムベシ  
第三十七條 電氣事業者ハ出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險アリト認ムルトキハ直ニ當該範圍ニ對スル送電ヲ遮斷スベシ  
第三十八條 電氣事業者ハ送電中ノ電線路ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シ危險豫防ノ措置ヲ爲サシメ其ノ旨ヲ出張ノ警察官ニ届出デシムベシ技術員ハ警察官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ退場スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テハ適當ノ標識ヲ携帯セシムベシ

第三十九條 電氣供給事業者電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ニ付テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日限リ其ノ日時、場所、原因、狀況、措置其ノ他ノ關係事項ヲ具シ南洋廳長官ニ届出ツベシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ大要ヲ即報シ同時ニ所轄支廳長ニ届出ツベシ

- 一 電氣工作物ノ損壞又ハ漏電其ノ他ノ電氣事故ニ因ル人畜ノ死傷又ハ火災其ノ他ノ災害
- 二 發電所、變電所、電線路等ノ故障ニ因ル六時間以上ニ互ル電氣供給ノ停止
- 三 前各號ノ外重大ト認ムル事故

自家用電氣工作物施設事故ニ關シテハ前項但書ノ第一號及第三號ノ規定ヲ準用ス

第四十條 電氣供給事業者供給區域内ニ於ケル電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定セントスルトキハ電氣供給規程ヲ定メ適用區域ヲ記載シタル書面ヲ具シ事業開始前南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ
  - 一 電氣料金及附帶料金算出説明書
  - 二 實施後五年間ニ於ケル收支豫算書 第二號様式ニ準ジ調製スベシ
  - 三 適用區域平面圖 第四條第三號ニ準ジ調製スベシ
- 第四十一條 電氣供給規程ハ電燈、電力、電熱等ノ各部ニ分チ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 供給方法及種別
  - 二 供給時間

- 三 電氣料金
- 四 器具、機械ノ負擔
- 五 工費ノ負擔
- 六 取付ノ箇數、容量、場所等ニ關シ制限ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ事項
- 七 其ノ他供給上ノ條件

第四十二條 第一條第二號ノ場合ニ於テハ電氣料金其ノ他供給條件ヲ記載シタル契約書ノ原本ヲ具シ供給開始前南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ電氣料金其ノ他供給條件ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第四十三條 電氣供給事業者左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク南洋廳長官ニ届出ツベシ

- 一 會社成立シタルトキ 會社登記簿ノ原本ヲ添付スベシ
  - 二 會社ノ取締役、監査役ヲ選任シ若ハ解任シタルトキ又ハ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定メ若ハ之ヲ變更シタルトキ
  - 三 支配人ヲ選任シ若ハ解任シ又ハ變更シタルトキ
  - 四 會社ノ定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
  - 五 商號、名稱若ハ主たる事務所ヲ變更シ又ハ營業所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ
  - 六 借入金ヲ爲シ又ハ返済シタルトキ
  - 七 株金ノ拂込アリタルトキ 使途ノ大要ニ關スル説明書ヲ添付スベシ
  - 八 事業ヲ開始シタルトキ
- 第四十四條 左ノ場合ニ於テハ關係書類ヲ添へ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ



- 一 資本ノ増加又ハ減少ヲ爲サントスルトキ
- 二 社債ヲ募集セントスルトキ
- 第四十五條 電氣供給事業者ハ毎事業年度經過後三月内ニ第五號様式ニ依リ調製シタル電氣事業報告書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ
- 前項ノ報告書ニハ營業報告書、財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益處分ニ關スル書面ヲ添附スベシ
- 第四十六條 電氣供給事業者電氣供給事業以外ノ事業ヲ兼營セントスルトキハ左ノ書類ヲ具シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ
  - 一 事業計畫書
  - 二 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法
  - 三 事業上ノ收支概算書
- 電氣供給事業者兼營事業ヲ開始、休止、廢止又ハ讓渡シタルトキハ左ノ書類ヲ具シ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第七條 事業ノ移轉及廢止
- 第四十七條 電氣供給事業者其ノ事業ヲ讓渡サントスルトキハ左ノ書類ヲ具シ當事者連署ノ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ
  - 一 讓渡契約書ノ謄本
  - 二 讓渡價格算出説明書及資料
  - 三 讓受ニ要スル資金出資ノ方法ヲ記載シタル書面
- 申請者個人以外ノモノナルトキハ前項ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ
  - 一 讓渡人又ハ讓受人ガ會社ナルトキハ定款及會社登記簿ノ謄本、組合ナルトキハ讓渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本
  - 二 讓渡人又ハ讓受人ガ公共團體ナルトキハ讓受渡ニ關スル議決書ノ謄本及關係豫算書

- 三 讓受人ガ會社發起人ナルトキハ定款、電氣供給事業者ニ非ザル會社ナルトキハ定款及會社登記簿ノ謄本並ニ財産目録、貸借對照表及損益計算書、組合ナルトキハ組合契約書ノ謄本並ニ財産目録、貸借對照表及損益計算書
- 電氣供給事業者ノ一部ヲ讓渡サントスルトキハ前項ノ書類ノ外讓渡スベキ事業ノ範圍ヲ記載セル書類及圖面ヲ添附スベシ
- 相續ニ依リ電氣供給事業者ヲ承繼シタル者ハ戶籍謄本ヲ添へ遲滞ナク南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第四十八條 電氣供給事業者タル會社ガ合併セントスルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス
- 第四十九條 前二條ノ規定ニ依リ讓渡又ハ合併ヲ終了シタルトキハ當事者連署ノ上遲滞ナク南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第五十條 電氣供給事業者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ事業ノ全部若ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スコトヲ得ズ
- 第五十一條 自家用電氣工作物施設者ニ異動アリタルトキハ之ヲ承繼シタル者異動ノ事實ヲ證スル書類ヲ具シ南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 第八章 監督
- 第五十二條 南洋廳長官ハ職員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況又ハ事業經營ノ實況ヲ監督セシムルコトアルベシ
- 南洋廳長官必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ現ニ使用シ又ハ使用セントスル器具、機械其ノ他物品ノ見本ヲ差出サシメ當該物品ノ試験ヲ爲スコトアルベシ

- 前項ニ依ル費用及試験ニ因テ生ズル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス
- 第五十三條 南洋廳長官ハ左ノ場合ニ於テハ電氣工作物ノ撤去若ハ使用ノ停止又ハ工事ノ變更若ハ中止ヲ命ズルコトアルベシ
  - 一 電氣工作物又ハ其ノ工事ガ他ニ障害ヲ及ボシ又ハ危險アリト認ムルトキ
  - 二 電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ互リ其ノ使用ヲ爲サザルトキ
- 第五十四條 所轄支廳長ハ危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ニ對シ電氣工作物及其ノ工事ニ關シ保安上必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
- 第五十五條 南洋廳長官公益上必要ト認ムルトキハ電氣供給事業者ニ對シ事業經營上必要ナル設備ノ變更若ハ増設ヲ命ジ又ハ料金ノ制限其ノ他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルベシ
- 第五十六條 南洋廳長官ハ左ノ場合ニ於テハ電氣供給事業者ノ施設ノ爲自家用電氣工作物ノ施設者ニ對シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルベシ
  - 一 工地上電線路ノ共用ヲ已ムヲ得ズト認メタルトキ
  - 二 天災其ノ他臨時事故ニ因リ電氣供給事業用電氣工作物ノ障害ヨリ生ズベキ電氣ノ供給又ハ使用ノ停止ヲ豫防セシムル爲公益上電氣ノ流用ヲ已ムヲ得ズト認メタルトキ
- 第五十七條 前條ノ命令ニ因リ必要ヲ生ジタル工事費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ南洋廳長官之ヲ裁定ス
- 前項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書三通ヲ提出スベシ
  - 一 申請人及相手方ノ氏名又ハ商號及住所

- 二 申請ノ目的及理由
- 南洋廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
- 前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ南洋廳長官ハ申請書ノミニ依リ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同ジ
- 第五十八條 電氣事業者本令又ハ本令ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキハ南洋廳長官ハ電氣工作物ノ使用ヲ停止シ又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルベシ
- 第九章 雜則
- 第五十九條 電氣事業者ハ毎年十二月末日現在ニ於ケル從業者ノ職務別及兵役關係別數報告書(第六號様式)發電所ニ於ケル燃料種類別年使用額報告書(第七號様式)ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ之ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ但シ出力一千キロワットニ滿タザル自家用電氣工作物施設者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六十條 電氣供給事業者電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ明治四十四年逡信省令第五十號電氣計器檢定規則ニ依リ檢定ニ合格シ且其ノ效力ヲ失ハザルモノヲ使用スベシ
- 第六十一條 國ニ於テ第一條第三號ニ規定スル電氣工作物ヲ施設セントスルトキハ當該官廳ハ第十條ニ掲グル書類及圖面ヲ具シ南洋廳長官ニ報告スルコトヲ要ス
- 前項ノ規定ニ依リ電氣工作物竣工シタルトキ又ハ施設ヲ變更シ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ當該官廳ハ關係書類及圖面ヲ具シ南洋廳長官ニ報告スルコトヲ要ス



第六十二條 本令ハ第六十一條、第六十四條及第六十五條ノ規定ヲ除クノ外國ニ於テ經營スル電氣事業ニ付之ヲ適用セズ

第十章 罰則

第六十四條 電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給若ハ使用ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十五條 電氣事業者ノ承諾ヲ得ズシテ濫リニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十六條 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケズシテ電氣供給事業ノ經營ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條、第十條、第十五條、第十七條、第二十一條、第二十八條、第四十六條第一項、第四十七條、第四十八條又ハ第六十條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第五十三條乃至第五十五條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキ

第六十八條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條、第十一條、第十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十五條、第三十九條、第四十條第一項、第四十二條又

ハ第五十條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ第十九條第一項ノ規定ニ依ル検査又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル監査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第六十九條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ科料ニ處ス

一 第十二條第二項、第二十三條、第二十五條、第四十六條第二項又

ハ第五十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザルトキ

二 第四十五條第一項又ハ第五十九條ノ規定ニ依ル報告書ヲ提出セザルトキ

第七十條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ義務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第七十一條 本令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前電氣供給事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

本令施行前既ニ爲シタル處分ハ本令施行後ト雖モ尙其ノ效力ヲ有ス前項ノ場合ニ於テ南洋廳長官必要ト認ムルトキハ書類若ハ圖面ヲ提出セシメ又ハ施設ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

(第一號様式)

工事費概算書

Table with columns: 項目 (Item), 單位 (Unit), 單價 (Unit Price), 數量 (Quantity), 金額 (Amount), 小計 (Subtotal), 備考 (Remarks). Rows include items like 創立費 (Establishment Fee), 電力工事費 (Power Work Fee), 用地 (Land), 水路 (Waterway), 調地又ハ貯水池 (Land leveling or reservoir), 機械器具 (Machinery), 雜設備 (Miscellaneous equipment), 發電所費 (Power plant fee), 建設費 (Construction fee), 原動機費 (Prime mover fee), 電氣機械器具費 (Electrical machinery fee), 運搬据付其ノ他 (Transportation and other), 變電所費 (Substation fee), 建設費 (Construction fee), 電氣機械器具費 (Electrical machinery fee), 運搬据付其ノ他 (Transportation and other), 送電線路費 (Transmission line fee), 架空送電線路 (Overhead transmission line), 地中送電線路 (Underground transmission line), 水底送電線路 (Submarine transmission line), 配電線路費 (Distribution line fee), 架空配電線路 (Overhead distribution line), 地中配電線路 (Underground distribution line), 水底配電線路 (Submarine distribution line), 需用者屋內工事費 (Consumer indoor work fee), 電燈 (Lighting), 電力 (Power), 電熱 (Electric heat), 修繕工場費 (Repair shop fee), 豫備費 (Reserve fee), 合計 (Total).

年月日

主任技術者 (擔當技術者)

氏名



支出ノ部

項目	単位	単位ニ 對スル 金額	數量	金額	小計	備考
水路維持費		円		円	円	(水路互長ヲ記 入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(水路工事費トノ割 合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
發電所運轉及維持費 (各發電所毎ニ 記載スルコト)						(出力ヲ記入) スルコト)
給料手當	人					
燃料	疋					
油及襪						
修繕費						(發電所工事費トノ割 合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
購入電力料 (受電地點毎ニ 記載スルコト)	一キロワ ット 又ハ 一キロワ ット時					(出力ヲ記入) スルコト)
變電所維持費 (各變電所毎ニ 記載スルコト)						
給料手當	人					
油及襪						
修繕費						(變電所工事費トノ割 合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
送電線路維持費						(互長ヲ記入) スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(送電線路工事費トノ 割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
配電線路維持費						(互長ヲ記入) スルコト)
給料手當	人					

(第二號様式)

事業上ノ收支概算書

收入ノ部

項目	単位	単位ニ 對スル 金額	數量	金額	小計	備考
	十燭光 一箇月	円	十燭光 換算燈數	円	円	
電燈料	定額 從量	一燈 一キロワ ット時				(電燈球ノ種類記入ノ コト從量燈ニ在リテ ハ一燈一箇月平均使 用キロワット時ヲ記 入スルコト)
電力料	定額 從量 特約 其他	一箇月 一キロワ ット 一キロワ ット時 一キロワ ット時 一キロワ ット時				(從量ニ依ル場合ニハ 一馬力一箇月平均キ ロワット時ヲ記入ス ルコト)
電熱料	定額 從量					
電燈器具損料	一箇月 一燈					
電氣計器損料	一箇月 一燈					(電氣計器ノワット數 ヲ記入スルコト)
電動機損料	一箇月 一キロワ ット					
器具賣上金						
電氣工事ヨリ生ズル 益						
雜收入						(利息、掃除 料其ノ他)
合計						







項目	單位	單位ニ 對スル 金額	數量	金額	小計	備考
送電線路費		円		円	円	
發電所及變電所 間架空電線	秆					(電線路互長ヲ 記入スルコト)
電線 碍子						
電柱(木柱、鐵柱) 又ハ鐵塔	本箇					(腕木ボルト綑縛線 御根鐵線等ヲ含ム) (運搬費ヲ含ム)
其ノ他ノ材料 建設費						
交渉踏破、伐木 其ノ他損害賠	秆					
其ノ他						
發電所、變電所 間地中電線	秆					(電線路ノ互長ヲ 記入スルコト)
電線 地中函	米 箇					
布設材料 布設費	布設 米					
損害賠償 其ノ他						(地中工作物移 轉費ヲ含ム)
配電線路費						
架空配電線路費	秆					
電線 柱	本					(互長ヲ記入 スルコト)
腕木碍子 其ノ他材料						
柱上變壓器 建設費	キロワツ ト					
其ノ他						(開閉器、保安 裝置等ヲ含ム)
地中配電線路費	秆					
電線 線渠	米 箇					
接續、函	箇					
地中函(變壓函 配電函)	箇					

項目	單位	單位ニ 對スル 金額	數量	金額	小計	備考
給水唧筒	箇	円		円	円	
汽機	ノ					
復水機器	ノ					
溫水炭器	ノ					
煙道	組					
煙道	突					
其ノ他						
原動機費(内燃力)						
發動機	箇					
附屬機械	ノ					(起動裝置及 唧筒ヲ含ム)
其ノ他						
電氣機器	箇					
發電機	ノ					
變壓器	ノ					
配電盤一式						
其ノ他						(取附用電線 等ヲ含ム)
運搬費						
据付費						
雜費						
變電所又ハ開閉所 費	(各變電所 毎ニ記載 スルコト)					
建設費						
用地	平方米					
基礎工事	立方米					
建築						
雜工事費						(發電所雜工 事費ニ準ズ)
電氣機器類						
變壓器	箇					
電動發電機其ノ他	ノ					
配電盤一式						
運搬費						
据付費						
雜費						



(第四號様式)

表紙

電氣工作物竣工明細書  年 月 日  事業者名
-------------------------------------

(注意 本書ヲ提出スル場合ニハ「封皮ニ電氣工作物竣工明細書」ト明記スルコト)

目次

順位	名 稱	頁
第一表	水 力 設 備	
第二表	汽 力 設 備	
第三表	内 燃 力 設 備	
第四表	發 電 所 電 氣 設 備	
第五表	送 電 線 路	
第六表	變 電 所 設 備	
第七表	高 壓、低 壓 配 電 線 路	

(注意 該當事項ナキ爲表ノ調製ヲ省略セル場合ニハ頁ノ欄ニ「無」ト附記スルコト)

項 目	單位	單位ニ 對スル 金額	數量	金額	小計	備 考
水底配電線路費	料	円		円	円	
電 纜	米					
其ノ他						
變 壓 器	キロワツト					
布 設 材 料	電 纜	米				
布 設 費	ノ					
損 害 賠 償						(地中工作物移 轉費ヲ含ム)
其ノ他						
屋 内 工 事 費						
電 動 機	キロワツト					
電動機取附工事費						
電 燈 工 事 費						
其ノ他						
修 繕 工 場 費						
用 地	立方米					
建 設 備 一 切						
其ノ他 設 備 費						
豫 備 費 計						
總 計						

年 月 日

主任技術者(擔當技術者)

氏 名



水櫃又ハサージタンク	構造大要	( ) 調整池	全容量	
	餘水吐設備		有效容量	
	制水設備		利用水深(最大)	
	餘水路構造 「サージタンク」型式		湛水面積(最高水位) 附屬設備	
水	材料	水	機械番號	
	太サ		種類	
	條數		型式	
	長		キロワット數	
	鐵管總重量		使用水量	
	水壓管試驗成績		回轉數	
	銲接熔接ノ別		特有速度	
	保安裝置		能	負荷 %
	制水瓣			%
	製造者名			%
支持施設	率	%		
吸出管	型式	車	「ランナー」翼ノ材	
	吸出高		推力軸承種類	
放水路	構造大要	車	箇常用	
	互長		數豫備	
	勾配		調速機種類	
水量測定設備			製造者名	
工事監督技術者名			製造年月	
土木工事請負者名			工事著手年月日	
			工事竣工年月日	

工作物ノ構造及機械器具ノ裝置竝ニ配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第一表

水力設備 何發電所

河川名又ハ湖沼名	川水系				川及				川				
取水口ノ位置													
放水口ノ位置													
取水量	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川
使用水量	最大	常時	常時尖頭	特殊									
落差	有效落差	總落差											
理論水力	最大	常時	常時尖頭	特殊									
堰	名稱	( ) 取水堰堤	( ) 取水堰堤	( ) 貯水池堰堤	( ) 調整池取水堰堤								
	構造ノ大要												
	頂上最大高												
	基礎體積(土「コンクリート」)												
	土砂吐水門大サ												
導水路	總互長												
	種類	隧道	水壓隧道	渠蓋	開渠	水路橋	水路管	樋					
	互長												
	勾配												
	構造大要												
水路	モルタル汁注入工												
	水路土砂吐設備												
	水路餘水吐設備												
取水口沈砂池	構造大要	( ) 貯水池	全容量										
			有效容量										
			利用水深(最大)										
			湛水面積(最高水位) 附屬設備										



汽	給	種	類		
		容	量		
水	揚	種	程		
		筒	常		
罐	「ボ	筒	用		
		數	備		
給	ン	製造者名			
		種	類		
水	「ブ	原	類		
		動	キ		
機	機	キ	ロ		
		ワ	ツ		
設	貯	種	類		
		容	量		
備	水	筒	數		
		製	造		
給		水ノ設備			
汽	節	種	類		
		加	熱		
罐	炭	加	熱		
		前	後		
給	器	製	造		
		者	名		
水	温	種	類		
		加	熱		
ノ	度	加	熱		
		前	後		
加	熱	製	造		
		者	名		
及	清	種	類		
		容	量		
淨	水	製	造		
		者	名		
置	器	附	機		
		屬	器		
復	冷	種	類		
		汽	面		

第二表

		汽 力 設 備		何 發 電 所	
汽	機	機	番	號	
		種	式	類	
機	機	キ	ロ	ワ	ツ
		ト	ト	ト	ト
機	機	汽	壓	温	
		汽	壓	温	
機	機	眞	空	度	
		回	轉	數	
機	機	蒸	熱	消	
		汽	費	量	
機	機	又	ハ	背	
		ハ	背	負	
機	機	筒	數	常	
		製	造	者	
機	機	製	造	者	
		製	造	者	
機	機	種	類	類	
		型	式	式	
機	機	汽	壓	温	
		汽	壓	温	
機	機	蒸	發	量	
		加	熱	面	
機	機	過	熱	面	
		有	火	床	
機	機	筒	數	常	
		製	造	者	
機	機	製	造	者	
		製	造	者	
機	機	種	類	類	
		貯	藏	容	
機	機	使	用	力	
		筒	數	名	
機	機	製	造	者	
		製	造	者	
機	機	種	類	類	
		火	床	ノ	
機	機	設	計	燃	
		一	罐	ニ	
機	機	製	造	者	
		製	造	者	
機	機	種	類	類	
		發	熱	量	



設 備	誘導通風機	種類		
		通風量及筒數		
		風壓		
		製造者名		
		種類		
	原動機	キロワット數及筒數		
		製造者名		
	煙突	種類		
		口徑		
		地表面上 汽罐火床面上		
突	基數			
	製造者名			
其 他 附 屬 設 備				

機械器具ノ裝置ヲ示ス圖面竝ニ構内ニ施設シタル各種設備ノ配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

水 設 備	復水器	冷汽容量		
		冷却水標準溫度		
		筒數		
		製造者名		
		附機 屬器		
	冷却池又ハ冷却塔	構造		
		容量		
		筒數		
		製造者名		
		附機 屬器		
煙 道 内 設 備	空氣豫熱器	種類		
		加熱面積及筒數		
		豫熱前後ノ空氣溫度		
		製造者名		
	瓦斯集塵裝置	種類		
		筒數		
製造者名				
附機 屬器				
通 風 機	押込通風機	種類		
		通風量及筒數		
		風壓		
		製造者名		
	原動機	種類		
		キロワット數及筒數		
製造者名				



内 燃 機 冷 却 設 備	冷 却 水 「 ボ ン プ 」 機	種 類			
		容 量			
		揚 程			
		筒 數			
		製 造 者 名			
	原 動 機	種 類			
		キ ロ ワ ッ ト 數			
		筒 數			
	冷 却 池 又 ハ 冷 却 塔	附 屬 機 器	製 造 者 名		
			構 造		
容 量					
筒 數					
煙 突	種 類				
	口 徑				
	地 表 面 上 ノ 高				
	基 數				
其 附 屬 ノ 設 備	製 造 者 名				

機械器具ノ装置、建物及内燃力機ノ基礎等ヲ示ス圖面ヲ添付スベシ

第三表

内 燃 力 設 備 何 發 電 所

内 燃 機	機 械 番 號			
	種 類			
	キ ロ ワ ッ ト 數			
	「サイタル」數			
	氣 筒 數			
	氣筒ノ内徑及衝程			
	回 轉 數			
	筒 數	常 用		
		豫 備		
	機 機 料 量	燃 費 （時 キ ワ ッ ト 當 料 量）	負 荷 %	
製 造 者 名				
製 造 年 月				
消 音 裝 置	構 造			
	材 料			
	大 小			
	筒 數			
貯 油 槽	製 造 者 名			
	種 類			
	容 量			
	筒 數			
標 準 料	製 造 者 名			
	發 熱 量			



動機	キロワット数		
	製造者名		
主 要 變 壓 器	型		
	キロヴォルトアンペア数		
	電 壓	一 次	
		二 次	
	相		
	周 波 数		
	結 線 法		
	冷 却 法		
	箇 数	常 用	
		豫 備	
製造者名			
製造年月			
避 雷 器	種類		
	箇 数		
	製造者名		

機械器具ノ装置及電線ノ接続ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第四表

發電所電氣設備

發電所名			
發 電 機	番 號		
	種 類		
	型		
	KW又ハKVA 數及力率		
	電 壓		
	相		
	周 波 数		
	回 轉 数		
	結 線 法		
	冷 却 方 式		
原動機トノ連結方法			
箇 数	常 用		
	豫 備		
製造者名			
製造年月			
勵 磁 機	種 類		
	K W 数		
	電 壓		
	回 轉 数		
	勵 磁 法		
	箇 数	常 用	
		豫 備	
	原動機トノ連結方法		
	製造者名		
	原 種	類	



線	子	太	サ		
		試験電壓及試験時間			
		總	箇	數	
	架空地線	材	料		
		太	サ		
		條	數		
	保安通信設備	電話機設置場所ノ數			
		獨立併設ノ別及回線數			
		回線ノ方式			
		互		長(杆)	
電話線		種	類		
		太	サ		
搬送式電話ノ區間					
地中電	電線路ノ名稱				
	種類(地中、水底ノ別)				
	區		間		
	互		長(杆)		
	回		線	數	
	電氣方式(直流、交流ノ別、相及線式)				
	最		大	電	
	周		波	數	
	送		電	容	
	量(キロワット)				
(水底)電	種類及型式				
	定		格	電	
	心		線	數	
	心		線	ノ	
	心		線	ノ	
	心		線	ノ	
絶		緣	物		
ノ		種	類		

第五表

		送電線路		
架	架空電線路ノ名稱			
	區		間	
	互		長(杆)	
	回		線	數
	電氣方式(直流、交流ノ別、相及線式)			
	最		大	電
	周		波	數
	送		電	容
	量(キロワット)			
	空	電	種	類
太			サ	
條			數	
線		延		長(杆)
		電線地表上ノ最低ノ高(米)		
		徑	最	大(米)
標			準(米)	
間		平		均(米)
		支	鐵	標準鐵塔重量(貳)
平均鐵塔重量(貳)				
塔	基		數	
	製		造	
持	鐵	筋「コンクリート」	ノ	
		種	類	
	木	種		類
不		注		
物	標	準	柱、H柱等ノ別	
		末口ノ太サ(種)		
	注	基		數
碍	種		類	



第六表

變電所設備

變電所ノ名稱			
位 置			
目 的			
出 力			
型			
キログオルトアンペア數			
電 壓	一 次		
	二 次		
相			
周 波 數			
結 線 法			
冷 却 法			
壓	常 用		
	「バンク數」 豫 備		
箇 數	常 用		
	豫 備		
製 造 者 名			
製 造 年 月			
器	中 性 點	種 類	
	ノ 接 地	オ ー ム 數	
		容量(電流及時間)	
避 雷 器	種 類		
	電 壓		
	箇 數		
製 造 者 名			

機械器具ノ裝置及電線ノ接續ヲ示ス圖面竝ニ構内ニ施設セル建物及各種設備ノ配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

線	鍍裝ノ有無及種類			
	外 徑			
	電 纜 ノ 條 數			
	製 造 者 名			
	布設方法(引込式、直接埋設式ノ別)			
地中函數、開閉場所數				
路	電話機設置場所ノ數			
	獨立添架ノ別			
	回 線 ノ 方 式			
	回 線 數			
	互 長(杆)			
	電 話 線	種 類		
		太 さ(耗)		
被覆絶緣物ノ種類				
開 閉 所 數、散 宿 所 數				

架空電線路標準支持物ニ於ケル電線及地線配置概略圖及支持物ノ構造圖竝ニ強度ニ關スル計算書ヲ添附スベシ



(第五號様式)

表紙

自	年	月	日
至	年	月	日
電氣事業報告書			
所在地			
事業者名			

(注意 本報告書ヲ提出スル場合ニハ封皮ニ「電氣事業報告書」ト明記スルコト)

目次

順位	名稱	頁
第一表	電線路	
第二表	電燈取附數及需用家數	
第三表	電力(電熱)供給契約數及需用家數	
第四表	發電及受電實績	
第五表	損益表	
第六表	従業者	

(注意 該當事項ナキ爲表ノ調製ヲ省略セル場合ニハ頁ノ欄ニ「無」ト附記スルコト)

第七表

高低配電線路

配電區域		高壓	低壓
電氣方式(直流、交流ノ別、相及線式)			
最大電壓		高壓	低壓
需用者ノ端子電壓			
架空電線路	電種類	高壓	低壓
	線太サ	高壓	低壓
支持物	種類	標準徑	間
	最大徑	間	
地水中電線路	電種類	高壓	低壓
	被覆絶緣物ノ種類	高壓	低壓
布設方法			
電話機設置場所ノ數			
架空、地中ノ別			
回線ノ方式			
回線數			
互長(軒)			
保安通信設備	電種類	類	
	線太サ	サ(耗)	
被覆絶緣物ノ種類			

注意

- 1 配電區域ノ欄ニハ電氣工事ヲ施行シタル區域ヲ記載シ電線路ノ互長(高壓、低壓、添架部分ヲ通算シタル總互長ヲ架空、地中、水底ノ別毎ニ記載スルコト)及配電用變壓器箇數(架空線用、地中線用、需用者構内ノ別)並ニ其ノ容量(K·V·A)ヲ附記スベシ
- 2 架空電線路ノ欄ニハ電線ノ延長(高壓、低壓ノ別)及支持物ノ基數ヲ、地中、水底電線路ノ欄ニハ電纜ノ延長(高壓、低壓ノ別)ヲ附記スベシ
- 3 電線路ノ構造及電線ノ接續ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ



電	高 壓	何ヴォルト } 併設			
		何ヴォルト } 計			
線 路	回 線	合 計			
		低 壓			
	高 壓				
	特別 高壓	何ヴォルト			
		何ヴォルト			
		計			
合 計					

注 意

- 1 他人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ電線路互長ノ當該欄ニ「他」ト冠シテ別記シ合計ニ算入セザルコト
- 2 木柱ニ於ケルH柱ハ各一基トシテ記載スルコト
- 3 送電線路圖（縮尺二萬五千分ノ一以上ノ平面圖トシ發電所、變電所ノ位置及電線路ノ中心線竝ニ其ノ經過スル主要ナル市街村落ノ名稱及地勢ヲ記載スベシ）竝ニ配電線路圖（縮尺二千分ノ一以上ノ平面圖トシ發電所、變電所、配電用變壓器、開閉器等ノ位置竝ニ道路需用者、家屋其ノ他主要ナル目標トナルベキ地物ヲ記入スルコト）ヲ添附スベシ

第一表

電 線 路

年 月 日現在

種 別		送電線路	配電線路	合 計	
架 空 電 線 路 互 長 高 壓 (杆)	低 壓 及 高 壓	低 壓			
		高 壓			
	低 壓 及 高 壓 併 架				
	計				
	特 別 高 壓	何ヴォルト			
		何ヴォルト			
		何ヴォルト } 併架			
	計				
	合 計				
	回 線 互 長 高 壓 (杆)	低 壓	低 壓		
			高 壓		
		特 別 高 壓	何ヴォルト		
何ヴォルト					
計					
合 計					
支 持 物 數	木 柱				
	鐵塔又ハ鐵柱				
	鐵筋「コンクリート」柱				
	合 計				
地 中 (水 底)	低 壓 及 高 壓	低 壓			
		高 壓			
	低 壓 及 高 壓 併 架				
	計				
	特 別 高 壓	何ヴォルト			
		何ヴォルト			



	燈 數 別	計	需用家數	
			取附燈數	
			取附計器容量	
			本期間供給キロワット時數	
合 計			需用家實數	
			取附燈數	
不 定 時	取 附 燈 數	何 々 計	需用家數	
			何々燈	
			計	
			取附キロワット數	
無 料	取 附 燈 數	屋 内 屋 外 計	需用家數	
			屋内燈	
			屋外燈	
			取附キロワット數	
總 計			需用家實數	
			取附燈數	
			内小型電氣器具承口數	
休 止			需用家數	
			取附燈數	
臨 時			本期間最大取附燈數	
			本期間一日平均取附燈數	
事 業 用			取附燈數	
			取附キロワット數	

注意

1 一需用家當取附燈數別ハ下記ノ區別ニ依ルコト

(定額)	(從量)
一燈	四燈以下
二燈	五燈以上
三燈以上	十燈以上

第二表

電燈取附數及需用家數

年 月 日現在

種 別		數 量			
定 額	一 需 用 家 當 取 附 燈 數 別	何 燈 以 下	需用家數		
			取附燈數		
			取附キロワット數		
		定額從量 併用需用 家ノ定額 燈	需用家數		
			取附燈數		
			取附キロワット數		
	計	需用家數			
		取附燈數			
		取附キロワット數			
		取 附 燈 數 再 掲	ワ ツ ト 別	ワット數	
				計	
				計ノ内屋外燈	
從 量	一 需 用 家 當 取 附	何 燈 以 下	需用家數		
			取附燈數		
			取附計器容量		
			本期間供給キロワット時數		



第三表

電力(電熱)供給契約數及需用家數

年 月 日

種 別	數 量	
	契 約 口 數	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
定 額	一ワット未	契 約 口 數
	一ワット未	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
	計	契 約 口 數
	計	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
時 量	一ワット未	契 約 口 數
	一ワット未	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
	計	契 約 口 數
	計	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
合 計	契 約 口 數	
	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數	
	需 用 家 數	
不 定 時	一ワット未	契 約 口 數
	一ワット未	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
	計	契 約 口 數
	計	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
總 計	契 約 口 數	
	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數	
	需 用 家 數	
特 約 (電熱) 電 力 掲	定 額	契 約 口 數
	定 額	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
	從 量	契 約 口 數
	從 量	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數
休 止	契 約 口 數	
	契 約 キ ロ ワ ッ ト 數	
	需 用 家 數	
臨 時	本 期 間 最 大	
	本 期 間 一 日 平 均	
事 業 用	取 附 數	
	キ ロ ワ ッ ト 數	

五 燈 以 上      二 十 燈 以 上  
 十 燈 以 上      三 十 燈 以 上  
 二 十 燈 以 上      五 十 燈 以 上  
 三 十 燈 以 上      百 燈 以 上

- 2 定額ト從量トヲ併用スル需用家ニ在リテハ其ノ定額ニ付テハ總テ定額從量併用需用家ノ定額ノ燈欄ニ記載シ從量ニ付テハ從量ノ各相當欄ニ記載スルコト
- 3 不定時燈ニハ其ノ休止中ノモノヲ含マシメ取附燈數ハ漁季燈其ノ他其ノ種類別ニ記載スルコト
- 4 休止燈ニハ不定時燈ノ休止中ノモノヲ含マシメザルコト
- 5 無料燈ニハ事業用ヲ除キ寄附其ノ他無料ニテ供給スルモノヲ記載スルコト
- 6 電燈料金ニ依リ小型電氣器具等ニ電力ヲ供給スルキノハ其ノ承口數ヲ燈數ト看做シテ各相當欄ニ記載シ其ノ總承口數ヲ總計ノ内小型電氣器具承口數ノ欄ニ再掲スルコト
- 7 事業用ノ欄ニハ自己ノ發電所、變電所、事務所等ニ使用スルモノヲ記載スルコト







損 失 自 年 月 日 至 年 月 日

種 別	金 額 (圓)											備 考	
	給料手當	修繕費	諸稅	公物使用料	借地及借家料	火災保險料	油脂類費	燃料費	需用開拓費	集金費	電球取換費		其ノ他
電 氣 事 業													
發 電 費													
送 電 費													
變 電 費													
配 電 費													
需用者屋內費													
事 務 費													
計													
購 入 電 力 料													
業 減 價 損 失													
營 業 設 備													
發 電 設 備													
送 電 設 備													
變 電 設 備													
配 電 設 備													
需 用 者 屋 內 設 備													
建 設 利 息													
計													
兼 營 事 業 損 失													
事 業 外 經 常 損 失													
臨 時 損 失													
總 計													

第五表

損 益 表

自 年 月 日 至 年 月 日

種 別	金 額 (圓)								備 考
	定額料金	從量料金	臨時料金	不定時料金	特約料金	休止料金	中計損料	器具損料	
電 氣 事 業 利 益									
電 燈 料									
電 力 (熱) 料									
計									
雜 益									
諸 工 料									
器 具 賣 上 益									
其 ノ 他									
計									
合 計									
兼 營 事 業 收 益									
事 業 外 經 常 利 益									
臨 時 利 益									
總 計									



(第七號様式)

火力發電所ニ於ケル燃料種類別年使用額報告書

昭和 年中

事業者名	燃料ノ種類	一ケ年使用額	備考
	炭	疋	
	コークス	疋	
	油	疋	
	木炭	疋	
	々々		
	々々		

第十三章 産業 第二節 商工業

●南洋廳電氣使用規則

昭和二年十一月一日 南洋廳令第八號

改正 昭和九年第一二號、昭和十一年第九號

第一章 總則

- 第一條 南洋廳經營ノ電氣事業ハ支廳之ヲ管理ス
- 第二條 電氣供給區域ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第三條 電氣ヲ使用セムトスル者ハ別ニ定ムル申込書ニ依リ之ヲ管理者ニ請求スヘシ、其ノ變更、休止又ハ廢止ノトキ亦同シ但シ急ヲ要スル場合其ノ他特別ノ事由アルトキハ口頭又ハ電話ヲ以テ之カ請求ヲ爲スコトヲ得
- 他人ノ所有ニ係ル家屋其ノ他ノ建造物ニ新ニ電氣ノ設備ヲ爲シ又ハ之カ位置ヲ變更セムトスルトキハ所有者ノ承諾ヲ證スル爲前項申込書ニ其ノ所有者ノ連署ヲ要ス
- 第四條 電氣使用者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ雙方連署シ之ヲ管理者ニ申込ムヘシ但シ譲受人ハ讓渡人ノ總テノ權利義務ヲ繼承スルモノトス
- 第五條 電燈、電量計及其ノ附屬物品ハ管理者ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ使用者所有ニ係ルモノヲ管理者ニ於テ試驗ノ上使用セシムルコトアルヘシ
- 第六條 電氣使用者ハ電氣ニ關スル設備ヲ濫ニ變更、修理又ハ貸與スヘキ前項但書ノ試驗ニシテ特ニ費用ヲ要スル場合ハ相當手数料ヲ徴收ス

第六表

從業者

年月日現在

事業者名	電氣事業						兼業計	何業計	總人總保費ニ屬スル員計	總計
	發電所	送電線路	變電所	配電線路	需用家内工作物	屬スル人員				
事務										
工務										
計										

注意 總保費ニ屬スル人員ノ内ニハ役員又ハ管理者ヲ含マシメザルコト

(第六號様式)

電氣事業從業者職務別及兵役關係數報告書

昭和 年十二月末日現在

事業者名	兵役關係者										備考	
	總人員數	陸軍					教育者					未教育海軍補充兵
		飛行兵及氣球兵	鐵道兵	電信兵	戰車兵	自動車手	工長	其ノ他				
職務												
職員												
職工												
合計												

注意

- 1 發電所、變電所、開閉所及送電線ノ現業ニ従事スル者ニ限り記載スベシ
- 2 職員中事務ト技術トヲ兼務スル者ニ付テハ其ノ主タル職務ニ依リ孰レカ一方ノミヲ記載スベシ
- 3 歸休兵並ニ豫備兵役、後備兵役及補充兵役ニ在ル者ニ限り兵役關係者トシテ記載スベシ
- 4 各兵科ニ屬スル者ノ中自動車ノ運轉ニ關スル教育ヲ受ケタル者ハ自動車手トシテ記載スベシ

第十三章 産業 第二節 商工業



カラス但シ電燈並ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ニ違反シテ施設シタル機械、器具、材料及附屬物品ハ之ヲ沒收ス

第七條 前條第一項ノ規定ニ違反シ因リテ生シタル一切ノ損害ハ電氣使用者ノ責任ニ任スヘシ

第八條 第六條第一項ノ規定ニ違反シテ電氣ヲ増加シタルトキハ其ノ發覺ノ日ヨリ前回検査シタル日ニ溯リ増加分ニ對シ「ワット」一夜ニ付一錢ノ割合ヲ以テ使用料金ヲ追徴ス

第九條 電氣使用者ニ於テ官ノ貸付ニ係ル器具及附屬物品ヲ亡失毀損シ又ハ盜難ニ罹リタルトキハ相當費額ヲ賠償セシム但シ不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 管理者ハ電氣ニ關スル設備保安ノ爲隨時吏員ヲ派シテ検査セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨クルコトヲ得ス

第十一條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ送電ヲ中止シ又ハ電球ノ容量並燈數ヲ制限スルコトアルヘシ

- 一 天災、地變其ノ他不可抗力ノ爲發電所配電所其ノ他ニ故障ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アルトキ
- 二 發電所配電所ノ修繕其ノ他ノ作業上必要アルトキ
- 三 電氣ニ關スル納付金ヲ指定ノ期日迄ニ納付セザルトキ
- 四 第六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

五 前條ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルトキ

前項第二號ノ場合ハ豫メ之ヲ公告ス

第十二條 電氣使用者ハ其ノ電氣設備ニ異狀アルコトヲ覺知シタル場合ニハ猶豫ナク之ヲ管理者ニ申報スヘシ

第十三條 料金及工費ハ電氣ヲ公益事業用ニ供スル場合又ハ南洋廳長官ニ於テ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ減免スルコトアルヘシ

第二章 種別及料金

第十四條 電燈供給方法ハ左ノ三種ニ分チ其ノ供給時間ハ日没時ヨリ午後十一時半迄トス但シ管理者ニ於テ特別ノ必要アリト認ムル場合ハ臨時延長スルコトアルヘシ

一 定額 月額料金ヲ定メ供給スルモノ  
二 從量 電量計ニ依リ使用電力量ヲ計量シ供給スルモノ  
三 臨時 臨時使用期間ヲ定メ供給スルモノ

第十五條 從量燈ハ一戸又ハ一家屋若ハ一使用場内ニ於ケル取附燈數五箇以上ニシテ總容量八〇「ワット」以上ナルコトヲ要ス

第十六條 同一家屋内ニ於テ定額燈及從量燈ハ之ヲ混用スルコトヲ得ス但シ外燈ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 定額燈ノ月額料金左ノ如シ

電球容量別	内 燈	外 燈
八ワット(五燭光相當)	五十錢	三十錢
十三ワット(十燭光相當)	七十錢	四十錢

二十ワット(十六燭光相當)	三十ワット(二十四燭光相當)	四十ワット(三十二燭光相當)	六十ワット(五十燭光相當)	百ワット(百燭光相當)	二百ワット	三百ワット
一圓六十錢	一圓三十錢	一圓五十錢	一圓二十錢	一圓八十錢	一圓三十錢	一圓二十錢

外燈トハ道路、公園、共同便所又ハ公有水面ヲ照シ公衆ニ利便ヲ與フヘキ街燈、門燈、軒燈ノ類トシ其ノ他ノ場所ニ使用スルモノヲ内燈トス

第十八條 從量燈ノ使用料金左ノ如シ

- 一 基本料金 一燈ニ付月額二十錢
- 二 電力料金 「キロワット」時ニ付二十錢但シ消費ノ有無ニ拘ハラズ最低料金月額二圓ヲ徴收ス
- 三 電量計貸付料金

五「アンペア」以下	月額	四十五錢
十「アンペア」	月額	六十錢
二十「アンペア」	月額	九十錢
二十五「アンペア」	月額	一圓五錢
三十「アンペア」	月額	一圓二十錢

五「アンペア」 月額 一圓五十錢

第十九條 臨時燈ノ使用料金ハ定額燈ノ月額料金ノ二倍ノ日割計算トス

第二十條 月額料金ハ毎月一日ノ現在ニ依リ指定ノ期限内ニ之ヲ納付スヘシ  
從量燈ニシテ最低料金ヲ超過シタル料金ハ翌月ノ月額料金ト同時ニ之ヲ徴收ス但シ電氣ノ使用ヲ休止又ハ廢止ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ徴收ス

第二十一條 定額燈ノ新設又ハ再使用ノ場合其ノ月ノ料金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十二條 月ノ中途ニ於テ電氣ノ使用ヲ休止又ハ廢止シタル場合ト雖モ其ノ月ノ料金ハ金額ヲ徴收ス但シ前月中ニ豫メ休止又ハ廢止ノ請求ヲナシタル定額燈ノ料金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十三條 第十一條第一項第一號及第二號ノ送電中止又ハ電球ノ容量變更一日ヲ超エタル場合ハ左ノ割合ニ依リ料金額ヲ算定シ翌月ノ料金ト差引計算ス但シ廢止ノ場合ハ之ヲ還付ス

一 定額燈及臨時燈 日割  
二 從量燈 基本料金及電量計貸付料金ハ日割トシ電力料金ハ電力消費量ニ依ル但シ最低料金ノ日割額ニ達セザルトキハ最低料金ノ日割額ヲ徴收ス

第二十四條 料金ノ日割計算法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第二十五條 第十一條第一項第一號及第二號ノ場合ヲ除ク外月ノ中途ニ於テ電球ノ容量又ハ供給ノ方法ヲ變更シタル爲既定ノ料金額ヲ減少スルコトアルモ之ヲ還付セズ但シ増加シタル場合ニハ之ヲ追徴ス



第二十六條 電球ノ容量變更、光力減退又ハ斷芯ノ爲ニカ取換ヲ要スル場合ニ於テハ六十「ワット」迄一個ニ付十錢百「ワット」以上一個ニ付電球實費ノ五割ニ相當スル取換手数料ヲ徵收ス但シ取付後一年ヲ經過シ又ハ第十一條第一項第一號及第二號ニ依リ電球ノ容量ヲ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 從量燈ノ使用者ハ豫メ管理者ノ指定シタル電扇、電熱器其ノ他之ニ類スル電力裝置ノ爲電燈用電量計ニ依リ電力ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル消費電力ハ電燈ニ使用シタルモノト看做ス

第三章 工事及工費

第二十八條 電氣使用ニ關スル工事ハ工費納入済ノ上施設ス但シ前納ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 電燈、電量計又ハ承口ノ取付工費ハ一燈又ハ一箇ニ付一圓ヲ徵收ス但シ再使用ノ爲既設電路ニ之ヲ取付ル場合ハ十錢ヲ徵收ス

第三十條 電燈、電量計、「スキッチ」又ハ承口ノ位置變更若ハ移轉ヲ爲ストキハ一燈及ハ一箇ニ付一圓ヲ徵收ス

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ配電線路ノ設備ナキトキ又ハ家屋ノ構造其ノ他ノ事由ニ因リ特別ノ工事ヲ要スルトキハ相當費用ヲ徵收ス

第三十二條 臨時燈ノ取附、移轉、電線電燈附屬品改設工事並第二十七條ノ電力裝置ニ對シテハ相當費用ヲ徵收ス

第三十三條 電燈用「コード」線ハ床面ヲ距ル三尺ニ達スル迄ノ長サヲ普通設備トス但シ使用者ニ於テ此ノ以上延長ヲ望ムトキハ全長十尺迄ヲ限度トシ之ニ應ス比ノ場合ニ於テハ普通設備ヲ超過スル線長一尺又ハ其ノ端數毎二十錢ヲ徵收ス

●南洋廳電氣事業管理者事務規程

昭和四年七月十五日 南洋廳訓令第十七號

改正 昭和七年第一八號

第一條 南洋廳ニ於ケル電氣事業ノ管理事務ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條 管理者ハ第一號様式ノ翌年度所要經費要求書ヲ六月末日迄ニ第二號様式ノ翌年度所要物品要求書ヲ三月十日迄ニ長官ニ提出スヘシ

第三條 管理者ハ第三號様式ニ準シ毎年四月一日現在ニ於ケル電氣供給線路圖ヲ作製シ四月三十日限りヲ長官ニ提出スヘシ其ノ之カ變更アリタル場合ハ其ノ都度部分圖ヲ提出スヘシ

第四條 管理者ハ毎月第四號様式ノ電氣事業報告ヲ作製シ翌月十日限り長官ニ提出スヘシ

第五條 南洋廳電氣使用規則(以下單ニ規則ト稱ス)第三條ノ使用申込書ハ第五號様式電球容量變更申込書ハ第六號様式、休止又ハ廢止申込書ハ第七號様式ニ依ラシムヘシ

第六條 規則第四條ノ名義變更申込書ハ第九號様式ニ依ラシムヘシ

第七條 規則第六條乃至第九條ニ依リ電氣使用者ニ對シ沒收、費用辨償又ハ費用追徴ノ處分ヲ爲シタル場合ハ其ノ都度處分ノ願末ヲ長官ニ報告スヘシ但シ事ノ重大又ハ異例ニ屬スト認ムルモノハ處分前長官ノ指揮ヲ承クヘシ

附則 本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス 大正十二年南洋廳令第十八號南洋廳電氣使用規則ハ之ヲ廢止ス

●南洋廳電氣使用規則第二條ノ電氣供給區域

昭和二年十二月二十四日 南洋廳告示第十七號

改正 昭和四年第三號、第五號、五年第二號、七年第一號、一二年第八號

南洋廳電氣使用規則第二條ノ電氣供給區域左ノ通定ム

事業名	供給區域
パラオ支廳	パラオ諸島コロル島
トラツク支廳	トラツク諸島夏島ノ内モロン、ベニヨウル、ベニエルク、ヌーコラツブ、サボロン
ヤルイト支廳	ジャポール島ノ内ロージャカル以北ノ地域
サイパン支廳	サイパン島ノ内タツポーチヨウ分水嶺以西ポルトリコ以南オレイアイ以北ノ地域
ヤツブ支廳	ヤツブ島コロニー、チヤモロ區一圓及ウルル管區ノ内オオ村、ゴロツク村、ダチヤガル村
ボナベ支廳	ボナベ島ナツト村コロニー一圓

第八條 規則第十一條第一項第一號及第二號ニ依リ送電ヲ中止シタル場合ハ其ノ期間及事由ヲ詳具シ長官ニ報告スヘシ

第九條 規則第十三條ニ依リ料金及工費ノ減免ヲ爲サムトスルトキハ事由ヲ詳具シ長官ニ稟請スヘシ

第十條 規則第十四條但書ニ依リ點燈時間ノ臨時延長ヲ爲シタル場合ハ其ノ月日、事由及延長時間ヲ長官ニ報告スヘシ

第十一條 一廉三百圓以上ノ工事又ハ特別ノ設計ヲ要スル工事ヲ施行セムトスルトキハ設計書、仕様書、工費仕譯書及圖面ヲ添附シ豫メ長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 前條ノ工事竣功シタルトキハ左ノ事項ヲ具備シタル竣功報告書ヲ提出スヘシ

一 工事名稱

二 著手及竣功年月日

三 竣功調書

四 圖面

第十三條 發電所ニハ第十號様式ノ作業日誌ヲ備ヘ置キ當務者ヲシテ毎日所定ノ事項ヲ記載セシムヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



(第一號様式)

昭和 年度電気事業所要経費要求書

科目	所要額	内訳並算出ノ基礎
器具機械費	圓	
材料費		
消耗品費		
職工人夫賃		
機關夫		
電工		
人夫賃		
雜費		
被服費		
慰勞金		
雜費		

備考

(第二號様式)

昭和 年度物品要求書

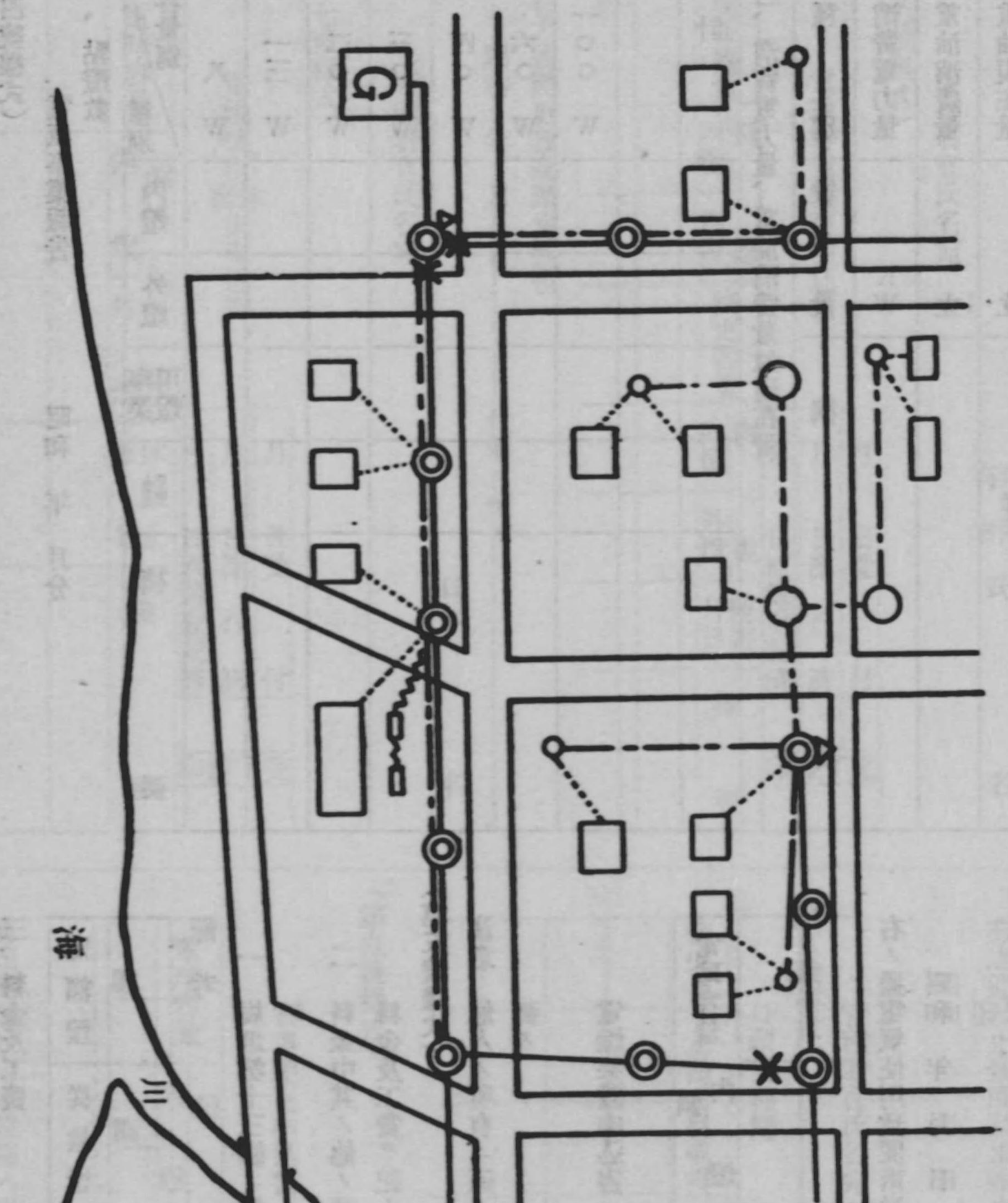
種目	品名	規格	單位	數量	算出根據	電燈用器具				
						何々	何々	何々	何々	何々

備考

- 一 本書ニ依リ要求スヘキ物品ハ本廳ヨリ現品交付ノ送電用電線、引込用電線、室内用電線、電燈用器具類及機械運轉用油類トス
- 二 右以外  
特殊ノ物品ニ就テハ其ノ用途ヲ明記スルヲ要ス

(第三號様式)

電気供給線路圖



凡例	發電所	變壓器	高壓線	低壓線	引込線	地下線	組立鐵柱	鐵柱	木柱	開閉器
△	□	▽	—		---	~~~~	◎	○	×	×

縮尺 1/2400



(第四號様式)

電氣事業報告

昭和 年 月 分

容量別	種類		計
	内燈	外燈	
八 W			
一三 W			
二〇 W			
三〇 W			
四〇 W			
六〇 W			
一〇〇 W			
計			
消費電力量	種別		種別
重油消費量	別	數	量
重油現在量	立	立	KW

三、料金及工費

定額燈	從量燈	其ノ他	計
圓	圓	圓	圓
			摘
			要

備考

- 一 規則第十三條ニ依リ料金ヲ減免シタル點燈數ハ内數ヲ朱書スヘシ
- 二 料金中其ノ他ノ欄ニハ定額燈、從量燈ノ點燈料金以外ノ總テノ料金及工費ヲ記入スヘシ

(第五號様式)

注意 他人ノ所有ニ係ル建物内ニ架設ヲナストキハ其ノ所有者連署ヲ要ス

電燈架設申込書

電球容量	種類		計
	内燈	外燈	
個			
架設場所	架設場所	架設場所	架設場所
月	月	月	月
日	日	日	日
原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済
摘	摘	摘	摘
要	要	要	要

右ノ通電氣使用致度南洋廳電氣使用規則ニ依リ請求候也

昭和 年 月 日

住所 何々 氏 名  
申込者 氏 名

(第六號様式)

管理者官氏名宛

電球容量變更申込書

現在容量	種類		變更容量
	内燈	外燈	
個			
月	月	月	月
日	日	日	日
原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済
摘	摘	摘	摘
要	要	要	要

建物所 氏 名

右ノ通變更致度請求候也

昭和 年 月 日

住所 何々 氏 名  
管理者官氏名宛

(第七號様式)

電燈使用廢止申込書

電球容量	種類		計
	内燈	外燈	
個			
月	月	月	月
日	日	日	日
原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済
摘	摘	摘	摘
要	要	要	要

第十三章 産業 第二節 商工業

右ノ通廢止致度請求候也

昭和 年 月 日

住所 何々 氏 名

(第八號様式)

管理者官氏名宛

口頭受理簿

管理者	主任	取扱者	受付	申込事項	使用者	施行	原簿登記
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済
摘	摘	摘	摘	摘	摘	摘	摘
要	要	要	要	要	要	要	要

(第九號様式)

名義變更申込書

電球容量	種類		計
	内燈	外燈	
個			
月	月	月	月
日	日	日	日
原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済	原簿登記済
摘	摘	摘	摘
要	要	要	要

前記電燈並附屬設備ハ現在

使用中ノ處拙者繼承致度候ニ付名義變更



更相成度南洋電氣使用規則第四條ニ依リ連署ヲ以テ申込候也

昭和 年月 日 住所 何々  
繼承人 氏 名  
住所 何々  
現在名義人 氏 名

管理者官氏名宛  
(第十號様式)

昭和 年 月 日 曜 天候	電開始	電停止	電時數	電々壓	電々流	電々前	電々後	電計

備考 送電々流ノ欄午後八時ニ於ケルモノヲ記入スヘシ

第三節 鑛業

●南洋群島鑛業令

昭和十二年五月二十二日 勅令第二百十四號

第一條 本令ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、マンガニツケル鑛、ボーキサイド、燐鑛、石炭、硫黃、石棉、石膏、重晶石、耐火粘土及大理石ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛區ニ於テ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業ノ許可ヲ受ケタル土地ノ區域ヲ謂フ

第二條 鑛業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ事業計畫書ヲ添ヘ南洋廳長官ニ出願シ其ノ許可ヲ受クベシ

出願ニ關シ必要ナル事項ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ鑛業ノ出願ハ之ヲ許可セズ

一 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ

二 鑛業ノ價值ナシト認メタルトキ

三 出願地ガ政府ニ於テ所要ノ場所ナルトキ

四 既存ノ鑛區ノ採掘ニ妨アリト認メタルトキ

五 其ノ他拓殖上支障アリト認メタルトキ

第四條 同一區域ニ於ケル同種ノ鑛物(同一鑛床中ニ存在スル異種ノ鑛

物ヲ含ム)ニ對スル出願ニシテ許可シ得ベキモノニ件以上アルトキハ

第五條 鑛業權ハ相續其ノ他ノ一般承繼、讓渡、滯納處分及強制執行ノ

目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ズ

鑛業權ノ相續ニ因ラザル一般承繼及讓渡ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

本令ニ規定スル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第六條 鐵道、軌道、道路、運河、河沼、堤塘、社寺境内、墓地、公園

地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍六十メートル以内ノ

地域ニ於テハ所轄官廳ノ許可又ハ所有者其ノ他ノ關係人ノ承諾ヲ受ク

ルニ非ザレバ鑛業ヲ爲スコトヲ得ズ但シ所有者其ノ他ノ關係人ハ正當

ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ受クルコト能ハザル者ハ南洋

廳長官ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ南洋廳長官ハ鑛業權ヲ取消スコ

トヲ得

一 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ鑛業許可ノ日ヨリ一年以内ニ事業ニ著手セズ

若ハ著手後一年以上休業シタルトキ又ハ事業計畫書ニ依ラズシテ

事業ヲ爲シタルトキ

三 第八條ノ規定ニ依ル南洋廳長官ノ命令ニ從ハザルトキ

四 鑛産稅又ハ鑛區稅ヲ納付セザルトキ

第八條 南洋廳長官ハ鑛業ノ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第九條 南洋廳長官ハ部下ノ官吏ヲシテ鑛業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ

物件ヲ検査シ又ハ事業地其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 鑛業權者ハ鑛業上必要アルトキハ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケ他人

ノ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

南洋廳長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ關係人ニ通知スベシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲關係人

ニ協議ヲ爲スベシ

第十一條 土地ノ使用二年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルト

キハ土地所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之

ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得

シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル

但シ使用ヲ妨ゲザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ノ出願ヲ爲ス者

又ハ鑛業權者ハ支廳長ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査

ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入ラントスルトキハ豫メ土地

占有者ニ通知スベシ

第十四條 土地ノ使用若ハ收用又ハ測量若ハ調査ニ關シ關係人ノ受クル

損失ハ鑛業權者又ハ鑛業ノ出願ヲ爲ス者之ヲ補償スベシ

第十五條 土地ノ使用若ハ收用又ハ前條ノ規定ニ依ル補償ニ付協議調ハ

ザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ鑛業權者又ハ關係人ハ南



洋廳長官ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 第十條、第十四條及前條ニ於テ關係人ト稱スルハ使用又ハ收用スベキ土地ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十七條 鑛業權者ニハ鑛業稅及鑛區稅ヲ課ス

第十八條 本令ハ之ヲ國ノ鑛業ニ適用ス但シ前條ノ規定ハ南洋廳長官ノ管理スル鑛業ニハ之ヲ適用セズ

第十九條 南洋廳長官ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ規定スル職權ノ一部ヲ支廳長ニ委任スルコトヲ得

第二十條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二十一條 本令施行ノ期日ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二十二條 南洋群島鑛業規則ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト

附則

第一條 鑛業ニ關スル願書、申請書、屆書又ハ圖面ハ一件毎ニ調製シ様式ノ定アルモノハ其ノ様式ニ準ズベシ

第二條 前項ノ書面又ハ圖面ニシテ南洋廳長官ニ差出スベキモノハ正副二通ヲ調製シ出願區域ヲ管轄スル支廳ヲ經由スベシ

第三條 支廳ニ於テ前項ノ書面又ハ圖面ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ正本ヲ南洋廳長官ニ進達スベシ

第四條 書面又ハ圖面ノ差出期限ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限迄ニ發送スルコトヲ要ス

看做ス

第二十四條 鑛區稅ニ付テハ本令施行後鑛業許可ヲ受ケタル者ニ對スルモノヲ除クノ外昭和十二年度分ニ限り仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ鑛區稅ヲ納ムル者ニ對スル鑛業稅ノ率ハ昭和十三年三月三十一日迄ノ分ヲ限り第十七條ニ規定スル稅率ノ範圍内ニ於テ南洋廳長官ノ定メタル率トス

南洋群島鑛業令施行期日

昭和十二年七月二日  
南洋廳令第七號

昭和十二年勅令第二百四十四號南洋群島鑛業令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島鑛業令施行規則

昭和十二年七月二日  
南洋廳令第八號

第一條 鑛業ニ關スル願書、申請書、屆書又ハ圖面ハ一件毎ニ調製シ様式ノ定アルモノハ其ノ様式ニ準ズベシ

第二條 前項ノ書面又ハ圖面ニシテ南洋廳長官ニ差出スベキモノハ正副二通ヲ調製シ出願區域ヲ管轄スル支廳ヲ經由スベシ

第三條 支廳ニ於テ前項ノ書面又ハ圖面ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ正本ヲ南洋廳長官ニ進達スベシ

第四條 書面又ハ圖面ノ差出期限ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限迄ニ發送スルコトヲ要ス

第二條 本令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ノ出願ヲ爲サントスル者、鑛業出願人、鑛業權者又ハ土地ノ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第三條 鑛業出願人又ハ鑛業權者南洋群島内ニ住所ヲ有セザルトキハ南洋廳長官ハ期間ヲ指定シテ假住所ノ選定ヲ命ズルコトアルベシ

第四條 鑛業出願人ハ願書ニ鑛業出願區域圖、位置圖、收支豫算書、出願者ノ經歷並資産ヲ證明スベキ書類(會社又ハ其ノ他ノ法人ナルトキハ定款若ハ規約)、探掘セントスル鑛床ノ説明書及鑛物標品ヲ添附スベシ

第五條 前項ニ定ムルモノノ外南洋廳長官ニ於テ必要ト認ムル書面又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第六條 鑛業ノ出願區域ハ直線ヲ以テ成ルベク方形ニ近キ形狀ニ區劃スベシ

第七條 南洋群島鑛業令第二條ノ規定ニ依ル事業計畫書ニハ之ヲ説明スベキ圖面ヲ添附スベシ

第八條 南洋廳長官ハ理由ヲ示シテ前項ノ事業計畫書ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第九條 鑛業出願人他人ノ鑛區ニ隣接シテ鑛業ノ出願區域ヲ定メントスルトキハ中間ニ二十メートル以上ノ距離ヲ置クベシ但シ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 前項但書ノ場合ニ於テハ願書ニ承諾書ヲ添附スベシ

第十一條 書面又ハ圖面不完備ナルトキハ南洋廳長官ハ期限ヲ附シテ之ヲ修正又ハ補充セシムルコトアルベシ

第十二條 同一區域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サントスル者ハ各

第十三章 産業 第三節 鑛業



代フルコトヲ得

前項ノ届出ナキトキハ南洋廳長官之ヲ指定ス

前二項ノ規定ハ鑛業出願人ノ變更又ハ鑛業權ノ移轉ニ由リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルベキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ變更シタルトキハ連署シテ十日以内ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

共同鑛業權者ハ組合規約ヲ爲シタルモノト看做ス

第十六條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者脱退シタルトキハ代表者若シ代表者ナキニ至リタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ其ノ原因ヲ證スル書面ヲ添へ脱退ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ届出ツベシ

第十七條 鑛業出願人ノ名義ハ之ヲ變更スルコトヲ得但シ南洋廳長官ノ認可ヲ受タルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

前項但書ニ依ル願書ニハ新舊出願人連署スベシ

第十八條 共同鑛業出願人代表者ニ依リテ出願人ノ名義變更ノ出願、鑛業出願ノ取下、鑛業出願區域ノ増減ノ出願又ハ其ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ願書ニ共同鑛業出願人ノ決議書又ハ之ニ代ルベキ書面ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ共同鑛業權者代表者ニ依リテ鑛區ノ増減、合併、分割又ハ鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併スルコトヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 相續ニ因リテ鑛業出願人若ハ鑛業權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ戶籍ノ事務ヲ取扱フ官吏若ハ公吏ニ届出タル日ヨリ十日以内ニ其ノ事實ヲ證スベシ

キ書面ヲ添へ之ヲ届出ツベシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二十條 南洋廳長官鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シテ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命ズルコトアルベシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ願書、申請書又ハ届書ヲ受理セズ  
一 出願ノ鑛物ガ南洋群島鑛業令第一條第二項ノ規定ニ該當セザルトキ

二 圖面ヲ添附スベキ願書ニ之ヲ添附セザルトキ

三 手数料ヲ納付セザルトキ

四 第六條ノ規定ニ違反シ承諾書ヲ添附セザルトキ

五 第十七條ノ規定ニ違反シ新舊出願人連署セザルトキ

六 第十八條ノ規定ニ違反シ決議書又ハ之ニ代ルベキ書面ヲ添附セザルトキ

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ願書又ハ届書ヲ却下ス  
一 願書ニ添附シタル圖面ガ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ

二 第三條ノ命令ノ期間内ニ假住所ノ選定ヲ爲サザルトキ

三 第四條第二項ノ規定ニ依リ命ゼラレタル書面又ハ圖面ノ提出ヲ爲サザルトキ

四 第七條ノ規定ニ依ル命令ノ期限迄ニ修正又ハ補充ヲ爲サザルトキ

五 第二十條ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ立會ヲ爲サザルトキ

六 第二十條ノ規定ニ依ル場合ニ於テ出願人ガ出願區域ヲ明示スルトキ

ト能ハズ又ハ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハザルトキ

第二十三條 鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク鑛區所在地又ハ

所轄支廳所在地ニ鑛業事務所ヲ定メ南洋廳長官ニ届出ツベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二十四條 鑛業權者ハ鑛區圖、事業計畫書、坑内實測圖、鑛業簿、鑛夫ノ雇傭勞役ニ關スル規程及鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備へ置クベシ

第二十五條 坑内實測圖ハ平面圖及剖面圖ノ二種トシ毎月末日ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スベシ

南洋廳長官ハ何時ニテモ前項ノ圖面ノ複本ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第二十六條 鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スベシ

鑛業權者ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ間ニ於ケル鑛業簿ノ複本ヲ毎期日經過後一月以内ニ南洋廳長官ニ提出スベシ

第二十七條 鑛業權者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ノ鑛業明細表ヲ南洋廳長官ニ差出スベシ

第二十八條 前二條ノ規定ニ依リ差出スベキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スベシ

第二十九條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セザルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ南洋廳長官ニ届出ツベシ

前項ノ代理人ハ南洋群島鑛業令及本令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スベキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツベシ

第三十條 鑛業權者鑛業ノ許可ノ日ヨリ一年以内ニ事業ニ著手セズ又ハ六月以上休業セントスルトキハ其ノ期間ヲ附シ理由ヲ詳記シテ南洋廳長官ニ届出ツベシ

休業期間内ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツベシ

第三十一條 鑛業上危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ南洋廳長官ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命ズルコトアルベシ

急迫ノ危険ヲ防グ爲必要アルトキハ支廳長官前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

鑛業權消滅シタル後ト雖一年間ハ南洋廳長官又ハ支廳長官前二項ノ規定ニ準ジ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危険豫防ニ關スル設備ヲ命ズルコトアルベシ

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危険豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ之ヲ鑛業權者ト看做ス

第三十二條 鑛業上急迫ノ危険ヲ防グ爲必要アルトキハ鑛業者ハ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ土地占有者ニ通知シ且支廳長官ニ届出ツベシ

第三十三條 南洋廳長官ハ鑛業權者ニ對シ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命ズルコトアルベシ

第三十四條 鑛業權者ハ鑛業ニ著手前鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規程ヲ定メ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ

南洋廳長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ



鑛業権者第一項ノ規程ヲ變更セントスルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケベシ

第三十五條 鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業権者ハ鑛夫又ハ其ノ遺族ヲ扶助スベシ

第三十六條 鑛業地ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業権者ハ直ニ南洋廳長官ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

前項ノ場合ニ於テ死傷者又ハ遺族ニ對スル扶助ヲ完了シタルトキハ扶助ノ日數及金額ヲ記載シ其ノ完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

第三十七條 南洋群島鑛業令第十條ノ規定ニ依ル願書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、土地ノ關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、使用者ハ收用ノ目的、時期及期間ヲ記載シ且關係地實測圖及工事設計書ヲ添付スベシ

第三十八條 南洋群島鑛業令第六條第二項又ハ第十五條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床トノ關係圖並土地ノ關係人ト交渉シタル始末書ヲ添付スベシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ理由書ヲ以テ始末書ニ代フル事ヲ得

一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二 土地ノ關係人ノ氏名又ハ名稱及住所

三 申請ノ目的及理由

南洋廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ申請書ノ寫ヲ土地ノ關係人ニ交付スベシ

土地ノ關係人ハ前項ノ申請書寫ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スベシ

土地ノ關係人前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ南洋廳長官ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトアルベシ申請書寫ノ交付ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同ジ

裁決書ニハ理由ヲ附シテ南洋廳長官之ヲ申請人及土地ノ關係人ニ交付ス

第三十九條 南洋群島鑛業令第六條第二項又ハ第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ爲實地調査ノ必要アルトキハ申請者其ノ費用ヲ負擔スベシ

第四十條 鑛業権者南洋群島鑛業令第十四條ノ規定ニ依ル補償金ノ拂渡、供託ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ土地ノ關係人ハ土地ノ使用ヲ拒ムコトヲ得

第四十一條 鑛業権者南洋群島鑛業令ノ規定ニ基キ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セザルニ至リタルトキハ直ニ所轄支廳長ニ届出ツベシ

前項ノ届書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、土地ノ關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期、期間及補償金並擔保ヲ記載スベシ

第四十二條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業権者ハ土地ノ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セザルニ因リテ生ズル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スベシ

第四十三條 南洋群島鑛業令第十三條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲サントスル者ハ願書ニ立入ルベキ土地ノ區域、名稱、種目、期間及其ノ目的ヲ記載スベシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲サントスルトキハ豫メ占有者ニ立入ルベキ日時及場所ヲ通知スベシ

他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ支廳長ヨリ受ケタル許可書ヲ携帯スベシ

前項ノ規定スル行為ニ因リ土地ノ關係人ニ及ボシタル損失ハ鑛業出願人又ハ鑛業権者之ヲ補償スベシ

補償ニ付協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ支廳長之ヲ裁決ス

前項ノ場合ニ於テハ第三十八條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 支廳長南洋群島鑛業令第十三條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シタルトキハ直ニ關係書類ノ寫ヲ添へ之ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十五條 鑛業稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スベシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スベシ

鑛業稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スベシ

鑛業ノ許可アリタル年ニ係ル鑛區稅及鑛區ノ増加ニ依リ新ニ賦課スル鑛區稅ニシテ増加アリタル年ニ係ルモノハ之ヲ即納スベシ

前項ニ依リ納付スベキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

既納ノ鑛區稅ハ之ヲ還付セズ

第四十六條 鑛業ニ關スル出願、申請又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

- 一 鑛業ノ出願 每百五十ヘクタール迄 金三十圓
- 二 鑛業出願區域ノ變更願 増區又ハ増減區 増區每百五十ヘクタール迄 金十五圓

三 鑛區ノ變更願 每一件 金五圓

増區又ハ増減區 増區每百五十ヘクタール迄 金二十五圓

減區 每一件 金五圓

五ヶ合併又ハ分割 每一件 金十圓

鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併 每一件 金十五圓

四 鑛業出願人ノ名義變更願 每一件 金十圓

五 鑛業權ノ相續願 每一件 金十圓

六 鑛業權ノ一般承繼及讓渡願 每一件 金三十圓

七 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業権者ノ脱退願 每一件 金五圓

八 南洋群島鑛業令第十三條ノ規定ニ依ル測量及調査願 每一件 金十圓

九 南洋群島鑛業令第十條ノ規定ニ依ル使用又ハ收用願 每一件 金十圓

十 裁決申請 每一件 金十圓

十一 鑛業許可指令書ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請 用紙一枚 金一圓

十二 鑛區圖謄本交付ノ申請 用紙一枚 金一圓



鑛區毎三十ヘクタール 金三 圓

十三 關係紙數又ハ面積ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚又ハ三十ヘクタールニ滿タザルモノハ一枚又ハ三十ヘクタールト看做ス

前項ノ手數料ハ現金(郵便爲替ヲ含ム)ヲ以テ納付スベシ  
第四十七條 鑛業權ヲ有セズシテ鑛物ヲ採掘シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ場合ニ於テ採掘シタル鑛物ハ之ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 南洋群島鑛業令第六條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ承諾ヲ得ズシテ鑛業ヲ爲シタル者

二 南洋群島鑛業令第八條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者  
三 南洋群島鑛業令第十條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ他人ノ土地ヲ使用又ハ收用シタル者

四 第十二條、第三十四條第一項、第三項又ハ第三十五條ノ規定ニ違反シタル者

五 第五條第二項、第三十一條、第三十三條又ハ第三十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者

六 當該官吏ニ對シテ南洋群島鑛業令第九條ノ規定ニ依ル検査若ハ臨

檢ヲ拒ミ、之ヲ妨ゲ又ハ忌避シタル者若ハ検査又ハ臨檢ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 南洋群島鑛業令第十三條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲シタル者

二 第十五條第四項、第十六條、第十九條、第二十三條、第二十四條、第二十六條第二項、第二十七條乃至第三十條、第三十二條第二項、第三十六條又ハ第四十一條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三 第二十條ノ規定ニ基テ指定ノ期日ニ立會ハズ又ハ調査事項ノ説明ヲ爲サザル者

四 第十四條又ハ第二十五條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者

第五十條 鑛産稅又ハ鑛區稅ノ連脱ヲ圖リ又ハ通脱シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅額ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第五十一條 第二十九條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ定メタル場合ニハ鑛業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スベキ本令ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セザル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキト雖自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第五十三條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一

ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條 本令ハ第四十五條乃至前條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ南洋群島鑛業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

南洋群島鑛業令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル鑛産稅ノ率ハ千分ノ五トス

様式第一號

何鑛業願

何支廳管内何島何町、村

面積 何ヘクタール

右區域ニ於テ何鑛業許可相成度左記書類及鑛物標品相添此段相願候也

添附書類

- 一 事業計畫書
- 一 鑛業出願區域圖
- 一 位置圖
- 一 收支豫算書
- 一 出願者ノ經歷並資産ヲ證明スベキ書類(會社又ハ其ノ他ノ法人ナルトキハ定款若ハ規約)
- 一 鑛床説明書

一年 月 日

住所

出願人 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

一 願書正本ニ限り鑛業出願區域圖ハ三葉ヲ添附シ適宜契印スベシ

二 共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ願書ヲ差出スベシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

様式第二號

何鑛業出願區域増減區(増區)(減區)願

何年何月何日出願

何支廳管内何島何町、村何鑛業出願區域何ヘクタール

増區 何島何町、村何ヘクタール  
減區 何島何町、村何ヘクタール  
合計(差引)何ヘクタール

右鑛業出願區域増減區(増區)(減區)許可相成度圖面並理由書相添此段相願候也

年 月 日

住所

出願人 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

一 願書正本ニ限り新舊出願區域ノ關係ヲ明ニシタル圖面三各葉ヲ添



附シ適宜契印スベシ

二 代表者ニテ出願スル場合ニハ共同出願人ノ決議書又ハ之ニ代ルベキ書面ヲ添附スベシ

様式第三號

何鑛區増減區(増區)(減區)願

何年何月何日許可

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛區何ヘクタール

増區 何島何町、村何ヘクタール

減區 何島何町、村何ヘクタール

合計(差引) 何ヘクタール

右鑛區増減區(増區)(減區)許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年 月 日

住所

鑛業權者 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

事項様式第二號ニ同ジ

様式第四號

鑛業出願人名義變更願

何年何月何日出願

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛業出願區域何ヘクタール

右鑛業出願人名義ヲ何某ニ變更認可相成度新舊出願人連署此段相願候也

年 月 日

住所

舊出願人 氏 名(名稱)印

新出願人 氏 名(名稱)印

住所

南洋廳長官氏名殿

注意

一 名義變更ニ依リ出願人二人以上トナル場合ニハ願書ト共ニ代表者

届ヲ差出スカ又ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フベシ

二 爾共同出願人代表者ニテ出願ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ代ルベキ

書面ヲ添附スベシ

様式第五號

鑛業出願相續届

何年何月何日出願

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛業出願區域何ヘクタール

右鑛業出願人何某死亡(其ノ他相續開始ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續

致候間戸籍謄本(其ノ他相續ヲ證スル書面)相添此段及御届候也

年 月 日

住所

相續人 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

一 戸籍ノ事務ヲ取扱フ官吏若ハ公吏ニ届出ノ日ヨリ十日内ニ届書ヲ

發送スヘシ

二 同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人ノ名義

ト爲サントスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スベシ

様式第六號

共同鑛業出願人(鑛業權者) 脱退届

何年何月何日出願(許可)

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛業出願區域(鑛區)何ヘクタール

右共同鑛業出願人(鑛業權者) 何某脱退致候間連署此段及御届候也

年 月 日

住所

脱退人 氏 名(名稱)印

住所

共同鑛業出願人(鑛業權者) 氏 名(名稱)印

住所

共同鑛業出願人(鑛業權者) 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

一 代表者タル共同鑛業出願人(鑛業權者)ノ脱退ノ場合ニ於テ尙二

人以上ノ出願人(鑛業權者)ノ残存スルトキハ脱退届書ト共ニ代表

者届ヲ差出スカ又ハ脱退届書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フベシ

二 脱退ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

様式第七號

何鑛區合併願

第十三章 産業 第三節 鑛業

年 月 日

住所

舊出願人 氏 名(名稱)印

新出願人 氏 名(名稱)印

住所

南洋廳長官氏名殿

注意

一 名義變更ニ依リ出願人二人以上トナル場合ニハ願書ト共ニ代表者

届ヲ差出スカ又ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フベシ

二 爾共同出願人代表者ニテ出願ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ代ルベキ

書面ヲ添附スベシ

様式第五號

鑛業出願相續届

何年何月何日出願

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛業出願區域何ヘクタール

右鑛業出願人何某死亡(其ノ他相續開始ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續

致候間戸籍謄本(其ノ他相續ヲ證スル書面)相添此段及御届候也

年 月 日

住所

相續人 氏 名(名稱)印

南洋廳長官氏名殿

注意

一 戸籍ノ事務ヲ取扱フ官吏若ハ公吏ニ届出ノ日ヨリ十日内ニ届書ヲ

一 何年何月何日許可

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛區何ヘクタール

一 何年何月何日許可

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛區何ヘクタール

合計何ヘクタール

右鑛區合併許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年 月 日

住所

鑛業權者 氏 名(名稱)印

住所

一 圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スベシ

二 代表者ニテ出願スル場合ニハ共同鑛業權者ノ決議書又ハ之ニ代ル

ベキ書面ヲ添附スベシ

様式第八號

何鑛區分割願

何年何月何日許可

何支廳管内何島何町、村何鑛鑛區何ヘクタール

此ノ分割

何島何町、村何ヘクタール

何島何町、村何ヘクタール

右鑛區分割許可相成度圖面竝理由書相添此段相願候也

年 月 日















死傷者又ハ遺族ニ對スル扶助方法及其ノ程度

右及御届候也

年 月 日

南洋廳長官氏名殿

右 氏 名 印

様式第十五號

事業計畫書

鑛業出願ノ年月日

鑛業出願區域ノ所在及面積

鑛種名

一 事業計畫ノ概要

二 起業費

三 採鑛ニ關スル事項

イ 主要ナル鑛床ノ位置、走向、傾斜及厚サ

ロ 埋藏鑛量及品位

ハ 採掘方法(詳細)

ニ 一年間ニ於ケル粗鑛採掘豫定高

四 選鑛及製鍊ニ關スル事項

イ 選鑛及製鍊ノ方法(詳細)

ロ 一年間ニ於ケル鑛產物產出豫定高

五 運搬ニ關スル事項

六 操業上ノ危険豫防ニ關スル事項

イ 捨石及鑛滓堆積場ノ位置

ロ 捨石、鑛滓、坑水、廢水ノ處置ニ關シ特別ノ設備ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ設備ニ關スル事項

ハ 地表又ハ坑内ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

七 從業員ニ對スル施設

備考

1 鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ様式ノ記載事項ヲ増減スルコトヲ得

2 説明圖面ヲ添付スベシ

●南洋群島石油移出取締規則

昭和九年九月十五日  
南洋廳令第十一號

第一條 南洋群島ヨリ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油、重油又ハ原油ヲ移出セムトスル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル石油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 官ノ購入ニ係ル石油

二 見本、標本又ハ旅客ノ携帶品タル石油

三 船用品又ハ航空機ノ機用品タル石油

四 鑛、樽其ノ他之ニ準ズル容器ニ入レタル石油(鑛物性ノ揮發油、重油及原油ヲ除ク)

第二條 前條ノ規定ニ依リ移出ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一 石油ノ種類、數量及價格

二 輸送ノ方法及経路

三 移出ノ豫定期日

四 荷受人ノ氏名又ハ商號及業務所在地

前項ノ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ニ付更ニ許可ヲ受クベシ但シ第三號豫定期日ノ變更三十日以内ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 第一條ノ許可ヲ得タル者石油ヲ移出シタルトキハ移出後五日以内ニ其ノ種類、數量、荷受人、移出年月日、仕向港及積載船名ヲ具シ

タル報告書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

第四條 所轄支廳長取締上必要アリト認ムルトキハ石油移出者ニ對シ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

所轄支廳長取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石油移出者ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第五條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條又ハ第四條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ取締上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第七條 石油移出者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八條 本令ニ依リ石油移出者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役、其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ移出港所轄支廳ヲ經



由スベシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 第四節 水産業

#### ●水産獎勵補助規則

昭和十一年一月十五日  
南洋廳令第五號

- 第一條 南洋廳長官ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ル爲本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ下付ス
- 第二條 補助金ノ下付ヲ受ケタルコトヲ得ベキモノハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
  - 一 南洋群島ニ住所ヲ有シ南洋群島ニ於テ水産業ニ従事スル者
  - 二 水産組合又ハ水産組合聯合會
  - 三 前各號ノ外南洋廳長官ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合
- 第三條 補助金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル費目ニシテ適當ト認ムルモノニ對シ其ノ經費ノ全部又ハ一部ヲ下付ス
  - 一 漁船ノ新造又ハ設備ノ改良ニ對シテハ其ノ建造費又ハ設備改良費
  - 二 特ニ改良シタル漁具ニ對シテハ其ノ製作費又ハ購入費
  - 三 業務ノ種類、場所、期間、方法又ハ漁獲物ノ處理ニシテ特ニ獎勵ノ必要ヲ認メタルモノニ對シテハ其ノ經費
  - 四 養殖場ノ築造又ハ設備ニ對シテハ其ノ築造費又ハ設備費
  - 五 適種水族ノ種卵若ハ種苗ノ購入、採卵、採苗、孵化放流、移殖又

- 六 製造工場ノ建築又ハ設備ニ對シテハ其ノ建築費又ハ設備費
  - 七 水産物ノ販路調査、見本ノ配付又ハ製品ノ試製若ハ試賣ニ對シテハ其ノ經費
  - 八 冷蔵運搬船、冷蔵庫、製氷工場又ハ貯氷庫ニ對シテハ其ノ建造費、建築費又ハ設備費
  - 九 其ノ他必要ト認ムル經費
- 第四條 水産組合又ハ水産組合聯合會ニ於テ左ノ施設ヲ爲シタルトキハ前條ノ外其ノ經費ノ全部又ハ一部ニ對シ補助金ヲ下付ス
- 一 組合員ノ有スル漁船ノ検査ヲ行フ爲検査員ヲ設置シタルトキ
  - 二 餌料ノ養養ニ關シ共同ノ施設ヲ爲シタルトキ
  - 三 救難ニ關スル施設ヲ爲シタルトキ
  - 四 種卵、種苗ノ配給又ハ水族養殖保護ノ爲特殊施設ヲ爲シタルトキ
  - 五 販路ノ開拓又ハ擴張ニ關スル施設ヲ爲シタルトキ
  - 六 製品ノ改良向上ヲ圖ル爲指導員ヲ設置シタルトキ
  - 七 水産製品ノ検査ニ關スル検査員ヲ設置シタルトキ
  - 八 水産ニ關スル共同ノ施設並公共的施設ヲ爲シタルトキ
  - 九 其ノ他適切ト認ムル施設ヲ爲シタルトキ
- 第五條 補助金ノ下付ヲ受ケタルモノハ様式第一號ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ毎年三月三十一日迄南洋廳長官ニ願出ツベシ
- 一 第三條第一號ニ該當スルモノ
    - 一 事業計畫書、經費明細書、收支豫算書、設計書、仕様書、圖面、船舶件名書(様式第二號) 船舶國籍證書若ハ船鑑札寫

- 二 第三條第二號ニ該當スルモノ
    - 一 事業計畫書、經費明細書、收支豫算書、設計書、仕様書、圖面
  - 三 第三條第三號、第五號、第七號ニ該當スルモノ
    - 一 事業計畫書、經費明細書、收支豫算書、施設概要書、船舶國籍證書若ハ船鑑札寫(第三號ニ該當スルモノニシテ業務ノ種類ガ漁獵業ナルトキニ限ル)
  - 四 第三條第四號、第六號ニ該當スルモノ
    - 一 事業計畫書、經費明細書、收支豫算書、設計書、仕様書、圖面(位置面積ヲ明示スル圖面ヲ含ム)
  - 五 第三條第八號ニ該當スルモノ
    - 一 事業計畫書、經費明細書、收支豫算書、設計書、仕様書、圖面(冷蔵庫、製氷工場、貯氷庫ニ在リテハ其ノ位置面積ヲ明示スル圖面ヲ含ム) 船舶件名書
- 出願人ガ法人又ハ組合ナルトキハ前項ニ掲グル書類ノ外定款若ハ規約、代表者ノ經歷書及總會又ハ總代會ノ決議ヲ必要トスルモノニ在リテハ其ノ決議錄寫ヲ添附スベシ
- 第六條 補助金下付ノ指令ヲ受ケタル者ハ願書若ハ其ノ添付書類記載事項ヲ變更シ又ハ其ノ事業ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ但シ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第七條 補助金ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ三年以内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ天災其ノ他不可抗力ノ場合又ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 事業ヲ休止シ又ハ廢止スルコト

- 二 船舶、工作物、其ノ他ノ施設ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ他人ニ讓渡シ若ハ擔保ノ目的ニ供スルコト
- 第八條 補助金下付ノ指令ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ所轄支廳長ノ證明ヲ得テ遲滞ナク南洋廳長官ニ届出ツベシ
- 一 事業ニ著手シ又ハ事業完了シタルトキ
  - 二 建造、建築又ハ製作ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ竣功シタルトキ
  - 三 購入ヲ要スルモノニ在リテハ現品到達シタルトキ
  - 四 住所、氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
  - 五 法人又ハ組合ノ定款、規約又ハ代表者ヲ變更シタルトキ
- 第九條 補助金ノ下付ヲ受ケタル者ハ第七條ニ定ムル期間中毎事業終了後二月以内ニ業務成績及收支決算ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ
- 第十條 南洋廳長官必要アリト認ムルトキハ補助金ノ下付ヲ受ケタル者ニ對シ本令ニ依リ外命令ヲ發シ又ハ當該官吏ヲ派シ業務ノ成績ヲ検査セシムルコトアルベシ
- 第十一條 補助金下付ノ指令ヲ受ケ又ハ補助金ノ下付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ南洋廳長官ハ補助金ノ下付ヲ取消シ若ハ之ヲ減額シ又ハ既ニ下付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
- 一 本令又ハ本令ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキ
  - 二 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 第十二條 本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄支廳長ヲ經由スベシ
- 附則  
本令ハ昭和十年十二月二十四日ヨリ之ヲ施行ス



大正十一年南洋廳令第二十二號水産業獎勵規則ハ之ヲ廢止ス  
本令施行前水産業獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際ニ限リ第五條ノ出願期日ハ昭和十一年二月末日迄トス

様式第一號

水産獎勵補助金下付願

今般何々致度候ニ付水産獎勵補助規則ニ依ル補助金下付相成度別紙關係書類相添へ此段相願候也

年 月 日

住所

氏名 又 ハ 名稱(代表者)

南洋廳長官宛

關係書類表示

一 何々

二 何々

三 何々

様式第二號

船舶件名書

一 船種及船名

二 船體ノ長、幅、深

三 船體ノ材料

四 總噸數

五 速力

六 機關(主機關及補助機關)ノ種類、數及馬力

七 設備ノ種類及數

八 豫定起工年月日

九 豫定竣功年月日

十 船體機關(主機關及補助機關)及設備ノ製造者ノ住所及氏名又ハ名稱

備考

冷蔵船ノ場合ニ在リテハ前各項ノ外冷室ノ數、各冷室ノ面積、容積、最低保持溫度、冷蔵品收容量、冷蔵機械ノ種類、冷却力及製氷量ヲ記載スベシ

●南洋群島漁業規則

昭和十一年四月一日  
南洋廳令第二號

改正 昭和十一年第四號

第一條 本令ニ於テ漁業ト稱スルハ公共ノ用ニ供スル水面又ハ之ト連接シテ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セザル水面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本令ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業ノ許可ヲ又ハ認可ヲ受ケタル者ヲ謂フ

第二條 本令ハ南洋群島ニ於テ漁獲物ノ處理、運搬ヲ爲シ又ハ食料、燃料其ノ他採業上必要ナル物品ノ積込ヲ爲ス者ニモ之ヲ適用ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル漁業ヲ爲サントスル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ

一 養殖業(一定ノ區域内ニ於テ養殖ヲ爲ス漁業)

二 定置漁業(一定ノ水面ニ漁具ヲ定置シ又ハ漁場ニ特別ナル裝置ヲ施シテ爲ス漁業)

三 蝶貝漁業

四 高瀬貝漁業

五 廣瀬貝漁業

六 玳瑁漁業

七 海綿漁業

八 珊瑚漁業

九 捕鯨業

十 螺旋推進器ヲ以テ五噸以上ノ船舶ヲ運航シ竿釣、一本釣、延繩ヲ使用シテ爲ス漁業

十一 根據地ヲ南洋群島ニ置キ遠洋ニ出漁スル漁業

十二 漁獲物處理運搬業

南洋廳長官漁業ヲ許可シタルトキハ漁業臺帳ニ登錄シ漁業許可證ヲ下付ス

第四條 從來ノ慣行ニ因ル漁業ヲ其ノ慣行ニ依リ爲サントスル者ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ漁業ノ種類、區域及認可期間ハ南洋廳長官別ニ之ヲ定ム

第五條 漁業許可期間ハ第三條第一項第一號乃至第三號ノ漁業ニ在リテハ二十年以内、第四號乃至第十二號ノ漁業ニ在リテハ五年以内ニ於テ

南洋廳長官ノヲ定ム

前項ノ期間ハ漁業者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトアルベシ

第六條 南洋廳長官漁業ノ許可又ハ認可ヲ與フルニ當リ必要アリト認ムルトキハ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトアルベシ

第七條 南洋廳長官左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ漁業ノ許可又ハ認可ヲ取消シ、制限シ又ハ停止スルコトアルベシ

一 錯誤ニ因リ許可又ハ認可ヲ與ヘタルトキ

二 水産動物ノ養殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ

三 本令若ハ本令ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキ

四 漁業ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ漁業ニ着手セズ又ハ着手後引續キ一年以上休止シタルトキ

第八條 第三條及第四條ニ該當セザル漁業ヲ爲サントスル者ハ所轄支廳長ニ届出テ漁業鑑札ヲ受クベシ

前項ノ漁業鑑札ノ有効期間ハ三年以内トス

第九條 第三條ノ漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第一項第一號乃至第五號ノ漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、第六號乃至第十二號ノ漁業ニ在リテハ漁船毎ニ左記事項ヲ記載シタル書面ニ事業計畫書及漁場ノ位置區域ヲ表示シタル圖面ニ通テ添へ南洋廳長官ニ願出ヅベシ

一 本籍、住所、氏名及生年月日(法人又ハ組合ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所所在地、代表者ノ住所、氏名、生年月日、登記簿謄本及定款又ハ規約寫)

二 漁業ノ名稱

三 漁具ノ名稱及數

本令ニ於テ漁業ト稱スルハ公共ノ用ニ供スル水面又ハ之ト連接シテ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セザル水面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ



四 漁場ノ位置及區域

五 漁船ノ種類、大サ、數及乗組人員

六 漁獲物又ハ養殖物ノ種類

七 漁業ノ時期

八 漁業ノ根據地

前項ノ許可願ニシテ推進器ヲ有スル五噸以上ノ船舶ヲ使用スル場合ハ別記様式ノ船舶件名書ヲ添付スベシ

第十條 第四條ノ漁業ノ認可ヲ受ケントスル者ハ漁場毎ニ左記事項ヲ記載シタル書面ニ慣行ヲ證スル書類及漁場ノ位置區域ヲ表示スル圖面ニ通テ添ヘ南洋廳長官ニ願出ツベシ

一 住所、氏名

二 漁業ノ名稱

三 漁場ノ位置及區域

四 漁獲物又ハ養殖物ノ種類

五 漁業ノ時期

第十一條 第八條ノ漁業鑑札ヲ受ケントスル者ハ(漁船ヲ使用スル者ハ漁船毎ニ)左記事項ヲ記載シ届出ツベシ

一 本籍、住所、氏名及生年月日(法人又ハ組合ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地、代表者ノ住所、氏名、生年月日、登記簿謄本及定款又ハ規約寫)

二 漁業ノ名稱

三 漁具ノ名稱及數

四 漁場ノ區域

五 漁獲物ノ種類

六 漁船ノ種類

七 漁業ノ時期

第十二條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帯スベシ

第十三條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ之ヲ賣買、讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ズ

第十四條 漁業者死亡シ相續人其ノ漁業ヲ繼承セントスルトキハ六月以内ニ漁業許可證ニ相續人タルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ名義書換ヲ申請スベシ

第十五條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク事由ヲ具シ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請スベシ

第十六條 漁業許可證又ハ漁業鑑札無効ニ歸シ又ハ漁業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ返納スベシ

第十七條 南洋廳長官ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條 漁業ノ許可又ハ認可ヲ與ヘタルトキ又ハ之ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ程度之ヲ南洋廳長官ニ報告ス

第十九條 本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄支廳長ヲ經由スベシ

第二十條 南洋廳長官漁業取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシ

テ船舶、店舗、其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二十一條 本令ハ官廳ニ於テ試驗、調査又ハ標本採集ノ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ學術研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合亦同ジ

第二十二條 有毒物爆發物又ハ電流ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ズ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 左ニ掲グル水産動物ハ各號ニ定ムル期間之ヲ採捕スルコトヲ得ズ

一 高瀬貝 自七月一日起至翌年四月三十日

二 廣瀬貝 自七月一日起至翌年四月三十日

三 蝶貝 自八月三十一日起至十二月三十一日

四 玳瑁 自六月一日起至八月三十一日

自十一月一日起至翌年一月三十一日

第二十四條 左ニ掲グル水産動物ハ之ヲ採捕スルコトヲ得ズ

一 高瀬貝 貝殼底部ノ直徑八種以下ノモノ

二 廣瀬貝 貝殼底部ノ直徑五種以下ノモノ

三 玳瑁及青海龜脊甲ノ堅長(縁甲ヲ除キタル直線距離)六十種以下ノモノ及卵

四 上陸シタル玳瑁及青海龜(正覺坊)

第十三章 産業 第四節 水産業

五 漁獲物ノ種類

六 漁船ノ種類

七 漁業ノ時期

第十二條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帯スベシ

第十三條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ之ヲ賣買、讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ズ

第十四條 漁業者死亡シ相續人其ノ漁業ヲ繼承セントスルトキハ六月以内ニ漁業許可證ニ相續人タルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ名義書換ヲ申請スベシ

第十五條 漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク事由ヲ具シ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請スベシ



漁場圖ノ添本

每一件 五十銭  
每一件 一圓

第二十九條 第三條及第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以内ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 第八條、第十二條、第十三條、第二十三條乃至第二十五條及第二十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第二十條ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ没收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス  
一 第十五條及第十六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第二十六條ノ規定ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキ

第三十三條 漁業者未成年者、禁治産者、法人又ハ組合ナルトキハ本令ニ依リ之ヲ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人、法人ノ代表者又ハ組合ノ代表者ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 漁業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則

第三十五條 本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 大正五年南洋群島民政令第十四號南洋群島漁業規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本令ニ依リ許可又ハ鑑札ヲ受クベキ漁業ニシテ從前ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可又ハ鑑札ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本令施行後一年以内ニ本令ニ依リ更ニ許可又ハ鑑札ヲ受クルニ非ザレバ許可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

(様式) 船舶件名書

- 一 船舶番號
- 二 船籍港
- 三 船種及船名
- 四 船ノ長、幅、深
- 五 總噸數
- 六 機關ノ種類
- 七 純馬力
- 八 速力
- 九 副漁具ノ種類及數
- 十 造船年月日及造船所
- 十一 機關製作年月日及鐵工所名
- 十二 所有者ノ住所氏名

第何號  
汽(機)船何丸  
帆(機)船何丸

●南洋群島漁業規則第四條ニ依ル漁業ノ種類、區域及認可期間

昭和十一年四月一日  
南洋廳告示第五號

南洋群島漁業規則第四條ニ依ル漁業ノ種類、區域及認可期間左ノ通定ム  
本告示昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁業ノ種類	區域	認可期間
高瀬貝漁業	バラオ支廳管内バラオ諸島(オルアンガル環礁及ベラスコ礁ヲ除ク)堡礁外ニ軒以内ノ海面	二十年
玳瑁漁業	右同	二十年

備考 右ハ從來ノ慣行ニ依リ各村地先水面ヲ其ノ村ニ認可スベキニ付各村長ヨリ認可方願出ヅベシ

●水産調査船旗ニ關スル件

昭和五年十月一日  
南洋廳告示第十三號

南洋廳所屬水産調査船ノ旗章左ノ通定ム  
一 地質 白色 一 幅員 適宜 一 旗章 別圖ノ通  
赤色ヲ以テ「水」ヲ徽章トシテ表ス

第五節 畜産業

●畜産獎勵規則

昭和十二年六月一日  
南洋廳令第六號

- 第一條 支廳長ハ畜産ノ改良發達ヲ圖ル爲本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付ス
- 第二條 獎勵金ヲ下付スベキ場合及金額左ノ如シ  
一 種牲畜ヲ飼養シタル場合 牛ニ在リテハ一頭ニ付三十圓以内、豚ニ在リテハ一頭ニ付二十圓以内  
二 種畜ヲ購入シタル場合 牛ニ在リテハ乳牛一頭ニ付百二十圓以内、役牛一頭ニ付六十圓以内、豚ニ在リテハ一頭ニ付三十圓以内  
但シ此ノ場合ハ當該年度ニ限り前號ノ獎勵金ハ之ヲ下付セズ





- 三 仔牛二頭以上又ハ仔豚八頭以上ヲ生産シタル場合仔牛一頭ニ付十圓以内、仔豚一頭ニ付二圓以内
  - 四 肥育用仔豚ヲ購入シタル場合一頭ニ付三圓以内
  - 五 畜舎（附屬堆肥舎ヲ含ム）ヲ建設シタル場合材料費ノ四分ノ一以内
- 支應長ハ前項ノ外必要アリト認ムルトキハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得
- 第三條 獎勵金ヲ下付スベキ家畜及畜舎ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 種牡畜ハ牛ニ在リテハ生後滿一年六月以上七年以下、豚ニ在リテハ生後滿六月以上三年以下ナルコト
  - 二 購入種畜ハ牛ニ在リテハ生後滿一年六月以上三年以下、豚ニ在リテハ生後滿六月以上一年六月以下ナルコト
  - 三 生産仔畜ハ生後滿二月ヲ經過シ健康ナルコト
  - 四 購入肥育用仔豚ハ生後滿三月ヲ經過シ健康ナルコト
  - 五 畜舎ハ建坪七坪以上ニシテコンクリート叩キナルコト
- 第四條 獎勵金ノ下付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ毎年二月末日迄ニ所轄支應長ニ願出ヅベシ
- 一 種牡畜ヲ飼育スル場合ハ畜種、品種、頭數、生年月日及飼養管理費
  - 二 種畜ヲ購入スル場合ハ畜種、品種、性別、頭數、年齡、購入先、購入豫定價額及牽入豫定年月日
  - 三 仔畜ヲ生産スル場合ハ畜種、品種及生産豫定頭數
  - 四 肥育用仔豚ヲ購入スル場合ハ品種、性別、頭數、購入豫定價額及

- 畜入豫定年月日
  - 五 畜舎ヲ建設スル場合ハ建坪、工事費（仕様書、仕様書、位置圖及平面圖添附）、工事著手及竣功豫定年月日
  - 第五條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ所轄支應長ノ認可ヲ受ケテベシ
  - 第六條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ所轄支應長ニ届出ヅベシ
  - 一 種畜ヲ購入牽入レタルトキハ畜種、品種、性別、頭數、生年月日、購入先、購入價額及牽入年月日
  - 二 家畜分娩シタルトキハ畜種、品種、性別、頭數及年月日
  - 三 肥育用仔豚ヲ購入シタルトキハ品種、性別、頭數、生年月日、購入先、購入價額及牽入年月日
  - 四 畜舎竣功シタルトキハ工事費及竣功年月日
  - 五 家畜斃死、盜難、失踪其ノ他重大ナル事故發生シタルトキハ畜種、性別、年月日及其ノ原因
  - 六 畜舎破損又ハ倒壊シタルトキハ年月日及其ノ原因前項ノ届出ハ第二號ニ在リテハ當該年度ヲ、第五號第六號ニ在リテハ第七號ニ定ムル期間ヲ經過シタル場合ハ之ヲ要セズ
- 第七條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者左ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ所轄支應長ノ許可ヲ受ケテベシ
- 一 家畜ヲ左ノ期間内ニ於テ屠殺、賣買、讓渡、其ノ他ノ處分ヲ爲サントスルトキ
  - 種牡畜ニ在リテハ當該年度

### 第六節 産業組合

#### ●産業組合法

明治三十三年三月七日 法律第三十四號

改正 明治三十九年第四五號、四十二年第二七號、大正六年第二二號、一〇年第七三號、一二年第四四號、一五年第五四號、昭和七年第三〇號、一一年第一〇號

#### 第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ
- 一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合）
  - 二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合）
  - 三 産業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシメテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト（購買組合）
  - 四 組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト（利用組合）
- 信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ノ金額及出資一口ニ付定款ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムヘキ金額ノ合計額ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得
- 信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者、公共團體又ハ營利ヲ目的トセザル法人若ハ團體ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

- 生産仔畜ニ在リテハ生後三月
  - 肥育用仔豚ニ在リテハ生後一年
  - 購入種畜ニ在リテハ牛ハ牽入後四年、豚ハ牽入後二年
  - 二 畜舎建設後三年以内ニ於テ其ノ用途ヲ廢止又ハ轉貸、讓渡其ノ他ノ處分ヲ爲サントスルトキ
- 第八條 支應長ハ獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ畜産獎勵上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
- 第九條 獎勵金下付ノ指令ヲ受ケ又ハ獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ支應長ハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ之ヲ減額シ又ハ既ニ下付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返納ヲ命ズルコトヲ得
- 一 本令又本令ニ依リテ發スル命令ニ違反シタルトキ
  - 二 虛偽其ノ他不正ノ方法ニ依リ獎勵金下付ノ指令ヲ受ケ又ハ獎勵金ノ下付ヲ受ケタルトキ
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 大正十一年南洋廳令第二十一號畜産獎勵規則ハ之ヲ廢止ス
- 第四條中二月末日トアルハ昭和十二年度ニ限り七月三十一日迄トス



市又ハ主務大臣ノ指定スル市街地カ組合ノ區域ニ屬スル信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ産業若ハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ノ爲手形ノ割引ヲ爲シ又ハ前二項ノ貯金ノ外組合ノ區域内ニ居住スル組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル貯金ハ有限責任組合ニ在リテハ出資總額及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計、保證責任組合ニ在リテハ之ニ保證金額ヲ加ヘタル合計、無限責任組合ニ在リテハ出資總額ノ五倍及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計ヲ超エ之ヲ受入ルルコトヲ得ス

第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ハ第一項第二號乃至第四號ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス  
利用組合ノ設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

前項ノ設備ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス  
第二條ノ産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス但シ有限責任タルコトヲ得ル組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 前條第四項ノ信用組合ニシテ定款ノ定ムル所ニ依リ同條第一項第一號乃至第四號ノ事業ヲ兼ヌザルモノ  
二 定款ノ定ムル所ニ依リ經濟ニ必要ナル物ノミヲ取扱フ購買組合ニシテ前條第一項第一號若ハ第二號ノ事業又ハ同條同項第四號ノ事業中産業ニ必要ナル設備ヲ利用セシムル事業ヲ兼ヌザルモノ

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、

保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第五條 産業組合ノ住所ハ其ノ主たる事務所ノ所在地ニ在ルモノトス  
第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用カヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス  
第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス  
第六條ノ二 命令ノ定ムル所ニ依ル産業組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第六條ノ三 本法中地方長官トアルハ區域ガ道府縣ノ區域ヲ超ユル産業組合ニ付テハ之ヲ主務大臣トス  
前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二章 設立  
第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス  
第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主たる事務所所在地ノ地方長官ニ差出し設立ノ許可ヲ請フヘシ  
第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除ク外左ノ事項ヲ記載シ設立

者之ニ署名捺印スヘシ

一 目的

二 名稱

三 組織

三ノ二 區域

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五ノ二 保證責任組合ニ在リテハ保證金額ニ關スル規定

六 第一回拂込ノ金額

七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由信用組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外市町村ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス  
第十條ノ二 法人ハ産業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル法人ハ此ノ限ニ在ラズ  
前項但書ノ法人ノ産業組合ノ組合員ト爲ルニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ三 農事實行組合ハ一定ノ地區内ノ農業者ヲ以テ之ヲ組織シ組織シ組  
第十三章 産業 第六節 産業組合

會員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

農事實行組合ハ法人トス

農事實行組合ノ地域ハ部落其ノ他之ニ準ズル區域トス

農事實行組合ヲ設立スルニハ其他區域内ノ農業者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作成スルコトヲ要ス

農事實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ規約役員ノ氏名及住所並ニ設立ノ年月日ヲ具シ行政官廳ニ之ヲ届出ヅベシ届出タル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第十條ノ四 蠶絲業組合法第二十一條、第二十二條第二項、第二十三條乃至第二十五條、第二十六條及第四十一條、民法第四十四條第二項、

第五十二條第一項、第五十六條乃至第五十八條及第六十八條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ農事實行組合ニ之ヲ準用ス但シ蠶絲業組合法第二十三條第二項第一號中第一號乃至第四號及第十一號トアルハ之ヲ第一號、第二號及第四號トシ同項第二號中設立認可トアルハ之ヲ設立トシ同項第三號中理事及監事トアルハ之ヲ理事トシ同法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル 民法第三十八條第二項及第四十

七條、産業組合法並ニ非訟事件手續法第五十條ノ二ノ規定ヲ除ク

第十條ノ五 組合員タル法人ガ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テハ法人ノ組合員ノ全員ハ其ノ法人ガ産業組合ニ對シ負擔スル一切ノ債務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス

第十條ノ六 組合員タル法人ハ其ノ組合員ガ脱退シタルトキハ遲滞ナク産業組合ニ之ヲ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テハ脱退シタル組合員モ亦其ノ通知ヲ爲スコトヲ得



第十條ノ七 組合員タル法人ノ組合員ガ其ノ法人ヨリ脱退シタル場合ニ於テハ脱退シタル組合員ハ前條ノ脱退ノ通知前ニ生ジタル法人ノ産業組合ニ對スル債務ニ付其ノ脱退ノ通知後二箇年間第十條ノ五ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ  
出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ  
第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ  
一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項  
二 設立許可ノ年月日  
三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
第十五條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ノ記載ハ變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項及第四十八條ノ規定ハ期間ヲ除クノ外産業組合ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二 第十二條ノ拂込アリタルトキハ組合ハ二週間内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出テ同時ニ組合原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出及提出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主タル事務所所在地ノ登記所ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ三 第十四條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ組合ハ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ登記ノ事由カ地方長官ノ認可其ノ他ノ處分ニ因リテ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所所在地ノ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ前項但書ノ場合亦同シ

第十六條ノ四 組合ハ主タル事務所ノ移轉又ハ組織變更ノ登記ニ關スル届出ヲ爲スト同時ニ組合原簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ主タル事務所所在地ノ登記所ニ前項ノ登記ヲ囑託スルト同時ニ組合原簿ヲ送付スヘシ  
第十六條ノ五 組合原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 出資ノ總口數  
二 拂込ミタル出資ノ總額  
三 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所  
四 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額

登記所ノ受理シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理  
第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ  
理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半数以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得  
第二十九條ノ二 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第十四條第二項及第十五條ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス  
第十六條ノ六 第十六條ノ三ノ規定ハ組合原簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ之ヲ準用ス

組合員ノ加入ノ場合ニ於テハ無限責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ加入ノ日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ提出シ地方長官ハ遲滞ナク之ヲ主タル事務所所在地ノ登記所ニ送付スヘシ

組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組合員ノ脱退又ハ保證金額ノ減少ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル

第三章 組合員ノ權利義務  
第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ  
組合員ノ有スヘキ出資口數ハ三十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五十口迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス  
第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ  
第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス



一 各組合員ノ氏名、住所  
 二 各組合員ノ出資口數  
 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日  
 四 出資各口ノ取得ノ年月日  
 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額  
 第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目録、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ  
 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得  
 第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ  
 第三十一條ノ二 産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル  
 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス  
 第三十一條ノ三 理事ハ少クトモ毎事業年度一回通常總會ヲ開クコトヲ要ス  
 第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス  
 第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス  
 第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十四條ノ二 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ  
 理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ  
 第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ  
 第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス  
 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ  
 第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス  
 第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得  
 總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス  
 第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ  
 第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス  
 定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス  
 第四十條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ  
 組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之

ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス  
 第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス  
 債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス  
 第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス  
 第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得  
 第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス  
 剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス  
 第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ  
 第四十六條ノ二 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム  
 第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス  
 第四十六條ノ三 有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨濟スルノ責ニ任ス  
 前項ノ規定ニ依ル理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存續ス  
 第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス但シ定款ヲ以テ六箇月ト爲スコトヲ得  
 第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス  
 第四十八條ノ二 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得  
 第五章 加入及脱退  
 第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス  
 前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否ト問ハズ組合員



ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ第四十七條但書ノ規定ニ依リ事業年度ヲ六箇月ト爲シタル組合ニ在リテハ豫告ハ三箇月前ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル  
前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 組合員タル資格ノ喪失
- 二 死亡
- 三 破産
- 四 禁治産
- 五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ  
持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年之間ヲ行ハサルニ因リ

テ消滅ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル期間ハ總會ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セサル限り之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及北海道廳支廳長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事又ハ清算人ヲシテ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合ノ事業、財産又ハ清算事業ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
監督官廳ハ組合清算ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合ニ對シ其ノ

財産ノ供託ヲ命スルコトヲ得

第六十條ノ二 理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
- 五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合カ合併セムトスルトキ又ハ保證責任組合若ハ有限責任組合カ合併ニ因リテ組織變更ト同一ノ結果ヲ生スヘキトキハ其ノ合併ニ付總會員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十二條ノ二 組合定款ニ定メタル存立時期ノ滿了ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ組合ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ存立時期滿了ノ日ヨリ一箇年内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ繼續ニ同意セザル組合員ハ組合繼續ノ時ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ二 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 總會ノ決議ニ因ル解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總會員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ



第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遅滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務力終リタルトキハ清算人ハ遅滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十五條 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十六條 清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第七十七條 第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第七十八條 清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十九條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會

第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ賣却スルコト

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト

四 所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會ヲ以テ、販賣組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得ス

第七十七條 信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ信用組合聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對シ手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第八十條 産業組合聯合會ハ社團法人トス

産業組合中央會ハ社團法人トス

産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條 産業組合中央會ノ名稱中ニハ産業組合中央會ナル文字ヲ用フヘシ

産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得

第八十四條 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第八十六條 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事務所

三 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

四 會員ノ權利義務ニ關スル規定

五 資産ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 事業ノ執行ニ關スル規定

産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十七條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第七十八條 清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十九條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第八十條 産業組合中央會ハ社團法人トス



九 定款ノ變更ニ關スル規定  
 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由ニ定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス  
 第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主務大臣事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ  
 登記スヘキ事項左ノ如シ  
 一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類  
 二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項  
 三 資産ノ總額  
 四 設立許可ノ年月日  
 五 理事及監事ノ氏名、住所  
 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
 第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官トアルハ主務大臣トス  
 第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ  
 第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ  
 第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス  
 第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第九十二條 第三條、第五條乃至第六條ノ二、第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十五條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條ノ二及第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ノ二ニ於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス  
 第十章 罰則  
 第九十三條 組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合財産ノ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 前項ノ規定ハ刑法三正條アル場合ニハ之ヲ適用セス  
 第九十三條ノ二 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル  
 一 本法ニ定メタル届出若ハ組合原簿ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ  
 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ  
 三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ間

覽ヲ拒ミタルトキ  
 四 第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ  
 五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ檢査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ  
 六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ  
 七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ  
 八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ  
 九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ  
 十 第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ  
 十一 法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ  
 第九十三條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル  
 第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス  
 第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ  
 第九十八條 登記ノ囑託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 囑託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
 一 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事務所  
 二 登記ノ目的及事由  
 三 年月日  
 四 登記所ノ表示  
 第九十九條 設立登記ノ囑託書ニハ定款及届書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ囑託書ニハ届出ニ因ル場合ニ於テハ届書ヲ添附スヘシ  
 第一百條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 第一百零一條 非訟事件手續法第三百三十八條、第三百三十八條ノ二、第三百四十一條乃至第三百四十六條、第四百四十八條、第四百四十八條ノ二、第四百五十一條乃至第四百五十一條ノ六、第四百五十四條乃至第四百五十八條、第四百六十五條及第四百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス  
 ○大正六年法律第二十二號附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正六年勅令第九十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行)  
 本法施行前ニ登記シタル産業組合及産業組合聯合會ニシテ定款ニ區域ノ

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十三年七月勅令第三百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)  
 第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所

第十三章 産業 第六節 産業組合  
 一六五九



定アルモノニ付テハ地方長官ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ區域ノ登記ヲ各事務所所在地ノ登記所ニ囑託スヘシ

○大正十一年法律第七十三號附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十年勅令第三百七十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行)

本法施行前ニ設立シタル生業組合又ハ生業組合聯合會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

○大正十五年法律第五十四號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年勅令第三百三十五號ヲ以テ同年五月二十五日ヨリ施行) 但シ第五十九號及第六六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和七年法律第三十號附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和七年勅令第二百七十五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

第二條 本法施行前ニ設立シタル有限責任ノ組合(第二條第一項但書ノ改正規定ニ據グル組合ヲ除ク)又ハ聯合會ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ五箇年ヲ限リ第二條第一項但書及第七十七條ノ改正規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 前項ノ組合ハ同條ノ期間内ニ總會ニ於テ總組合員ノ半数以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テスル決議ニ依リ其ノ組織ヲ變更シ保證責任ノ組合ト爲スコトヲ得  
前項ノ組織變更ニ同意セザル組合員ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ組織變更ノ時ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ前條ノ聯合會ニ之ヲ準用ス  
第四條 附則第二條ノ組合又ハ聯合會ニシテ同條ノ期間内ニ其ノ組織ヲ變更シテ左ニ掲グル組織ト爲サザルモノハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ解散ス

一 組合ニ在リテハ保證責任又ハ無限責任  
二 聯合會ニ在リテハ保證責任

第五條 第十條ノ二第一項ノ改正規定ニ依リ産業組合ノ組合員タルコトヲ得ザル法人ニシテ本法施行ノ際現ニ産業組合ノ組合員タルモノハ當分ノ内仍其ノ組合員タルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十條ノ五乃至第十條ノ八ノ規定ヲ適用セズ

第六條 蠶絲業組合法第二十三條第二項第一號中「第一號乃至第三號、第十號及第十一號」ヲ「第一號、第二號及第四號」ニ改メ同條同項中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トシ第四號ヲ第三號トス  
第七條 蠶絲業組合法第二十六條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

### ●南洋群島産業組合令

昭和七年九月二十一日  
勅令第二百五十二號

第一條 産業組合ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外産業組合法(産業組合聯合會及産業組合中央會ニ關スル規定ヲ除ク)ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ南洋廳令、主務大臣トアルハ南洋廳長官、地方長官トアルハ第六條ノ三、第十六條ノ二、第十六條ノ三(第一項但書ヲ除ク)、

第十六條ノ四及第十六條ノ六ノ場合ニ在リテハ南洋廳支廳長、其ノ他

ノ場合ニ在リテハ南洋廳長官、區裁判所又ハ其ノ出張所又ハ裁判所トアルハ南洋廳地方法院又ハ登記事務ヲ取扱フ南洋廳支廳長、道府縣ノ區域又ハ市町村ノ區域トアルハ南洋廳支廳ノ管轄區域トシ産業組合法ニ規定スル届出ヲ爲スベキ期間又ハ組合原簿ノ提出ヲ爲スベキ期間ハ之ヲ二倍トス

第二條 産業組合ハ南洋廳長官及南洋廳支廳長之ヲ監督ス

第三條 總會ニ於ケル理事、監事及清算人ノ選任及解任ニ付テハ南洋廳長官ノ認可ヲ受タベシ

第四條 組合員ノ有スベキ出資口數ハ特別ノ事由ニ依リ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限リ三十口ヲ超ユルコトヲ得

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ三ニ關スル規定ハ昭和七年法律第三十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋群島産業組合令施行規則

昭和七年十月四日  
南洋廳令第七號

第一條 産業組合設立許可申請書ニハ設立者全員ノ住所職業ヲ記載シ署名捺印スヘシ

前項ノ申請書ニハ定款及左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ  
一 組合ノ設立ヲ必要トスル事由  
二 組合員タルヘキ者ノ數及其ノ戶數、區域内戶數(同業者ノミヲ以

第十三章 産業 第六節 産業組合

テ設立スルモノニ在リテハ同業者ノ數)

三 設立者ノ引受タル出資口數

四 事業計劃ノ概要

第二條 信用組合ノ區域内ニ居住スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三年ヲ經過シ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第三條 出資一口ノ金額ハ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第七條 總代會ハ百人以上ノ組合員ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設ケタルコトヲ得ス  
總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル



規定ヲ設クヘシ

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ受入及拂戻ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第十一條 産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一 金錢又ハ有價證券ノ供託  
二 郵便貯金法ニ依ル貯金又ハ有價證券保管

第十二條 前條ノ有價證券ノ種類ハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス  
一 國債證券  
二 地方債證券

第十三條 第十一條ノ有價證券ノ見積價格ハ事業年度ニ從ヒ毎六月初日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ハ事業年度ニ從ヒ六月毎ニ遲滞ナク第十一條ノ規定ニ依ル管理ノ手續ヲ爲シ同法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ額ヲ記載シタル書面及管理ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツヘシ

第十五條 拂戻準備金ハ南洋廳長官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額並證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第十六條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ精算人署名捺印スヘシ

支廳長前項ノ届書ヲ受附タルトキハ之ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ組合原簿ヲ受附タルトキ亦同シ

第十七條 支廳長ニ提出スル組合原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十九條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類及決議録ヲ南洋廳長官ニ提出スヘシ

第二十條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動  
二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額  
三 借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率  
四 損益ノ計算  
五 準備金及各種ノ積立金

議事項、日時及場所ヲ少クトモ開會五日前ニ所轄支廳長ニ届出ツヘシ

第二十六條 總會又ハ總代會ノ議長ハ左ノ事項ヲ記載シタル決議録ヲ作リ監事及出席組合員二人以上ト共ニ署名捺印スヘシ  
一 開會ノ日時、場所  
二 組合員ノ總數  
三 出席組合員ノ數及委任狀ヲ提出シタル組合員ノ數  
四 缺席組合員ノ數  
五 議事ノ要領  
六 議決シタル事項及贊否ノ數

二十七條 組合カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ決議スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合カ一事業年度ニ於ケル一組合員ニ對シテ爲ス貸付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付テ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十八條 定款變更並監事、監事又ハ清算人ノ選任及解任ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議録ヲ添附スヘシ

前項ノ認可申請事項中登記事項ニ異動ヲ生スヘキモノアルトキハ別ニ決議録ヲ所轄支廳長ニ提出スヘシ

第二十九條 理事、監事又ハ清算人ノ變更ノ届書ニハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ハ此ノ限ニ

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額並證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第十六條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ精算人署名捺印スヘシ

支廳長前項ノ届書ヲ受附タルトキハ之ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ組合原簿ヲ受附タルトキ亦同シ

第十七條 支廳長ニ提出スル組合原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十九條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類及決議録ヲ南洋廳長官ニ提出スヘシ

規定ヲ設クヘシ

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ受入及拂戻ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第十一條 産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一 金錢又ハ有價證券ノ供託  
二 郵便貯金法ニ依ル貯金又ハ有價證券保管

第十二條 前條ノ有價證券ノ種類ハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス  
一 國債證券  
二 地方債證券

第十三條 第十一條ノ有價證券ノ見積價格ハ事業年度ニ從ヒ毎六月初日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ハ事業年度ニ從ヒ六月毎ニ遲滞ナク第十一條ノ規定ニ依ル管理ノ手續ヲ爲シ同法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ額ヲ記載シタル書面及管理ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨南洋廳長官ニ届出ツヘシ

第十五條 拂戻準備金ハ南洋廳長官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額並證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第十六條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ精算人署名捺印スヘシ

支廳長前項ノ届書ヲ受附タルトキハ之ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ組合原簿ヲ受附タルトキ亦同シ

第十七條 支廳長ニ提出スル組合原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十九條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類及決議録ヲ南洋廳長官ニ提出スヘシ

第二十條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動  
二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額  
三 借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率  
四 損益ノ計算  
五 準備金及各種ノ積立金

議事項、日時及場所ヲ少クトモ開會五日前ニ所轄支廳長ニ届出ツヘシ

第二十六條 總會又ハ總代會ノ議長ハ左ノ事項ヲ記載シタル決議録ヲ作リ監事及出席組合員二人以上ト共ニ署名捺印スヘシ  
一 開會ノ日時、場所  
二 組合員ノ總數  
三 出席組合員ノ數及委任狀ヲ提出シタル組合員ノ數  
四 缺席組合員ノ數  
五 議事ノ要領  
六 議決シタル事項及贊否ノ數

二十七條 組合カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ決議スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合カ一事業年度ニ於ケル一組合員ニ對シテ爲ス貸付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付テ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十八條 定款變更並監事、監事又ハ清算人ノ選任及解任ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議録ヲ添附スヘシ

前項ノ認可申請事項中登記事項ニ異動ヲ生スヘキモノアルトキハ別ニ決議録ヲ所轄支廳長ニ提出スヘシ

第二十九條 理事、監事又ハ清算人ノ變更ノ届書ニハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ハ此ノ限ニ

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額並證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第十六條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ精算人署名捺印スヘシ

支廳長前項ノ届書ヲ受附タルトキハ之ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ組合原簿ヲ受附タルトキ亦同シ

第十七條 支廳長ニ提出スル組合原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十九條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類及決議録ヲ南洋廳長官ニ提出スヘシ



在ラス

第三十條 産業組合法第十六條ノ六第二項及第三項ノ規定ニ依リ無限責任組合ノ提出スル組合原簿ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第三十一條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第二十八條ニ掲ケタル書類ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第三十二條 剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スヘキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テサルモノハ拂込ミタル出資額カ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タサル場合ニ限り配當スヘキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年八分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割二分迄之ヲ増加スルコトヲ得

第三十三條 産業組合法第十六條ノ六第三項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第三十一條ニ掲ケタル書類ヲ添付スヘシ

第三十四條 理事任期滿了其ノ他ノ事故ニ依リ更迭ノ場合ハ帳簿書類、金錢、物品ニ目錄ヲ添ヘカ受渡ヲ爲スヘシ

前任者ニ於テ前項ノ引繼ヲ爲シ得サル事情アルトキハ他ノ理事代リテ

之ヲ爲スヘシ

第三十五條 産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添付スヘシ

第三十六條 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議、財産目録及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第三十七條 合併ノ認可申請書ニハ第三十一條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款並産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ掲ケタル書類ノ外總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第三十八條 組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙第三十一條ニ掲ケタル書類ヲ添付スヘシ

第三十九條 産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル定款變更ノ場合ニ於テ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ踐ミタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添付シ遲滞ナク其ノ旨ヲ南洋廳長官ニ届出ツヘシ

第四十條 第十九條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 清算終了ノ届書ニハ總會又ハ總代会ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添付スヘシ

第四十二條 組合ニ備フヘキ簿冊ノ種類及様式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 産業組合法又ハ本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄支廳長ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合ニ備フヘキ簿冊ノ種類及様式

昭和七年十月四日 南洋廳告示第十九號

産業組合ニ備フヘキ簿冊ノ種類及様式左ノ通定ム

- 一簿冊ノ種類
- 組合員名簿總計表
- 組合員名簿
- 日記帳
- 元帳
- 持分寮帳

第十三章 産業 第六節 産業組合

借入金寮帳

預金寮帳

所有物件寮帳

消耗品出納帳

受取手形記入帳

支拂手形記入帳

貸付金寮帳

貯金寮帳

割引手形記入帳

販賣物品買入帳

販賣物品賣上帳

販賣物品受拂帳

委託販賣整理簿

物品仕入帳

生産物品受拂簿

仕入物品受拂簿

購買物品賣却代金整理簿

加工帳

加工整理簿

利用帳

利用整理簿

二簿冊ノ様式

別表ノ通



第十三章 産業 第六節 産業組合

組合員名簿總計表

年月日	摘要	組合員口數	組合員口數	現在	拂込金額	拂戻金額	拂込現在額

記載上ノ注意

- 一 組合員名簿ノ卷首ニ綴リ置クモノトス
- 二 組合員ノ増減出資口數並拂込ノ増減アルトキハ本表ヘ記載スルモノトス

組合員名簿

出資一口ノ金額	保証金額	年月日	摘要	住氏所	何島何村何番地	何業何	某	現在	出資額	出資額	未拂込額	現在口數番號内譯

記載上ノ注意

- 一 一組合員毎ニ別表出資各口拂込表ヲ附シ一口毎ニ拂込金額ヲ記入スルモノトス
- 二 組合員名簿卷首ニ總計表ヲ附シ常ニ加入、増口、脱退ニ依ル増減ヲ其ノ都度記載スルモノトス

出資一口金額

金

圓也

(保証金額金

圓

(出資各口)

(拂込表)

第 號

回拂込	年月日	各自拂込	剩餘金	拂込金	計額	理事	證印

記載上ノ注意

- 一 本表中保証金額ハ保証責任組合ニ限ル
- 二 組合員名簿ノ次ニ其ノ現在口數ダケ綴込ムモノトス

日記帳

年月日	元帳口座	摘要	元帳丁數	借(入)	貸(出)	残高

記載上ノ注意

- 一 「元帳丁數」欄ニハ元帳ニ轉記シタルトキ其ノ丁數ヲ記入スヘシ
- 二 日計、月計、累計ヲ記入スヘシ
- 三 組合財産ノ増減變化アリタルトキハ必ス本帳簿ニ記入スヘシ







二 利息支拂方法ハ元金償還ノ時或ハ毎半期等記入スルコト

借入金臺帳 (當座借越契約)

借越 限度	借越 年月日	摘要	契約 期間	小切手 番號	借方 (受)	貸方 (拂)	借方 貸方	引 日數	利率	借越 日歩	利息 割合	借方 貸方	利息	住所	擔保 氏名
														又ハ保 證保	者

預金臺帳

年月日	摘要	預入	引出	残高	日(月)數	積數	利息

記載上ノ注意

- 一 預先毎ニ口座ヲ設クヘシ
- 所有物件臺帳

年月日	摘要	受數	拂量	受金	拂	残額	備考

記載上ノ注意

- 一 品目毎ニ口座ヲ設クヘシ
- 消耗品出納帳

年月日	摘要	受	入	拂	出	残高	取扱者印

品目

記載上ノ注意

- 一 品目毎ニ口座ヲ設クヘシ
- 受取手形記入帳

年月日	摘要	手形金額	手形種類 番號	支拂人	裏振書出人	日手付形	滿期日	支拂所	順 月日	事由

支拂手形記入帳

年月日	摘要	金額	手形種類 番號	受取人	裏振書出人	日手付形	滿期日	支拂所	順 月日	事由



貸付金臺帳

年月日	受入金額	残額	事由	由年月日	計算期間 日数積数	金額	受入金額	残額	事由	元	金	回	收	利	債	保	用	利	償	債
															務	證	途	子	還	務
															者	又	途	支	法	者

記載上ノ注意

- 一 用途ハ肥料購入資金、農具購入資金、家屋建設資金等可成具體的ニ記入スルコト
- 二 償還方法ハ年賦、月賦、定期等ヲ記載スルコト
- 三 利子支拂方法ハ元金ト同時或ハ毎月又ハ毎半期等記載スルコト

貯金臺帳 (當座)

年月日	摘要	氏名	貯金者	受入高	拂戻高	現在高	日数	積数	利率	利息	利子支拂

記載上ノ注意

- 一 組合員毎ニ口座ヲ設クルコト
- 二 組合員ノ分ト組合員外ノ分トヲ別冊ニスルコト

貯金臺帳 (定期)

年月日	番號	貯金者氏名	金額	期間	利率	利息	支拂	年月日	備	考

記載上ノ注意

- 一 組合員ノ分ト組合員外ノ分トヲ別冊ニスルコト

割引手形記入帳

年月日	摘要	手形種類	手形番號	支拂人	振出人又ハ裏書人	満期日	手形付場	割引日	割引歩合	割引料	額	月日	事由

販賣物品買入帳

年月日	摘要	数量	單價	價總額	支拂金額	未拂金額	備	考







第十三章 産業 第六節 産業組合

二 本帳簿ハ仕入先毎ニ仕入金、仕拂金、未拂金額ヲ表ハスモノナリ  
生産物品受拂簿

年月日	摘要	生産数量		数量		金額		備考
		仕入	仕出	残高	備	残高	備	

記載上ノ注意

一 品目毎ニ口座ヲ設クヘシ  
仕入物品受拂簿

年月日	摘要	仕入		仕出		金額		備考
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	

記載上ノ注意

一 品目毎ニ口座ヲ設クヘシ  
二 本帳簿ハ物品ノ仕入、賣却、現在高ヲ表ハスモノナリ  
購買物品賣却代金整理簿

年月日	摘要	数量	賣却代金	収入代金	未収入代金	延納期間	積數	延納利息	備考

氏名									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

記載上ノ注意

一 組合員毎ニ口座ヲ設クヘシ  
二 組合員ニ對スル賣却代金、収入代金、未収入代金ヲ表ハスモノナリ  
加工帳

年月日	摘要	加工前ノ物		加工後ノ物		加工料	備考
		受入	加工	残高	成品		

記載上ノ注意

一 加工品(成品)毎ニ口座ヲ設クヘシ  
加工整理簿

年月日	摘要	功	程	加工		収入金	未収入金	備考
				單	加			

記載上ノ注意

第十三章 産業 第六節 産業組合











注意

種類欄ニハ手形借入、當座預金借越、銀行、個人借入等ノ種別ヲ記載スヘシ

五、借入金利率

區別	利率
最高	
最低	
普通	

注意

一 總テ利率ハ年利ヲ以テ記載スルコト  
 二 「普通」ハ借入金(前年度未現在ヲ含ム)各口ニ付金額ニ其ノ借入日數ヲ乘シタル積ノ合計ヲ以テ利息ノ合計ヲ除シタル商ニ依ル但シ計算ヲ困難トスル組合ニ在リテハ主ナル借入金ニ對スル利率ニ依ルモ差支ナシ

六、損益計算

種目	金額	種目	金額
貸付金利息	圓	事務經費	圓
預金利息		報酬及手當	
土地收入		諸給料	

證券利息	販賣歩合金	假渡金利息	購買益金	利用料	何々	雜收入	小計	繰越金	合計
旅費	通信費	消耗品費	會議費	雜費	小計	其ノ他	借入金利息	貯金利息	什器時價損
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

七、總會又ハ總代會ノ決議  
 總會又ハ總代會ノ種類、開會ノ時期、施行規則、第二十七條ノ借入金額貸付金額及手形割引金額ノ最高限度其ノ他決議ノ要領等ヲ記載スル

コト

注意

本事業報告書ノ承認ヲ爲スヘキ總會又ハ總代會ニ於ケル事項ハ翌年度ノ事業報告書中ニ記載スルコト  
 八、事業ノ狀況

其ノ二 信用組合

一、貸付金及其ノ償還

區別	前年度未現在		本年度貸付		本年度償還		本年度未現在	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
區	無擔保	圓						
	有擔保							
業	無擔保							
	有擔保							
資	無擔保							
	有擔保							
濟	無擔保							
	有擔保							
金	無擔保							
	有擔保							
合計								

注意 一 物上擔保貸付ニ非サル貸付ハ無擔保貸付中ニ算入スヘシ

二 貸付ノ目的、擔保ノ種類ヲ附記スヘシ

三 本年度償還件數ノ内一部償還ヲ受ケタルモノノ件數ヲ傍書スヘシ



四 脱退者ニ對スル付金ニシテ未タ償還ヲ受ケサルモノヲ包含セル場合ハ其ノ件數及金額ヲ附記スルコト  
二、手形ノ割引及其ノ決済

手形	爲替	手形		約束		計	前年度末現在	本年度末現在	本年度割引	本年度決済	本年度末現在	
		有擔保	無擔保	有擔保	無擔保							
計							枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
合計												

注意 一 物上擔保割引ニ非サル割引ハ無擔保割引中ニ算入スルコト

二 擔保ノ種類ヲ附記スルコト

三、組合員ノ貯金

前年度末現在		本年度受入		本年度拂戻		本年度末現在	
員數	金額	員數	金額	員數	金額	員數	金額
人	圓	人	圓	人	圓	人	圓

注意 一 脱退者ノ貯金ニシテ未タ拂戻ヲ爲ササルモノヲ包含セル場合ニハ其ノ人員及金額ヲ附記スルコト

二 本年度末現在ヲ種類別ニ區別シ員數金額ヲ附記スルコト  
四、豫約者ノ數及其ノ貯金

前年度末現在		本年度受入		本年度拂戻		本年度末現在	
員數	金額	員數	金額	員數	金額	員數	金額
人	圓	人	圓	人	圓	人	圓

五、産業組合法第一條第三項及第四項ノ規定ニ依ル貯金

第一條第三項ノ規定ニ依ル貯金	第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金	計	前年度末現在		本年度受入		本年度拂戻		本年度末現在	
			員數	金額	員數	金額	員數	金額	員數	金額
組合員ト同一ノ家ニ在ルモノ	其他		人	圓	人	圓	人	圓	人	圓
合計										

注意 合計欄本年度末現在ヲ種類別ニ區別シ員數、金額ヲ附記スルコト

六、職業別貯金 (産業組合法第一條第四項ノ信用組合ニ限ル)

區別	農		商		其他		計	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額		
組合員ノ貯金	人	圓	人	圓	人	圓	人	圓















經濟用	何々								
小計	何々								
産業及經濟兩用	何々								
小計	何々								
合計	何々								

注意 備考欄ニハ設備、利用ノ方法ヲ簡單ニ記載スルコト

丁、剰餘金處分案

一金何圓	本年度總益金
一金何圓	本年度總益金
差引	本年度剰餘金
一金何圓	此處分
一金何圓	準備金
一金何圓	配當金
内金何圓	出資ノ拂込ニ充ツ
一金何圓	特別積立金
一金何圓	何々

注意 損失ノ場合ハ「損失金處分案」トシ「此處分」ヲ一金何圓翌年度繰越又ハ特別積立金ヨリ填補等トスルコト

右昭和何年度(第何年度)財産目録、貸借對照表、事業報告書及剰餘金處分案相違無之候也

昭和何年何月何日

何責任 何々組合

組合長 理事 氏 名

理事 氏 名

理事 氏 名

理事 氏 名

右書類ヲ精査シ其ノ確實ナルコトヲ承認シ且剰餘金處分案ニ同意致候也

### 第七節 物産陳列所

#### ●南洋廳物産陳列所出品規程

昭和何年何月何日

監事 氏 名

監事 氏 名

昭和四年八月十七日  
南洋廳告示第四號

- 第一條 本所ニ出品セムトスルキ又ハ出品物ヲ寄贈セムトスルキハ別記様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
- 出品物又ハ寄贈品ノ荷造運送ニ要スル一切ノ費用ハ出品人又ハ寄贈人ノ負擔トス但シ本所ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 本所ハ出品物ノ保管ニ關シ相當ノ設備ヲ爲スト雖天災、火災其ノ他不可抗力ニ因ル損害ニ對シ其ノ責ニ任セス
- 第三條 出品人ハ陳列ノ場所及陳列ノ方法等ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第四條 出品人出品物ノ取換ヲ爲サムトスルキハ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ申出ツヘシ
- 第五條 本所ハ商取引ノ仲介、斡旋或販路擴張上必要ナル調査ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ但シ此ノ場合特ニ費用ヲ要スルキハ依頼者之ヲ負擔スヘシ
- 前項ノ依頼ヲ爲サムトスル者ハ口頭又書面ヲ以テ其ノ所要事項ヲ申出ツヘシ

附則  
本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

出品(寄贈品)目録

番 號	品 名	數 量	價 額	摘 要

右出品(寄贈)致度候ニ付御許可相成度候也

昭和 年 月 日

住所

氏 名

商 號

注意

- 南洋廳物産陳列所長官氏名宛
- 一 出品目録ハ商品見本ト参考品トヲ別紙ニ記載スルコト
  - 二 商品見本ニ付テハ摘要欄へ「商品見本」ト明記シ及商取引ノ參考ナルヘキ事項ヲ簡單ニ記入スルコト
  - 三 参考品ニ付テハ摘要欄へ「参考品」ト明記シ及説明資料トナルヘキ事項ヲ簡單ニ記入スルコト







### 第十四章 遞信

#### 第一節 郵務

##### ● 遞信省令及告示準用ニ關スル件

大正十一年四月一日  
南洋廳令第六號

大正十一年勅令第三百三十五號ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ヲ準用ス

前項ノ省令及告示中遞信大臣又ハ遞信局長ノ職務ハ南洋廳長官之ヲ行フ

附則  
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### ● 廳令第六號ノ取扱ニ關シ遞信省所定ノ令達通牒ニ關スル件

大正十一年四月一日  
南洋廳令第一號

大正十一年南洋廳令第六號ノ取扱ニ關シテハ特ニ令達スルモノノ外遞信省所定ノ令達通牒ヲ準用ス

附則  
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### ● 南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關スル件

大正十一年三月三十一日  
勅令第三百三十五號

南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關シテハ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法、電信法、無線電信法及海底電信線保護萬國聯合條約則ニ依ル但シ此等ノ法律中主務大臣トアルハ南洋廳長官トス

附則  
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### ● 郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

明治四十三年三月十六日  
勅令第二十五號

改正 大正一四年第一二二號、昭和九年第三九五號  
國庫ノ支辨ニ屬スル年金及恩給ノ支給ニ關スル事務ハ遞信省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル  
第一項給與金ノ支給ニ關シテハ歲入金歲出金並歲入歲出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附則  
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### ●南洋廳郵便局ニ於テ取扱フ公衆通信業務ノ範圍

昭和十一年六月一日  
南洋廳告示第十號

南洋廳郵便局ニ於テ取扱フ公衆通信業務ノ範圍左ノ通定ム  
本告示ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十一年南洋廳告示第四號ハ之ヲ廢止ス

#### 一 郵便物ノ引受

但シ外國宛代金引換(日滿條約ニ依ルモノヲ除ク)、課金別納、本人票、締切豫告ノ特殊取扱ヲ爲サズ

#### 二 前記郵便物ノ窓口交付

但シ (イ)集金郵便ノ取立ハ窓口取立ニ限リ取扱フ

(ロ)左記區域ニ限リ配達(別配達及閉書)ヲ取扱フ

配達區域

配達局名

サイパン島(ドンニ、サブ、ラホホ、ホホ、ホホ)

サイパン

#### 三 爲替(日滿爲替及外國)ノ振出、拂渡及拂戻

但シ航空送達及到着外國通常爲替ノ別配達ヲ取扱ハズ  
貯金ノ預入及拂戻

#### 四 但シ月掛貯金預入ノ取扱ヲ爲サズ

#### 五 振替貯金ノ拂込及拂渡

但シ休日、日曜日(十二月二十九日ヨリ同三十一日)一月一日迄ノ間ニ於ケル日曜日ヲ除ク

同二日及始政紀念日ニハ其ノ取扱ヲ爲サズ

四、郵便物搭載ノ艦船等發着ノ際及其ノ他必要ト認ムルトキハ前各號ノ規定ニ拘ラス臨時之カ取扱ヲ爲ス其ノ取扱日時ハ其ノ都度當該郵便局ニ於テ之ヲ揭示ス

### ●南洋廳郵便局ニ於テ使用スル名勝史蹟等ニ因メル日附印ノ件

昭和九年十月一日  
南洋廳告示第十八號

改正 昭和十二年第五號

南洋廳郵便局ニ於テハ明治四十二年逓信省告示第千三百八十六號ニ依ルモノノ外左記ニ依リ名勝史蹟等ニ因メル圖案ヲ挿入シタル通信日附印ヲ使用ス

#### 一、使用方法

- 料金を完納シタル書狀無封ノ書及郵便繪葉書ノ引受ニ使用ス但シ其ノ希望ヲ以テ郵便局窓口ニ差出シタルモノニ限ル
- 料金を完納シタル郵便葉書並記念ノ目的ヲ以テ二錢以上ノ郵便切手ヲ貼付シタル物件ニ對シ消印ノ需ニ應ス
- 二、使用局、形式、使用開始期日

#### 六 年金恩給ノ支給

六ノ二 振替貯金特別取扱ニ依ル簡易生命保險及郵便年金業務

#### 七 内國並日滿和歐文電報及外國電報

但シ郵船配達、サイパン島以外ノ別使配達及南洋群島各島ト南洋群島以外ノ各地間ニ發着スル新聞電報ノ豫約取扱(ヤップ島ト内地間ニ)後納取扱並外國新聞電報ノ取扱ヲ爲サズ

#### 八 電話(特ニ指定シタル局ニ限ル)

#### 九 郵便切手類及收入印紙ノ賣捌

### ●南洋廳郵便局事務取扱時間

大正十二年十二月二十一日  
南洋廳告示第十五號

改正 昭和二年第七號

大正十三年一月一日ヨリ南洋廳郵便局ニ於ケル郵便、電報、電話、郵便爲替、郵便貯金及其ノ他ノ各種現金受拂事務ノ取扱時間ハ特ニ定ムル場合ノ外左ノ通トス

#### 一、郵便、電報受付

午前七時ヨリ午後八時迄

#### 二、電話通話

何時ニテモ取扱フ但シ郵便局内設置ノ公衆電話ニ依ルモノハ午前七時ヨリ午後八時迄トス

#### 三、郵便爲替、郵便貯金及其ノ他ノ各種現金受拂事務

三月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ正午十二時迄

十一月一日ヨリ翌年二月末日迄

午前八時ヨリ午後三時迄

使用局 日附印形式 使用開始年月日

パラオ



昭和九年十月一日

アングウル



昭和九年十月一日